

Ⅲ シラバス

2021年度以降入学生

科目名	授業形態	受講年次	学期	単位		科目担当者	ページ
				必修	選択		
学びの理解	講義	1	前	1		木津 由美子、○山部 秀子、飯田 直弘	51
論理的思考	講義	1	前	2		崔 昌鳳	53
情報処理	演習	1	前	1		末光 厚夫	55
統計分析法	演習	1	後	1		末光 厚夫	57
情報リテラシー	演習	1	後	1		安念 保昌	59
生物学A・B	講義	1	前		1	津久井 隆行 松川 典子	61
基礎化学	講義	1	前	2		津久井 隆行	63
英語Ⅰ(基礎)A	演習	1	前	1		松尾 文子	65
英語Ⅰ(基礎)B	演習	1	前	1		竹内 康二	67
英語Ⅰ(基礎)C	演習	1	前	1		大西 三佳子	69
英語Ⅱ(会話)	演習	1	後	1		David Flenner Peter Reemst Coxford Richard Michael	71
表現技法Ⅰ(読解・分析)A	演習	1	前	1		高木 維	73
表現技法Ⅰ(読解・分析)B	演習	1	前	1		安永 立子	75
表現技法Ⅰ(読解・分析)C	演習	1	前	1		錦戸 葵	77
表現技法Ⅱ(討議・発表)A	演習	1	後	1		高木 維	79
表現技法Ⅱ(討議・発表)B	演習	1	後	1		安永 立子	81
表現技法Ⅱ(討議・発表)C	演習	1	後	1		錦戸 葵	83
心理学	講義	1	前	2		安念 保昌	85
倫理学	講義	1	前	1		村上 友一	87
生態学	講義	1	前		1	立澤 史郎	89
スポーツ科学と運動	演習	1	後		1	大浦 浩	91
スポーツ理論	講義	1	後		1	大浦 浩	93
地域社会文化論	講義	1	後		2	澤井 玄	95
法と人権	講義	1	後		2	神元 隆賢	97
生涯発達論	講義	1	後		1	安念 保昌	99
人間関係論	講義	1	前	1		安念 保昌	101
特別総合科目	演習	1	通		1	百々瀬 いづみ 他	103
形態機能学Ⅰ	講義	1	前	2		金高 有里、千葉 仁志	104
形態機能学Ⅱ	講義	1	後	2		千葉 仁志	106
有機化学	講義	1	前		2	津久井 隆行	108
微生物学	講義	1	後	2		濱岡 直裕	110
微生物学実験	実験	1	後	1		濱岡 直裕	112
生化学Ⅰ	講義	1	後	2		森山 隆則	114
食品科学Ⅰ	講義	1	前	2		松川 典子	116
食品科学Ⅱ	講義	1	後	2		板垣 康治	118
食品科学実験Ⅰ	実験	1	後	1		松川 典子、津久井 隆行	120
調理学	講義	1	前	2		坂本 恵	122
調理学実習Ⅰ	実習	1	前	1		坂本 恵	124
調理学実習Ⅱ	実習	1	後	1		坂本 恵	126
管理栄養士論	講義	1	前	1		○山部 秀子、岩部 万衣子、○榎本 浩司、○氏家 志乃、○渡辺 いづみ、	128
基礎栄養学	講義	1	後	2		松川 典子	130
食育農場演習	演習	1	通		1	○百々瀬 いづみ	132
地域連携ケア論Ⅰ	講義	1	後	1		○榎本 浩司、澤田 優美、○氏家 志乃、小川 克子	134
英語Ⅲ(読解)	演習	2	前		1	松尾 文子	137
英語Ⅳ(総合)	演習	2	後		1	松尾 文子	139
社会貢献と活動	演習	2	前		1	岩本 希	141
生活環境論	講義	2	前		2	江本 匡	143
現代社会論	講義	2	前	2		翁 康健	145
国際社会論	講義	2	後		1	翁 康健	148
教育学	講義	2	後		1	加藤 隆	150
文学と人間	講義	2	後		1	畠山 瑞樹	152
生命倫理	講義	2	前		1	森口 眞衣	154
医療概論	講義	2	前		2	○千葉 仁志	156
健康管理概論	講義	2	後	2		○千葉 仁志	158
公衆衛生学	講義	2	前	2		板垣 康治	160
公衆衛生学実習	実習	2	後	1		濱岡 直裕、板垣 康治	162
形態機能学実習Ⅰ	実習	2	前	1		金高 有里	164
形態機能学実習Ⅱ	実習	2	後	1		金高 有里	165
病理学	講義	2	前	2		家子 正裕	167

科目名	授業形態	受講年次	学期	単位		科目担当者	ページ
				必修	選択		
生化学Ⅱ	講義	2	前	2		津久井 隆行	169
生化学実験	実験	2	前	1		津久井 隆行	171
病態診療学Ⅰ	講義	2	後	2		○千葉 仁志	173
食品科学Ⅲ	講義	2	後		2	板垣 康治	175
食品衛生学	講義	2	前	2		濱岡 直裕	177
食品衛生学実験	実験	2	前	1		濱岡 直裕	179
基礎栄養学実験	実験	2	前	1		松川 典子	181
応用栄養学Ⅰ	講義	2	前	2		岩部 万衣子	183
応用栄養学Ⅱ	講義	2	後	2		岩部 万衣子、金高 有里	185
スポーツ栄養学総論	講義	2	後		1	○千葉 昌樹、松本 恵	187
栄養教育論Ⅰ	講義	2	前	2		○百々瀬 いづみ	188
栄養教育論Ⅱ	講義	2	後	2		○百々瀬 いづみ	190
食育実践演習	演習	2	通		1	○百々瀬 いづみ	192
臨床栄養学Ⅰ	講義	2	後	2		○氏家 志乃	194
給食経営管理論Ⅰ	講義	2	前	2		○山部 秀子、○渡辺 いつみ	196
給食経営管理論Ⅱ	講義	2	後	2		○山部 秀子、○渡辺 いつみ	198
給食経営管理論実習Ⅰ	実習	2	後	1		○山部 秀子、○渡辺 いつみ	200
地域連携ケア論Ⅱ	講義	2	前	1		○榎本 浩司、○氏家 志乃、澤田 優美、小川 克子	202
保健医療福祉行政論	講義	3	後	1		○千葉 昌樹	205
病態診療学Ⅱ	講義	3	前	2		○千葉 仁志	206
食品科学実験Ⅱ	実験	3	前	1		荒川 義人	208
応用栄養学Ⅲ	講義	3	前	2		岩部 万衣子	210
応用栄養学実習	実習	3	後	1		岩部 万衣子	212
免疫と栄養	講義	3	後		1	板垣 康治	214
スポーツ栄養学(基礎)	講義	3	前		1	東郷 将成	216
スポーツ栄養学(応用)	講義	3	後		1	松本 恵	217
スポーツ栄養学演習	演習	3	通		1	榎本 浩司、千葉 昌樹、松本 恵	218
栄養教育論Ⅲ	講義	3	前	2		岩部 万衣子、板垣 康治	220
栄養教育論実習	実習	3	後	1		○百々瀬 いづみ	222
栄養カウンセリング演習	演習	3	前		1	○岡本 智子	224
食生活論	講義	3	前		2	白崎 佳美	226
食育指導論	講義	3	後		2	白崎 佳美	228
臨床栄養学Ⅱ	講義	3	前	2		○氏家 志乃	230
臨床栄養学Ⅲ	講義	3	後	2		○岡本 智子	232
臨床栄養学実習Ⅰ	実習	3	前	1		○氏家 志乃	234
臨床栄養学実習Ⅱ	実習	3	後	1		○氏家 志乃	236
公衆栄養学Ⅰ	講義	3	前	2		○榎本 浩司	238
公衆栄養学Ⅱ	講義	3	後	2		○榎本 浩司	240
公衆栄養学実習Ⅰ	実習	3	後	1		○榎本 浩司	242
総合演習Ⅰ	演習	3	通	1		○山部 秀子、○渡辺 いつみ、○岡本 智子、○榎本 浩司	244
英語文献講読演習	演習	3	後		1	松川 典子、板垣 康治、津久井 隆行	246
地域連携ケア論Ⅲ	講義	3	前	1		○氏家 志乃、○榎本 浩司、澤田 優美、小川 克子	248
給食経営管理論実習Ⅱ	実習	3	前	1		○山部 秀子、○渡辺 いつみ	250
食品機能学	講義	4	前		2	松川 典子	251
管理栄養士総合演習	演習	4	通	1		坂本 恵、荒川 義人、板垣 康治、○岡本 智子、○千葉 仁志、濱岡 直裕、○百々瀬 いづみ、○山部 秀子、金高 有里、○榎本 浩司、松川 典子、岩部 万衣子、○氏家 志乃、津久井 隆行、○渡辺 いつみ	253
臨床栄養学Ⅳ	講義	4	前	2		○岡本 智子	255
臨床栄養学実習Ⅲ	実習	4	前	1		○岡本 智子	257
栄養サポートチーム論	講義	4	後		1	○岡本 智子、○氏家 志乃、看護学科教員	259
地域栄養活動演習	演習	4	前		1	○榎本 浩司	261
総合演習Ⅱ	演習	4	前	1		○百々瀬 いづみ、板垣 康治、○岡本 智子、坂本 恵、○千葉 仁志、濱岡 直裕、○山部 秀子、金高 有里、○榎本 浩司、松川 典子、岩部 万衣子、○氏家 志乃、津久井 隆行、○渡辺 いつみ	263
卒業研究	演習	4	通		2	坂本 恵、安念 保昌、板垣 康治、○岡本 智子、加藤 隆、○千葉 仁志、濱岡 直裕、○百々瀬 いづみ、○山部 秀子、金高 有里、○榎本 浩司、松川 典子、○氏家 志乃、津久井 隆行、○渡辺 いつみ	264
地域連携ケア論Ⅳ	講義	4	後	1		澤田 優美、○榎本 浩司、○氏家 志乃、小川 克子	267
給食経営管理論実習Ⅲ	実習	4	通		1※	○山部 秀子、○百々瀬 いづみ、○渡辺 いつみ	269
公衆栄養学実習Ⅱ	実習	4	通		1※	○榎本 浩司	270
臨床栄養学実習Ⅳ	実習	4	通	2		○岡本 智子、○氏家 志乃	271
臨床栄養学実習Ⅴ	実習	4	通	2		○岡本 智子、○氏家 志乃	272

※ 選択必修：どちらかの科目を必ず履修すること。他の選択科目で代替えは出来ません。

栄養教諭一種免許取得に必要な教職科目

科目名	授業形態	受講年次	学期	単位		科目担当者	ページ
				必修	選択		
教職概論	講義	1	前		2	加藤 隆	273
教育原理	講義	1	後		1	加藤 隆	275
教育制度論	講義	1	後		1	明田川 知美	277
教育課程論	講義	2	前		1	松田 剛史	278
教育方法論	講義	2	前		1	松田 剛史	280
道徳教育論	講義	2	前		1	加藤 隆	282
特別活動・総合的学習指導論	講義	2	後		1	高橋 公平	284
生徒指導論	講義	2	後		1	佐藤 憲夫	285
特別支援教育概論	講義	3	後		1	松井 由紀夫	287
教育心理学	講義	3	前		2	安念 保昌	288
教育相談論	講義	3	後		2	川俣 智路	290
栄養教育実習事前・事後指導	実習	4	通		1	加藤 隆、○百々瀬 いづみ、岩部 万衣子	292
栄養教育実習	実習	4	通		1	加藤 隆、○百々瀬 いづみ、岩部 万衣子	294
教職実践演習	演習	4	後		2	加藤 隆、○百々瀬 いづみ、岩部 万衣子	295

- (注) 1. 科目の責任者は科目担当者の先頭記載者
 2. ○印は学科所属の専任教員で医師、管理栄養士、栄養士、臨床検査技師を経験している実務経験者

授業科目	学びの理解 Understanding of Study at Tertiary Level		担当教員	木津 由美子、山部 秀子、飯田 直弘				
対象学科・年次・学期	看護学科/栄養学科・1年次・前期		選択・必修	必修				
授業形態	講義		単位数	1単位				
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
	◎	○	○	○			○	○
授業目的	大学（高等教育）での学びの出発点として、学士力「文化・社会に関する知識・理解」「社会人に必要な汎用的技能」「態度・志向性」「創造的思考力」を修得する意義、および専門職業人としての学習態度や倫理観、職業観を身につける重要性を認識する。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学業を中心とした大学生活全般の自己管理能力と自律的な学習態度を培う。 2. 社会人として、医療人として求められる社会的責任と行動、職業観の形成を促す。 3. 現代の保健医療に係る課題と医療人としての社会的貢献のあり方について考える。 4. 医療人としての看護職と管理栄養士の役割と連携を理解し、共同体意識を形成する。 5. 4年間の大学生活での目標を確認し、自己の課題と学習計画を考える。 6. コミュニケーション・スキル、論理的思考と問題解決力を修得する意義を理解する。 7. 社会人・職業人としての汎用的スキルの意味と活用するための基礎を理解する。 							
関連科目	論理的思考や表現技法をはじめこれから履修する科目すべてに関連する。							
テキスト	指定テキストはなし。授業内で資料を配付する。							
参考書	授業内で随時提示する。							
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点					
	試験		目標の到達状況を下記の点から評価し、60点以上を合格とする。 ①レポート (80点) ・到達目標に関するレポート課題を課し、学修の到達度を評価する。 ②提出物 (20点) ・講義において課題を課し、提出物 (20点)として学修の到達度を評価する。					
	レポート	80						
	小テスト							
	提出物	20						
その他								
履修上の留意事項	参考文献は随時提示する。 レポートと課題の提出方法は、各教員の講義最終時に提示する。 レポートや課題は、指定された期限を守って提出する。							
課題に対するフィードバックの方法	提出物には、コメントを付して返却する。							
実務経験を活かした教育内容	医療職と大学教育の講義の際は、実務経験者の立場から、看護師・管理栄養士の教員の経験談を織り交ぜながら、どのような専門職をめざすのか具体的なイメージができるように授業をします。							
回数 (担当)	学習の主題	授業内容				事前・事後学習		
1 (木津)	大学での学び方	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 大学教育（高等教育）の目的と共通能力「学士力」の育成 3. 自律的学習の実践：「学習活動の手引き」 4. 学ぶ力とは：「感じる」「表現する」「伝える」「共有する」 				事前：シラバスを読み、履修上の疑問点を明らかにしておく（1時間）。 事後：大学で学ぶ意味について自分の考えをまとめる（2時間）。		
2 (木津)	学士力と本学教育理念「人間力」	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人間力とは 2. 社会人・医療人に求められる資質・能力とは 3. 自律的学習の実践：文献の活用 *本学図書館の支援協力を受ける 				事前：「本学で学ぶ意義」について A5 版用紙に 250 字程度にまとめる（2時間）。 事後：図書館の文献検索の課題を実施し記載する（1時間）。		
3 (木津)	学ぶ力の体験学習「いのち」「人が社会で生きること」	<ol style="list-style-type: none"> 1. DVD「赤ちゃんの運命を決めるもの」視聴 2. 個人学習：DVDの内容について「感じたこと」「考えたこと」を記載 3. グループ学習：各自で「感じたこと」「考えたこと」をグループで「表現する」「伝える」「共有する」 				事前：大学で必要な能力について自分の考えをまとめる（2時間）。 事後：「いのち」「人が社会で生きること」に関して自己の学びを指定用紙にまとめる（2時間）。		
4 (飯田)	大学（高等教育）で学ぶこと (1)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高等教育の現状と将来像 2. 教授法と教育評価①：学習指導と授業の多様な形態 3. 教授法と教育評価②：教育評価の理論と方法 				事前：高校までの自己の学修方法について振り返りまとめる（2時間）。 事後：高校と大学の学びは、どのような点が違うのかまとめる（2時間）。		

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
5 (飯田)	大学（高等教育）で学ぶこと（2）	1. 多様な学力観・能力観①：国内外の多様な能力・資質の枠組み（コミュニケーション・スキル、論理的思考力、問題解決力など） 2. 多様な学力観・能力観②：能力や知能に関する理論 3. 創造力とは 4. コンピテンシー・テスト	事前：汎用的スキルとは何か調べてノートにまとめる(2時間)。 事後：前回の授業で学んだことを復習し、将来汎用的スキルを活用する場面をシミュレーションする(2時間)。
6 (山部)	医療職と大学教育（1）	1. 保健医療に係る現代の課題と医療職の役割 2. 管理栄養士の役割	事前：管理栄養士について調べてノートにまとめる(2時間)。 事後：医療職が大学で学ぶ意義について、自分の考えをまとめる(2時間)。
7 (木津) (山部)	医療職と大学教育(2)	1. 看護職の役割 2. グループ学習：看護職と管理栄養士の役割の共通性と相違性、同じ大学で学ぶ意義について意見交換 3. グループ発表	事前：看護職について調べてノートにまとめる。(2時間)。 事後：医療職が大学で学ぶ意義について自分の考えをまとめる(2時間)。
8 (木津) (山部)	大学で学ぶ目標と課題の共有	1. グループ学習 1)学びの目標をもつ(どんな看護職・管理栄養士になりたいか) 2)目標実現のために為すべきこと、大切にすること 2. グループ発表	事前：どんな看護職・管理栄養士になりたいか自分の考えをノートにまとめる(2時間)。 事後：グループ学習からの学びをまとめ指定用紙に記載する(2時間)。

授業科目	論理的思考 Introduction to Logic				担当教員	崔 昌鳳			
対象学科・年次・学期	栄養学科・1年次・前期				選択・必修	必修			
授業形態	講義				単位数	2単位			
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6	
		◎							
授業目的	本科目は、学生諸君に人間の日常的活動のひとつである推論という営みについて理解を深めてもらい、それを通じて、各自が様々な問題に対し論理的・批判的に考えるスキル及び、それを適切に表現する術を身につけることを目的とする。								
到達目標	1. 様々な文章中に、どのような推論が含まれているかを見出し、明示的に書き換える技術を身につける。 2. 様々な推論事例について、批判的に考察する技術を身につける。 3. 論理的に正しい推論を自ら構成できるようになる。								
関連科目	1年前期で学修する「学びの理解」「表現技法Ⅰ」、後期の「表現技法Ⅱ」に関連する。								
テキスト	必要に応じて資料を配付する。								
参考書	戸田山和久「論文の教室：レポートから卒論まで」(NHK 出版) 野矢茂樹「新版論理トレーニング」(産業図書)								
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点						
	試験	70	目標への到達状況についての総合的な判断に基づき評価する。判断材料となるのは各回の小テストと提出物、および、定期試験結果である。						
	レポート								
	小テスト	20							
	提出物	10							
その他									
履修上の留意事項	授業中に課題演習を課す。演習に取り組む際には、与えられた課題について自分で考えることが要求される。課題演習の「解答」を単に覚えるだけではほとんど学習効果は得られないものと心得ておいていただきたい。演習はフォームを利用して行う。そのため、毎回 PC を持参してくるよう。								
課題に対するフィードバックの方法	課題に関しては、模範回答例を提示し、また各学生の回答を比較検討したうえで、よく見受けられる誤解の例について、それがなぜ間違っているのか、また、正しく考えるにはどうしたらよいかを教示する。なお、なお課題に限らず、チームズ内で常時、質問を受けつけるので、わからないことがあれば遠慮なく質問するように。								
実務経験を活かした教育内容									
回数 (担当)	学習の主題	授業内容				事前・事後学習			
1	授業概要 - 「論理的思考とはなにか」	授業内容及び成績評価法について概説する。				(2時間) 講義内容をノートにまとめておくこと。			
2	主張と根拠 ---情報の取捨選択	資料に基づいて文章を作成する演習を行う。配布する資料には、種々雑多な情報を載せているが、指定した内容の文章を書くために、自ら情報を取捨選択する必要がある。				(5時間) 講義中に指示した条件を守った文章をフォームで提出すること。締め切りは次回の前日までとする。			
3	主張と根拠 ---筋道を明確に	第2回で作成した文章を題材に、筋道が明確にわかるような文章を書くために必要な事柄について講義する。明確な筋道をもつ文章を書く技術は、論理的思考を身につける上で大前提となる必須スキルである。				(5時間) 講義内容をふまえて、次回までに課題文章を修正し、書きあげてくること。			
4	論理パズル その1	講義冒頭で演習問題を提示し、その解答をフォームで提出してもらおう(提出は次回まで)。講義時間中は、4~5名の学生でグループを構成し、グループ内での議論を通じて正解にたどり着くことを目標としてもらう。				(4時間) 演習問題の解答を作成し、次回までにフォームで提出すること。解答には、答えだけではなく、なぜその答えが正しいのかについての考察を含める必要がある。			
5	論理パズル その2	第4回で提示した演習問題を題材に、複雑な状況を表を用いて明晰化する手法について解説する。				(4時間) 講義内容をふまえて、演習問題への解答を再度、作成し、次回提出すること。			
6	事実判断と価値判断	事実判断と価値判断の違いについて概説する。				(4時間) 復習用演習問題(講義後にフォームのURLを提示)への回答を次回までに提出すること。			

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
7	価値判断詳論	諸々の価値判断（道徳判断、美的判断など）の特徴について詳説する。	（4時間）復習用演習問題（講義後にフォームのURLを提示）への回答を次回までに提出すること。
8	事実と意見	事実と意見の違いとこれらについて講義する。	（4時間）復習用演習問題（講義後にフォームのURLを提示）への回答を次回までに提出すること。
9	事実と意見 その 2	事実と意見を混在させることの危険性について、具体例をもとに講義する。	（4時間）復習用演習問題（講義後にフォームのURLを提示）への回答を次回までに提出すること。
10	接続関係・接続表現	代表的な接続関係と接続表現について講義し、そののち、課題問題に取り組んでもらう。	（5時間）接続表現を適切に使った文章を書きあげ、フォームで提出すること
11	接続関係・接続表現	様々な文章例を提示し、そこに現れる各文がどのような接続関係にあるのか考察してもらおう。	（3時間）復習用演習問題（講義後にフォームのURLを提示）への回答を次回までに提出すること。
12	誤謬推論	日常的に間違えやすい推論パターンを提示し、なぜ、それが間違っているのかについて講義する。	（5時間）誤謬推論の例を講義終了時に提示する。提示された例がなぜ「誤謬」推論なのか、その理由を考察し、次回までにその理由を記した文章を作成すること。
13	演繹と仮説	仮説形成とその検証について概説し、演繹と推測の関連性について講義する。	（3時間）仮説形成型の推論事例を最低三つ自分で構成し、フォームで提出すること。
14	知識と論理	以下のトピックについて講義を行う。 1. 「真であることを信じること」と「知っていること」の違い 知識論理パズル	（4時間）知識論理パズルの解答を作成し、次回、提出すること。
15	総合演習	第1回から第14回までの講義内容に関して理解を深めてもらうための課題演習を行う。	（5時間）各回で扱った話題について、各自で復習すること。

授業科目	情報処理 Information Processing		担当教員	末光 厚夫				
対象学科・年次・学期	栄養学科・1年次・前期		選択・必修	必修				
授業形態	演習		単位数	1単位				
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
		◎						
授業目的	本科目では、基礎的な情報処理能力とコンピュータリテラシーを習得し、他の科目に適用できることを目指す。演習を通じて、ワープロソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの使い方とインターネットを活用した情報収集やコミュニケーションの方法を学ぶ。							
到達目標	1. PCの基礎的な使い方、電子メールやインターネットの活用法を習得する。 2. Word、Excel、PowerPointの基本的操作を習得する。							
関連科目	PCを使用する全ての科目が関連科目である。							
テキスト	授業時に資料を配付する。							
参考書	富士通エフ・オー・エム「よくわかる Word2019 & Excel2019 & PowerPoint2019」(FOM 出版)							
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点					
	試験		4回のレポート(100%)でPCの基礎的な使い方と、Word、Excel、PowerPointの基本的操作が習得できているか評価する。					
	レポート	100						
	小テスト							
	提出物							
その他								
履修上の留意事項	事前学習は特に必要ないが、授業で習った内容については、次週までに習得できるように復習しておくこと。							
課題に対するフィードバックの方法	レポートは、提出締切後に解答を示して、解説をする。							
実務経験を活かした教育内容								
回数(担当)	学習の主題	授業内容					事前・事後学習	
1	PCの基礎的な使い方	本科目の目的と構成について理解し、各回の位置づけを確認する。 授業で使用するPCの基礎的な操作方法(PCの起動と終了、マウス・キーボードの操作、ファイルの保存など)を学ぶ。					事前:シラバスを確認する(30分)。 事後:講義内容を復習する(30分)。	
2	電子メールの利用とタイピング	1. 電子メールの利用方法を習得する。 2. タイピングの方法を学ぶ。					事後:講義内容を復習する(1時間)。	
3	インターネットの活用とマナー	1. ブラウザを利用したインターネット検索の方法を学ぶ。 2. インターネットを使用する際のマナーを理解する。					事後:講義内容を復習し、課題を完成して提出する(1時間)。	
4	Wordの基本(1)	1. Wordの基礎知識を習得する。 2. 文字入力の方法を理解する。					事後:講義内容を復習する(1時間)。	
5	Wordの基本(2)	文書作成における基本的操作(文字のコピー・移動、配置、装飾、書式)を理解する。					事後:講義内容を復習する(1時間)。	
6	Wordの基本(3)	グラフィック機能(オンライン画像、図、図形、ワードアート)を使用した文書作成の方法を理解する。					事後:講義内容を復習する(1時間)。	
7	Wordの基本(4)	1. 表を使用した文書作成の方法を理解する。 2. 学習したWordの機能を活用して文書を作成する。					事後:講義内容を復習し、課題を完成して提出する(1時間)。	
8	Excelの基本(1)	1. Excelの基礎知識を習得する。 2. データ入力の方法を理解する。					事後:講義内容を復習する(1時間)。	
9	Excelの基本(2)	1. 表の作成の方法を理解する。 2. 表計算機能(四則計算、関数など)を理解する。					事後:講義内容を復習する(1時間)。	
10	Excelの基本(3)	グラフ(棒グラフ、円グラフなど)の作成の方法を理解する。					事後:講義内容を復習する(1時間)。	
11	Excelの基本(4)	1. データベース機能を理解する。 2. 学習したExcelの機能を活用してデータ処理を行う。					事後:講義内容を復習し、課題を完成して提出する(1時間)。	

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
12	PowerPoint の基本 (1)	1. PowerPoint の基礎知識を習得する。 2. スライド作成の基礎を理解する。	事後：講義内容を復習する (1 時間)。
13	PowerPoint の基本 (2)	テキスト、オンライン画像、図、図形、表、SmartArt を使用したスライドの作成の仕方を理解する。	事後：講義内容を復習する (1 時間)。
14	PowerPoint の基本 (3)	画面切り替え、アニメーション、スライドショーの機能を理解する。	事後：講義内容を復習する (1 時間)。
15	PowerPoint の基本 (4)	1. プレゼンテーションのやり方の基本を理解する。 2. 学習した PowerPoint の機能を活用して、プレゼンテーション用の資料を作成する。	事後：講義内容を復習し、課題を完成して提出する (1 時間)。

授業科目	統計分析法 Statistical-analytical Method		担当教員	末光 厚夫				
対象学科・年次・学期	栄養学科・1年次・後期		選択・必修	必修				
授業形態	演習		単位数	1単位				
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
		◎						
授業目的	収集したデータの特徴を明らかにするための統計分析の手法について学ぶとともに、コンピュータを使用して統計分析を実行する方法を学ぶ。演習を通じて、特徴の数値化、各種データのグラフ化、統計的推定・統計的検定などの統計処理、調査データの処理方法などについて習得する。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 統計学の体系について理解し、データの種類と特性について理解する。 2. 記述統計学の基礎を理解し、Excelを使用した統計処理方法を習得する。 3. 推測統計学の基礎を理解し、Excelを使用した統計処理方法を習得する。 4. 調査データの処理方法の基礎を習得する。 							
関連科目	公衆衛生学、公衆衛生学実習、保健医療福祉行政論が関連科目である。							
テキスト	授業時に資料を配付する。							
参考書	<ol style="list-style-type: none"> 1. 白砂堤津耶「例題で学ぶ初歩からの統計学」(日本評論社) 2. 菅民郎「Excelで学ぶ統計解析入門」(オーム社) 3. 石村園子「すぐわかる確率・統計」(東京図書) 4. 上田拓治「44の例題で学ぶ統計的検定と推定の解き方」(オーム社) 							
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点					
	試験	60	毎回の講義において、講義内容の理解度を評価するために、提出物(40%)として、演習課題を課す。定期試験(60%)では、統計学の基礎知識の理解度を評価するとともに、一部実技試験を通して、Excelを使用した統計処理方法の習熟度も評価する。					
	レポート							
	小テスト							
	提出物	40						
その他								
履修上の留意事項	統計分析法の学習とExcelを使用したデータ処理方法の修得は表裏一体であることから、繰り返し練習すること。							
課題に対するフィードバックの方法	演習課題は、提出締切後に解答を示して、解説を行う。							
実務経験を活かした教育内容								
回数(担当)	学習の主題	授業内容				事前・事後学習		
1	統計学とは	本科目の構成と指針について説明し、統計学発展の歴史、目的と有用性、統計分析手法の体系などを概説したうえで、各回の位置づけを確認する。				事前:シラバスを確認する(30分)。事後:講義内容を復習する(30分)。		
2	記述統計学の基礎(1)	各種調査で収集したデータの種類を理解し、それらの性質について学ぶ。Excelを使用してデータから度数分布表やヒストグラムを作成する方法などを習得する。				事後:講義内容を復習する(1時間)。		
3	記述統計学の基礎(2)	分布の中心を表す代表値、ばらつきを表す四分位範囲、箱ひげ図と異常値の識別、偏差、分散、標準偏差などの考え方について理解し、Excelを使用した計算方法も習得する。				事後:講義内容を復習する(1時間)。		
4	記述統計学の基礎(3)	変動係数、Zスコア、偏差値、分布の歪度、尖度などについて学び、Excelの分析ツールを使用して記述統計量を算出する方法も習得する。				事後:講義内容を復習する(1時間)。		
5	推測統計学への準備(1)	統計的推定・検定のための準備として、確率の考え方を理解する。確率、確率変数、確率分布、確率変数の平均値、分散、確率変数の標準化などの考え方を理解し、Excelを使用した計算方法を習得する。				事後:講義内容を復習する(1時間)。		
6	推測統計学への準備(2)	重要な確率分布(二項分布、正規分布、標準正規分布、t分布、 χ^2 分布、F分布など)の特徴と適用する分析手法、計算方法を理解する。				事後:講義内容を復習する(1時間)。		

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
7	推測統計学への準備 (3)	母集団と標本、母数と統計量の理解、さらに標本を得るための標本抽出について学ぶ。正規母集団、母数、統計量と標本分布、推定量と推定値、中心極限定理などの概念を理解する。	事後：講義内容を復習する（1 時間）。
8	統計的推定の基礎 (1)	統計量から母数を統計的に推定する方法を学ぶ。推定のための用語、点推定と区間推定、信頼係数と信頼区間の考え方、推定方法などについて理解する。	事後：講義内容を復習する（1 時間）。
9	統計的推定の基礎 (2)	正規母集団の母平均の推定（母分散既知／未知）、小標本における母平均の推定、母分散の推定、母比率の推定などについて理解し、Excel を使用した推定の計算方法を習得する。	事後：講義内容を復習する（1 時間）。
10	統計的検定の基礎 (1)	ある仮説が正しいか否かを無作為抽出した標本に基づいて統計的に判断する検定の考え方を学ぶ。帰無仮説、対立仮説、有意水準、棄却域、臨界値、p 値、仮説の採択および棄却、片側検定と両側検定などについて理解する。	事後：講義内容を復習する（1 時間）。
11	統計的検定の基礎 (2)	第Ⅰ種の過誤と第Ⅱ種の過誤の考え方を学ぶ。母平均の検定、母平均の差の検定、母分散の検定などについて理解し、Excel を使用した検定の計算方法を習得する。	事後：講義内容を復習する（1 時間）。
12	統計的検定の基礎 (3)	等分散の検定、母比率の検定、母比率の差の検定などについて理解し、Excel を使用した検定の計算方法を習得する。	事後：講義内容を復習する（1 時間）。
13	相関分析	2 変数間の関係を分析する手法を学ぶ。相関図、相関係数、クラメル連関係数、順位相関係数、無相関の検定、独立性の検定などについて理解し、それぞれの統計処理の手順を習得する。	事後：講義内容を復習する（1 時間）。
14	調査データの集計と分析	Excel を使用した調査データの入力方法、ピボットテーブルによるクロス集計表の作成の手順を学ぶ。また、作成したデータを用いて、グラフ化や検定などの統計処理を行い、統計分析の手法の一連の手順を確認する。	事後：講義内容を復習する（1 時間）。
15	SPSS 統計パッケージの活用	Excel に入力されたデータを SPSS 統計パッケージで活用し分析するための基本的な手順と出力結果の見方について学ぶ。	事後：講義内容を復習する（1 時間）。

授業科目	情報リテラシー Information Literacy		担当教員	安念 保昌				
対象学科・年次・学期	栄養学科・1年次・後期		選択・必修	必修				
授業形態	演習		単位数	1単位				
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
	○	◎						
授業目的	コンピュータや情報通信ネットワーク及び情報社会に関する知識や理論を学習し、情報の発信・加工、ビッグデータの収集・分析の基礎能力を身につけ、データサイエンスの入り口に立つことを目的とする。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 情報倫理について理解する。 2. 情報通信とセキュリティについて理解する。 3. 情報加工・発信のリテラシーを習得する。 4. アンケートデータの収集の仕方と分析を修得する。 5. グループでのコラボレーションのリテラシーを習得する。 							
関連科目	情報処理、統計分析法							
テキスト	前もって配信される授業資料							
参考書	適宜紹介する。							
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点					
	試験		毎回復習として課されるワークシートにて、授業内容のエッセンスを自分のエピソード記憶と融合させ、文章化し提出してもらう。またその総まとめとして、期末に発表会を行う。発表会では、上記の5つの到達目標をそれぞれ20点満点(計100点満点)で評価する。それらを合わせて、ワークシート:発表会=6:4で評価する。					
	レポート							
	小テスト							
	提出物	60						
その他	40							
履修上の留意事項	前もって配信される授業資料に、授業前に目を通して、授業中は、3色ボールペンを使ってノートを取る。主な授業内容は黒、重要な点は赤、自分で思いついた点は青で書く。							
課題に対するフィードバックの方法	授業冒頭、前回提出されたワークシートの回答にコメントしながら、復習する時間を設ける。発表会において、発表ごとにコメント講評し、さらなる学修への指針を与える。							
実務経験を活かした教育内容								
回数(担当)	学習の主題	授業内容					事前・事後学習	
1	情報とは何か	授業の形式、コード情報、モード情報、生命=情報であること コラボレーション(共同作業)のためのグループ形成(4人グループ)					事前: 配信される授業資料を予習する(30分)。事後: 授業後ワークシートにて復習を行う(30分)。	
2	情報倫理について	情報モラル、情報化社会、著作権					事前: 配信される授業資料を予習する(30分)。事後: 授業後ワークシートにて復習を行う(30分)。	
3	情報セキュリティについて	ネット社会に潜む危険と対策、メールコミュニケーション、SNS					事前: 配信される授業資料を予習する(30分)。事後: 授業後ワークシートにて復習を行う(30分)。	
4	情報整理の方法(1)	MindMapの作成 グループによる共同作業で作成する(以降全てにおいて)					事前: 配信される授業資料を予習する(30分)。事後: 授業後ワークシートにて復習を行う(30分)。	
5	情報整理の方法(2)	Miroの使い方、発表テーマの絞り込み					事前: 配信される授業資料を予習する(30分)。事後: 授業後ワークシートにて復習を行う(30分)。	
6	情報整理の方法(3)	発表テーマの背景、目的、方法をまとめ、質問紙の項目を提出する					事前: 配信される授業資料を予習する(30分)。事後: 授業後ワークシートにて復習を行う(30分)。	
7	WEB調査の作成	Google Formの使い方、グループワークによる共同編集 各グループから、3-5問出し合って、共通のWEB調査を行う					事前: 配信される授業資料を予習する(30分)。事後: 授業後ワークシートにて復習を行う(30分)。	
8	WEB調査の実施	完成したFormを教室全員で答えあい、友人にもこたえてもらい、最低100人のデータを取ってくる(次回までに)					事前: 配信される授業資料を予習する(30分)。事後: 授業後ワークシートにて復習を行う(30分)。	

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
9	WEB 調査の分析(1)	取得したデータの数値化、HAD の使い方	事前：配信される授業資料を予習する(30分)。事後：授業後ワークシートにて復習を行う(30分)。
10	WEB 調査の分析(2)	HAD による統計分析	事前：配信される授業資料を予習する(30分)。事後：授業後ワークシートにて復習を行う(30分)。
11	WEB 調査の分析(3)	HAD による分析、Google site への結果の張り込み	事前：配信される授業資料を予習する(30分)。事後：授業後ワークシートにて復習を行う(30分)。
12	プレゼン資料の作成(1)	Google site を使って、共同作業で、プレゼン資料を作成結果、考察、展望を考える	事前：配信される授業資料を予習する(30分)。事後：授業後ワークシートにて復習を行う(30分)。
13	プレゼン資料の作成(2)	Google site を使って、共同作業で、プレゼン資料を完成する	事前：配信される授業資料を予習する(30分)。事後：授業後ワークシートにて復習を行う(30分)。
14	WEB ページでの報告会 1	グループワークで完成したホームページによる発表会 発表 5 分、質疑 3 分 (交代時間を含む)	事前：配信される授業資料を予習する(30分)。事後：授業後ワークシートにて復習を行う(30分)。
15	WEB ページでの報告会 2	グループワークで完成したホームページによる発表会 発表 5 分、質疑 3 分 (交代時間を含む)	事前：配信される授業資料を予習する(30分)。事後：授業後ワークシートにて復習を行う(30分)。

授業科目	生物学 A・B Biology		担当教員	津久井 隆行／松川 典子 ※担当教員は、クラス別				
対象学科・年次・学期	看護学科/栄養学科・1年次・前期		選択・必修	選択				
授業形態	講義		単位数	1単位				
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
			◎	○				
授業目的	生命体の特性、生殖と発生、外部からの刺激の受容や内部環境の維持について理解し、広く生命現象に関する知識を修得する。特に、ヒトの体の構造および機能に関して学び、体の各部分の機能の低下と病気との関係について理解する。また、栄養素について学び、どのように体内で利用されているのかについて理解する。							
到達目標	1. 生物の基本単位である細胞の構造や機能、および、細胞が集まって形成される組織や器官について理解する。 2. 生命活動に必要な栄養素や、体内で起こる物質代謝について理解する。 3. 生体内における情報伝達について学修し、生体内恒常性について理解する。 4. 生物が受精によって遺伝物質を親から子に伝えるしくみや、配偶子が形成される過程について理解する。							
関連科目	形態機能学Ⅰ・Ⅱ、生化学Ⅰ・Ⅱ、基礎栄養学が関連科目となる。高校レベルの生物基礎、生物を基盤とするので、復習しておくこと。							
テキスト	齊藤省吾「新体系看護学全書 基礎科目 生物学」(メヂカルフレンド社)							
参考書	P. レーヴン/G. ジョンソン 他「レーヴン/ジョンソン 生物学」上・下 (培風館)							
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点					
	試験	70	目標の到達状況を下記の視点から評価し、60点以上を合格とする。					
	レポート		①小テスト (30点) ・講義開始時に前回実施した講義内容に関する小テストを実施し、学修内容に対する理解度を評価する。					
	小テスト	30	②定期試験 (70点) ・到達目標に関する定期試験を実施し、学修到達度を評価する。					
	提出物		・最終試験は、授業終了後の定期試験期間前に行う予定。					
その他								
履修上の留意事項	重要な内容については配布資料やスライドで解説するが、その他の内容についてもテキストの十分な読み込みが必要。							
課題に対するフィードバックの方法	小テストは終了後に解答・解説を実施する。							
実務経験を活かした教育内容								
回数 (担当)	学習の主題	授業内容					事前・事後学習	
1	ガイダンス 細胞に関する基礎知識	ガイダンス 本科目の目的・目標、学習の内容、評価方法と基準、履修上の留意点の説明 生物を構成する最小の単位である細胞について以下の点から理解する。 ・細胞の構造と機能 ・細胞の増殖 (細胞分裂) 細胞に水が出入りするしくみについて理解する。 ・浸透圧とそれに伴う様々な現象					事前にシラバスを読み、履修上の疑問点を明らかにしておく。 教科書や配布資料を用いて授業内容の復習をする。(2時間)	
2	個体の成り立ち-分化 生体内の物質の流れと働き①	分化した細胞が多数集まって形成される組織について特徴を理解する。 生命活動における同化のしくみについて以下の点から理解する。 ・物質代謝と酵素 ・栄養素 ・消化と吸収					教科書や配布資料を用いて授業内容の予習・復習をする。(各2時間) 講義開始時に前回の内容に関する小テストを行う。	
3	生体内の物質の流れと働き②	生命活動における異化のしくみについて以下の点から理解する。 ・肺によるガス交換 ・腎臓の構造と働き (尿の生成)					教科書や配布資料を用いて授業内容の予習・復習をする。(各2時間) 講義開始時に前回の内容に関する小テストを行う。	
4	からだの恒常性の維持①	内部環境としての体液の働きについて理解する。					教科書や配布資料を用いて授業内容の予習・復習をする。(各2時間) 講義開始時に前回の内容に関する小テストを行う。	

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
5	からだの恒常性の維持 ②	生物はどのようにして体内の環境を一定の状態に維持しているのかについて以下の点から理解する。 ・神経系とその働き ・内分泌系とその働き	教科書や配布資料を用いて授業内容の予習・復習をする。(各2時間) 講義開始時に前回の内容に関する小テストを行う。
6	外的刺激の受容	生物が環境の変化を受け取り、それに反応するしくみについて以下の点から理解する。 ・刺激と反応 ・感覚器とその働き(視覚と聴覚)	教科書や配布資料を用いて授業内容の予習・復習をする。(各2時間) 講義開始時に前回の内容に関する小テストを行う。
7	遺伝	遺伝物質とはどのようなものなのか、遺伝物質によって何がつくり出され、生命活動ではどのように利用されているのかを以下の点から理解する。 ・遺伝物質の所在 ・DNAの構造 ・たんぱく質の合成 ヒトの遺伝と、それに伴って生じる病気について理解する。 ・遺伝性疾患と酵素 ・伴性遺伝 ・染色体異常	教科書や配布資料を用いて授業内容の予習・復習をする。(各2時間) 講義開始時に前回の内容に関する小テストを行う。
8	配偶子の形成	生物が受精のために配偶子を形成するしくみについて理解する。 ・細胞分裂と減数分裂の違い ・配偶子の形成	教科書や配布資料を用いて授業内容の予習・復習をする。(各2時間) 講義開始時に前回の内容に関する小テストを行う。

授業科目	基礎化学 Basic Chemistry		担当教員	津久井 隆行				
対象学科・年次・学期	栄養学科・1年次・前期		選択・必修	必修				
授業形態	講義		単位数	2単位				
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
			◎	○				
授業目的	化学は、様々な物質の構造、性質、相互反応について研究する学問分野であり、自然科学の一部門である。栄養学科の専門基礎教育科目や専門教育科目を学ぶには、生化学、生理学、栄養学、食品学などを学修するための化学の知識が必要である。基礎化学では物質の構造を学び、物質が何でできているかを理解する。また、有機化合物の特徴や分類を理解し、有機化合物の性質などの基礎的な知識を修得する。さらに、物質量の概念、様々な化学変化、化学反応について観察や実験を通して物質の構成や種類、性質、変化など化学の基礎的な知識を修得する。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 基礎化学に不可欠な国際単位系について説明し、単位換算ができる。 2. 物質の基本的な成り立ちの概略を説明し、化学的な物質量（モル）を計算できる。 3. 元素の周期表の規則性を説明し主だった元素の記号及び原子量を説明できる。 4. 物質の状態の変化と性質について説明できる。 5. 化学反応と栄養価のエネルギー（熱量）について説明できる。 6. 物質量や溶液の濃度の基本的な考え方について説明し、計算できる。 7. 溶液の種類と性質について示し pH の定義について具体的に説明できる。 							
関連科目	各実験科目で求められる計算力の基礎となる。高校レベルの化学計算を基盤とするので、各自復習しておくこと。							
テキスト	教員が作成する配布資料							
参考書	北原重登 他「食を中心とした化学 第3版」(東京教学社) 田中永一郎・松岡雅忠「まるわかり!基礎化学」(南山堂)							
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点					
	試験	70%	目標の到達状況を下記の視点から評価し、60点以上を合格とする。 ①小テスト (30点) ・講義開始時に前回実施した講義内容に関する小テストを実施し、学修内容に対する理解度を評価する。 ②定期試験 (70点) ・到達目標に関する定期試験を実施し、学修到達度を評価する。					
	レポート							
	小テスト	30%						
	提出物							
その他								
履修上の留意事項	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業前に配布資料の該当ページに必ず目を通し予習する。 2. 授業後には配布資料の該当ページを必ず復習する。 3. 演習を取り入れた双方向的授業を推進することから質疑に積極的に参加する。 							
課題に対するフィードバックの方法	小テストは終了後に解答・解説を実施する。							
実務経験を活かした教育内容								
回数 (担当)	学習の主題	授業内容				事前・事後学習		
1	ガイダンス・単位と有効数字	基礎化学を学ぶ目的及び国際単位の種類について解説する。				配布資料を用いて授業内容の復習をする。(2時間)		
2	物質の基本的な成り立ちについて	原子とその構造、分子について示し物質の分類を解説する。				配布資料を用いて授業内容の予習・復習をする。(各2時間) 講義開始時に前回の内容に関する小テストを行う。		
3	物質の基本的な成り立ちについて	元素の種類と周期表の規則性を示し原子の化学結合を解説する。				配布資料を用いて授業内容の予習・復習をする。(各2時間) 講義開始時に前回の内容に関する小テストを行う。		
4	化学的な物質量 (モル) について	原子量、分子量、モルの求め方について解説する。				配布資料を用いて授業内容の予習・復習をする。(各2時間) 講義開始時に前回の内容に関する小テストを行う。		

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
5	溶液の濃度について	様々な濃度（質量パーセント濃度、モル濃度）や密度の求め方について解説する。	配布資料を用いて授業内容の予習・復習をする。（各2時間） 講義開始時に前回の内容に関する小テストを行う。
6	物質の状態と性質について	固体、液体、気体の考え方について例を挙げて解説する。	配布資料を用いて授業内容の予習・復習をする。（各2時間） 講義開始時に前回の内容に関する小テストを行う。
7	物質の状態と性質について	溶解度、様々な溶液の濃度表記法、浸透圧について解説する。	配布資料を用いて授業内容の予習・復習をする。（各2時間） 講義開始時に前回の内容に関する小テストを行う。
8	化学変化と栄養価の「熱」の関わりについて	化学反応における反応熱について解説する。	配布資料を用いて授業内容の予習・復習をする。（各2時間） 講義開始時に前回の内容に関する小テストを行う。
9	化学変化と栄養価の「熱」の関わりについて	栄養素の反応熱について具体例を挙げて解説する。	配布資料を用いて授業内容の予習・復習をする。（各2時間） 講義開始時に前回の内容に関する小テストを行う。
10	水溶液とコロイド溶液の性質について	電解質と非電解質の違いについて解説する。	配布資料を用いて授業内容の予習・復習をする。（各2時間） 講義開始時に前回の内容に関する小テストを行う。
11	水溶液とコロイド溶液の性質について	酸と塩基の性質について解説する。	配布資料を用いて授業内容の予習・復習をする。（各2時間） 講義開始時に前回の内容に関する小テストを行う。
12	水溶液とコロイド溶液の性質について	pH（水素イオン濃度指数）の定義について解説する。	配布資料を用いて授業内容の予習・復習をする。（各2時間） 講義開始時に前回の内容に関する小テストを行う。
13	水溶液とコロイド溶液の性質について	酸と塩基の中和反応について解説する。	配布資料を用いて授業内容の予習・復習をする。（各2時間） 講義開始時に前回の内容に関する小テストを行う。
14	水溶液とコロイド溶液の性質について	水溶液の性質（緩衝や浸透）およびコロイド食品について解説する。	配布資料を用いて授業内容の予習・復習をする。（各2時間） 講義開始時に前回の内容に関する小テストを行う。
15	全体のまとめ	これまでに学修した内容について振り返り、定着を図る。	配布資料を用いて授業内容の予習・復習をする。（各3時間） 講義開始時に前回の内容に関する小テストを行う。

授業科目	英語 I (基礎) A English I		担当教員	松尾 文子				
対象学科・年次・学期	栄養学科・1 年次・前期		選択・必修	必修				
授業形態	演習		単位数	1 単位				
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
	○	◎	○					
授業目的	英語の基礎的な知識を整理する。英語運用能力の向上に必要な 4 技能（読む・書く・聞く・話す）の中の、読む力と書く力の向上に努める。							
到達目標	1. 英語の構文を理解する。 2. 英語の構文理解をもとに、英語表現を読み取る。 3. 学んだ表現を用いて、ある程度まとまった内容の英文を書く。							
関連科目	英語 II, III, IV							
テキスト	<i>Answers to Everyday Questions 3 [Intermediate]</i> Arao A. Mihara K. et al. (NAN'UN-DO, 2023)							
参考書								
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点					
	試験	70	学んだことの理解度を測る中間試験と定期試験 70%、小テスト 20%、授業の取り組み姿勢 10% で評価する。 中間・期末試験を未受験の場合は、評価の対象としない。					
	レポート							
	小テスト	20						
	提出物							
その他	10							
履修上の留意事項	分からない語句はあらかじめ調べておく。任意提出の課題に積極的に取り組むことが望ましい。							
課題に対するフィードバックの方法	中間試験は解答例を配布し各自に確認してもらう。基準点に達しなかった学生には、課題を出し、コメントを付して返却する。小テストの答え合わせを授業中に行う。任意提出の課題は、テキストの Writing B と、Teams にアップする Unit ごとの確認問題で、いずれもコメントを付して返却する。さらに、Unit ごとに文法・語法に関する発展的な内容を記した English in Detail を Teams にアップする。							
実務経験を活かした教育内容								
回数 (担当)	学習の主題	授業内容				事前・事後学習		
1	現在時制・過去時制	Introduction / Unit 1: What did People Use Before Erasers?				テキストの予習・主に文法事項の確認 (1 時間)		
2	助動詞	Unit 2: Who Is Barbie?				テキストの予習・主に文法事項の確認 (1 時間)		
3	完了形	Unit 3: How did T-Shirts Become Popular?				テキストの予習・主に文法事項の確認 (1 時間)		
4	受動態	Unit 4: Who Invented Cotton Candy?				テキストの予習・主に文法事項の確認 (1 時間)		
5	There 構文	Unit 5: Which Came First, the TV or the RC?				テキストの予習・主に文法事項の確認 (1 時間)		
6	冠詞・名詞	Unit 6: Why Do ATM PINs Have Only Four Numbers?				テキストの予習・主に文法事項の確認 (1 時間)		
7	不定詞・動名詞	Unit 7: Why Are Pencils Yellow?				テキストの予習・主に文法事項の確認 (1 時間)		
8	これまでのテキストの理解度確認	中間試験				試験勉強・次回の授業の予習 (4 時間)		
9	形容詞・副詞	Unit 8: What Are the Ends of Shoelaces Called?				テキストの予習・主に文法事項の確認 (1 時間)		
10	比較	Unit 9: Why Are Gym Shoes Called "Sneakers"?				テキストの予習・主に文法事項の確認 (1 時間)		

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
11	前置詞	Unit 10: Why Do We Drink So Much Coffee?	テキストの予習・主に文法事項の確認（1時間）
12	接続詞	Unit 11: Which Came First, Lighters or Matches?	テキストの予習・主に文法事項の確認（1時間）
13	付加疑問文・修飾語句	Unit 12: Why Is Meat from Pigs Called “Pork”?	テキストの予習・主に文法事項の確認（1時間）
14	関係詞	Unit 13: Can You Wang a “Welly”?	テキストの予習・主に文法事項の確認（1時間）
15	分詞・分詞構文	Unit 14: Why Do We Shake Hands?	テキストの予習・主に文法事項の確認（1時間）

授業科目	英語 I (基礎) B English I		担当教員	竹内康二				
対象学科・年次・学期	栄養学科・1 年次・前期		選択・必修	必修				
授業形態	演習		単位数	1 単位				
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
	○	◎	○					
授業目的	英語の基礎的な知識を整理する。英語運用能力の向上に必要な 4 技能（読む・書く・聞く・話す）の中の、読む力と書く力の向上に努める。							
到達目標	1. 英語の構文を理解する。 2. 英語の構文理解をもとに、英語表現を読み取る。 3. 学んだ表現を用いて、ある程度まとまった内容の英文を書く。							
関連科目	英語 II, III, IV							
テキスト	<i>Answers to Everyday Questions 2 [Pre-Intermediate]</i> Arao A. Mihara K. et al. (NAN'UN-DO, 2023)							
参考書								
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点					
	試験	70	学んだことの理解度を測る中間試験と定期試験 70%、小テスト 20%、授業の取り組み姿勢 10% で評価する。 中間・期末試験を未受験の場合は、評価の対象としない。					
	レポート							
	小テスト	20						
	提出物							
その他	10							
履修上の留意事項	分からない語句はあらかじめ調べておく。任意提出の課題に積極的に取り組むことが望ましい。							
課題に対するフィードバックの方法	中間試験は解答例を配布し各自に確認してもらう。基準点に達しなかった学生には、課題を出す。小テストの答え合わせを授業中に行う。任意提出の課題は、テキストの Writing B と、Teams にアップする Unit ごとの確認問題で、いずれもコメントを付して返却する。							
実務経験を活かした教育内容								
回数 (担当)	学習の主題	授業内容				事前・事後学習		
1	現在時制・過去時制	Introduction / Unit 1: What is "Black Friday"?				テキストの予習・主に文法事項の確認 (1 時間)		
2	未来形・進行形	Unit 2: What is a "leap year"?				テキストの予習・主に文法事項の確認 (1 時間)		
3	完了形	Unit 3: Why do big ceremonies have a "red carpet"?				テキストの予習・主に文法事項の確認 (1 時間)		
4	受動態・使役動詞	Unit 4: Where did "mouthwash" come from?				テキストの予習・主に文法事項の確認 (1 時間)		
5	There 構文・助動詞	Unit 5: What is a "Viking"?				テキストの予習・主に文法事項の確認 (1 時間)		
6	冠詞・代名詞	Unit 6: Why are oranges "orange"?				テキストの予習・主に文法事項の確認 (1 時間)		
7	可算名詞・不可算名詞	Unit 7: Where did "Vaseline" come from?				テキストの予習・主に文法事項の確認 (1 時間)		
8	これまでのテキストの理解度確認	中間試験				試験勉強・次回の授業の予習 (4 時間)		
9	形容詞・副詞	Unit 8: Why are flamingos "pink"?				テキストの予習・主に文法事項の確認 (1 時間)		
10	比較	Unit 9: What is a movie "trailer"?				テキストの予習・主に文法事項の確認 (1 時間)		
11	不定詞・動名詞	Unit 10: Where did "bubble wrap" come from?				テキストの予習・主に文法事項の確認 (1 時間)		

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
12	接続詞・前置詞	Unit 11: Why is a billiard table “green”?	テキストの予習・主に文法事項の確認（1時間）
13	話法	Unit 12: Why is film called “footage”?	テキストの予習・主に文法事項の確認（1時間）
14	付加疑問文・WH 疑問文	Unit 13: Where did “Coca-Cola” come from?	テキストの予習・主に文法事項の確認（1時間）
15	分詞・関係詞	Unit 14: Why are social media apps “blue”?	テキストの予習・主に文法事項の確認（1時間）

授業科目	英語 I (基礎) C English I		担当教員	大西 三佳子				
対象学科・年次・学期	栄養学科・1 年次・前期		選択・必修	必修				
授業形態	演習		単位数	1 単位				
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
	○	◎	○					
授業目的	英語の基礎的な知識を整理する。英語運用能力の向上に必要な 4 技能（読む・書く・聞く・話す）の中の、読む力と書く力の向上に努める。							
到達目標	1. 英語の構文を理解する。 2. 英語の構文理解をもとに、英語表現を読み取る。 3. 学んだ表現を用いて、ある程度まとまった内容の英文を書く。							
関連科目	1 年後期で履修する英語 II (会話) と密接に関連する。							
テキスト	T. O'Brien, K. Mihara, K. Maeda and H. Kimura 「English Indicator 1 (Essential)」 (Nan'un-do, 2022)							
参考書	必要に応じて紹介する。							
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点					
	試験	50	基準：グループ活動、提出物、小テスト（以上で 50%）及び定期テスト(50%) の結果から評価する。 観点：日々の授業中の活動に真面目に取り組み、到達目標に向かって努力しているかで判断する。					
	レポート							
	小テスト	20						
	グループ活動	20						
提出物	10							
履修上の留意事項	授業時は必ず教科書や辞書などを持参し、テストや提出物の準備を忘れない。							
課題に対するフィードバックの方法	小テストと課題は翌週の授業で返却し、重要事項を解説する。							
実務経験を活かした教育内容	イギリス国民の食事や生活の様子などを講義に織り交ぜ、教科書の内容がより理解し易いように授業をする。							
回数 (担当)	学習の主題	授業内容					事前・事後学習	
1	ガイダンス	本科目の目的・目標・学習内容と学習方法、評価方法と基準、履修上の留意事項等について説明する。					事前：テキストの内容確認 (0.5 時間) 事後：テキストの予習 (0.5 時間)	
2	Unit 1 The Royal Family	1. reading (チャールズ国王について) 2. grammar (現在時制) 3. writing (基本的な重要構文)					事前：テキストの内容確認 (0.5 時間) 事後：復習と小テストの準備(0.5 時間)	
3	Unit 2 The Beatles	1. reading (ビートルズ) 2. grammar (過去時制) 3. writing (基本的な重要構文)					事前：テキストの内容確認 (0.5 時間) 事後：復習と小テストの準備(0.5 時間)	
4	Unit 4 Euro Money	1. reading (ユーロ) 2. grammar (助動詞) 3. writing (基本的な重要構文)					事前：テキストの内容確認 (0.5 時間) 事後：復習と小テストの準備(0.5 時間)	
5	Unit 5 To Your Health	1. reading (健康管理) 2. grammar (完了形) 3. writing (基本的な重要構文)					事前：テキストの内容確認(0.5 時間) 事後：復習と小テストの準備(0.5 時間)	
6	Unit 6 Recycling	1. reading (リサイクル) 2. grammar(冠詞・代名詞) 3. writing (基本的な重要構文)					事前：テキストの内容確認(0.5 時間) 事後：小テストと前半まとめの学習 (1 時間)	
7	前半のまとめ	「前半のまとめ」を学習する。					事前：小テストとまとめの学習(1 時間) 事後：中間復習ドリルの準備 (2 時間)	
8	中間復習ドリル	これまでに学んだ内容の定着度をチェックする。 (Units 1,2,4,5,6)					事前：中間復習ドリルの学習(2 時間) 事後：テキストの予習(0.5 時間)	
9	Unit 9 My Company	1. reading (イギリスの会社) 2. grammar (比較級・最上級) 3. writing (基本的な重要構文)					事前：テキストの内容確認(0.5 時間) 事後：復習と小テストの準備(0.5 時間)	

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
10	Unit10 Advertising	1. reading (広告) 2. grammar (不定詞・動名詞) 3. writing (基本的な重要構文)	事前：テキストの内容確認(0.5 時間) 事後：復習と小テストの準備(0.5 時間)
11	Unit13 A Storm	1. reading (イギリスの天候) 2. grammar (受動態) 3. writing (基本的な重要構文)	事前：テキストの内容確認(0.5 時間) 事後：復習と小テストの準備(0.5 時間)
12	Unit 14 The Media	1. reading (メディア) 2. grammar (関係詞) 3. writing (基本的な重要構文)	事前：テキストの内容確認(0.5 時間) 事後：復習と小テストの準備(0.5 時間)
13	Unit15 Sightseeing	1. reading (イギリス観光スポット) 2. grammar (仮定法) 3. writing (基本的な重要構文)	事前：テキストの内容確認(0.5 時間) 事後：小テストと後半まとめの学習 (1 時間)
14	後半のまとめ	「後半のまとめ」を学習する。	事前：小テストとまとめの学習(1 時間) 事後：期末復習ドリルの準備(2 時間)
15	期末復習ドリル	これまで学んだ内容の定着度をチェックする。 (Units, 9, 10, 13,14,15)	事前：期末復習ドリルの学習(2 時間) 事後：期末テストの準備 (2 時間)

授業科目	英語 II (会話) English II (Conversation)		担当教員	David Flenner / Peter Reemst /Coxford Richard Michael ※担当教員は、クラス別				
対象学科・ 年次・学期	栄養学科・1 年次・後期		選択・必修	必修				
授業形態	演習		単位数	1 単位				
学科ディプロ マ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
	○	◎	○					
授業目的	The purpose of this course is to build basic and intermediate English skills for communicating with patients/clients.							
到達目標	1. Building confidence in order to communicate with patients/clients in English 2. Improving students' knowledge of language used in the field of nutrition 3. Building an awareness of the needs of English speaking patients/clients							
関連科目	英語 I・II							
テキスト	Bob Jones & Brent Simmonds 「Eat Well」 (Brand New Edition) (Perceptia Press)							
参考書	なし							
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点					
	試験	60	The assessment standards of academic achievement are as follows. 1. Worksheets 30% 2. Class Participation(Attendance and Question Response) 10% 3. Mid-Term Test 30% 4. Final Test 30%					
	レポート							
	小テスト							
	提出物	30						
その他	10							
履修上の 留意事項	Students are expected to participate in conversation and exercises							
課題に対するフィ ードバックの方法	Feedback on progress in quizzes (including an explanation of answers and how to improve upon results) and students' progress in general classwork. Additionally, suggestions on increasing students' overall satisfaction/sense of achievement gained from the course will be provided.							
実務経験を 活かした教育内容								
回数 (担当)	学習の主題	授業内容					事前・事後学習	
1	Orientation	Classroom Language and Instruction / Introductory Unit					Pre-Study Unit 1 (1hour)	
2	Unit 1	The Food You Need					Worksheet 1 (1hour)	
3	Unit 2	Do You Ever Skip Breakfast?					Worksheet 2 (1hour)	
4	Unit 3	Let's Go For Whole Grains					Worksheet 3 (1hour)	
5	Unit 4	Vegetarian, Protein, & Tofu					Worksheet 4 (1hour)	
6	Unit 5	Get Your Vits & Minerals					Worksheet 5 (1hour)	
7	Unit 6	Fats: Good or Bad?					Worksheet 6 (1hour)	
8	Mid-Term Test	Review / Test 1: Units 1-6					Pre-Study Unit 7 (1hour)	
9	Unit 7	The Obesity Epidemic					Worksheet 7 (1hour)	
10	Unit 8	Water: The Source Of Life					Worksheet 8 (1hour)	
11	Unit 9	How Was School Lunch?					Worksheet 9 (1hour)	
12	Unit 10	Food For Small Mouths					Worksheet 10 (1hour)	
13	Unit 11	Food For Senior Citizens					Worksheet 11 (1hour)	

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
14	The Curse of Malnutrition	Unit 12	Worksheet 12 (2hour)
15	まとめ Final Test	Review/Test 2: Units 7-12	Not Applicable

授業科目	表現技法Ⅰ（読解・分析）A Presentation Skills I (Reading Comprehension and Analyses)		担当教員	高木 維				
対象学科・ 年次・学期	栄養学科・1年次・前期		選択・必修	必修				
授業形態	演習		単位数	1単位				
学科ディプロ マ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
	○	◎						
授業目的	本科目は、大学および社会において求められる一般的な作文技術の習得を目的とする。文章表現の面では、いわゆる文学作品的な美文ではなく、学術的表現を用いて、文法ミスのない平易な文を書くことを目指す。内容構成の面では、三部構成に則り、論拠・出典を明確にしたレポートの作成を目指す。							
到達目標	1.レポートにふさわしい表現で、文法ミスのない文を書く技能を身に付ける。 2.他人発の情報を的確に利用し、出典を明示する技能を身に付ける。 3.三部構成の重要性を理解し、レポートの構成を考える能力を身に付ける。 4.レポートを作成するための全体的なプロセスを把握する。							
関連科目	さまざまな科目で課される課題文の基礎となる。 また、1年後期に履修する「表現技法Ⅱ」と密接に関係する。							
テキスト	なし							
参考書	奥田統己、神成洋、佐々木冠、本間徹夫、山崎哲永 共著「読みやすく考えて調べて書く」（学術図書出版） 河野哲也「レポート・論文の書き方入門」慶應義塾大学出版会							
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点					
	試験		目標の到達状況を下記の方法で評価する。					
	レポート	40	レポート・その他の提出物・授業態度により総合的に評価する。					
	小テスト		※期末レポートの提出がない場合は、評価の対象とはならない。					
	提出物	40	・レポート（40%）：期末レポートの得点					
その他	20	・提出物（40%）：各種提出課題への取り組み ・授業態度（20%）：講義内活動への取り組みの姿勢						
履修上の 留意事項	講義内活動を踏まえて、段階的にレポートを作成する。 そのため、欠席回は TEAMS にアップロードされる講義資料を確認し、自身で学習を進める必要がある。							
課題に対するフィ ードバックの方法	提出物にはコメントを付して返却する。							
実務経験を 活かした教育内容								
回数 (担当)	学習の主題	授業内容					事前・事後学習	
1	・ガイダンス ・レポートの文体	・本科目の目的、評価基準 ・レポート（論説文）にふさわしい文体					「レポートの文体」について復習し、宿題に取り組む（1時間）	
2	・段落構成① ・客観的表現	・段落構成の概要と、例示・対比の段落 ・文章から主観性を排するテクニック					次回講義時間までに提出課題①「適切な文章表現」を完成させ、提出する（1時間）	
3	・段落構成② ・断定表現	・意見と理由の段落を書くトレーニング ・文章から曖昧性を排するテクニック					「段落構成」について復習し、宿題に取り組む（1時間）	
4	・段落構成③ ・引用文献欄	・データをもとに段落を書くトレーニング ・利用した文献をリスト化する「引用文献欄」の書きかた					「引用文献欄」について復習し、宿題に取り組む（1時間）	
5	・引用文 ・文法ミス	・引用文の書き方と要約のテクニック ・レポートにおいて頻出する文法ミス					次回講義時間までに提出課題②「引用文と引用文献欄」を完成させ、提出する（1時間）	
6	・レポートの種類 ・三部構成	・一般的なレポートの種類と三部構成 ・課題文作成のための文献読解					配布された資料読解をすすめ、宿題に取り組む（1時間）	
7	・文献メモ ・表記	・文献調査時に作成すべき「文献メモ」の概要 ・レポートにおいて望ましい文字遣い（漢字・数字・記号）					配布された資料読解をすすめ、文献メモを作成する（1時間）	
8	・アウトラインの作成 ・課題文執筆の注意点	・提出課題③「事実を説明する文章」のアウトライン作り ・段落構成・引用の総復習					次回講義時間までに提出課題③「事実を説明する文章」を完成させ、提出する（1時間）	

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
9	・投稿規定 ・文献調査	・期末レポートにおける重要な指示（投稿規定）の確認 ・簡単な文献調査のテクニック	ワークノートを用いて、意見作りと文献調査を進める（1時間）
10	・考察 ・他人発の情報の利用	・意見の説得力を高めるために必要な要素 ・他人の意見をレポートに組み込むときの注意点	意見作りを進め、アウトラインを作成する（1時間）
11	・序論・結論 ・個人相談①	・レポートの序論・結論の構成 ・これまでの取り組みを教員に見せ、コメントを受ける活動	期末レポートのアウトラインを作成する（1時間）
12	・個人相談②	・これまでの取り組みを教員に見せ、コメントを受ける活動	期末レポート（初稿）を完成させる（1時間）
13	・推敲	・批判的にレポートを読み、ミスを発見する演習 ・期末レポート（初稿）の推敲	期末レポート（初稿）を改訂し、印刷して次回提出する（1時間）
14	・レポートの構成	・投稿規定から、レポート全体の構成を想定するトレーニング	「レポートの構成」について復習し、宿題に取り組む（1時間）
15	・総括	・期末レポートを読み合い、感想を交換する活動 ・後期の活動とテーマの説明	後期に向け、告知されたテーマについて情報を集める（1時間）

授業科目	表現技法Ⅰ（読解・分析）B Presentation Skills I (Reading Comprehension and Analyses)				担当教員	安永 立子		
対象学科・ 年次・学期	栄養学科・1年次・前期				選択・必修	必修		
授業形態	演習				単位数	1単位		
学科ディプロ マ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
	○	◎						
授業目的	言語表現とは何か、という理論的な側面を学び、日本語表現に関する学術的な基礎知識を習得する。そのうえで、知的活動でも職業生活や社会生活でも必要となる実践的な日本語の運用能力を身につける。							
到達目標	1. 言語表現に関する基本的な学術用語を理解する。 2. 日本語による文章作成の基本的な能力を身につける。 3. 文章を書く際の発想力、構成力を学習し、適応できる。							
関連科目	1年前期で学修する「学びの理解」「論理的思考」や後期に学修する「表現技法Ⅱ」に関連する。							
テキスト	なし							
参考書	授業時間内にその都度紹介する。							
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点					
	試験		目標の到達状況を下記の方法で評価する。					
	レポート	40	毎回の講義で提出を課す小課題に対して、4点満点で採点し、60点満点として評価する（3分の1以上の欠席は評価の対象外）。授業に対する取り組み姿勢についても、採点に適宜加味する。授業内、また事後学習として課す実作レポートをその都度採点し、合計を40点満点に換算して、100点満点で上記の目標の達成度を評価する。					
	小テスト		なお、授業内で課す2回の実作レポートを提出できなかった場合は評価の対象としない。					
	提出物	30						
その他		30						
履修上の 留意事項	授業に欠席した場合は、欠席日のワークシートを必ず受け取ること。							
課題に対するフィ ードバックの方法	提出物は適宜添削し、講評を添えて返却する。							
実務経験を 活かした教育内容								
回数 (担当)	学習の主題	授業内容					事前・事後学習	
1	ガイダンス／本科目の説明と履修上の注意 レポートについて／適切な文を書くためのエクササイズ	本科目の目的、学習内容と方法、評価方法と基準、履修上の留意点について、説明する。 表現方法を学ぶにあたって、レポートを書くとはどういうことか、概略を学ぶ。 「非文」「悪文」の例を学生各自が添削し、正しい文についての理解を深める。					事前にシラバスを読み、本科目履修についての疑問等を明らかにしておく(30分)。授業時間に使用したワークシートを見直し、学習内容の習得に努めること。 また、指定された家庭学習を行う(30分)。	
2	レポートの文体を理解する	間違いやすい語彙の知識を確認する。話し言葉と書き言葉の違いについて判断できる能力を身につける。論述に適した文体について学ぶ。					授業時間に使用したワークシートを見直し、学習内容の習得に努めること。また、指定された家庭学習を行う(1時間)。	
3	説明的文章の方法(1)	知識や情報を伝えるためには、何が重要か理解する。読者をどのように想定するかについて学ぶ。					授業時間に使用したワークシートを見直し、学習内容の習得に努めること(1時間)。	
4	説明的文章の方法(2) ／説明文の製作	言語の抽象化能力とカテゴリー理論について学ぶ。講義をもとにレポート実作①説明文を書く。					授業時間内に書き上げられなかった場合は次週に提出すること(評価は下がるが、採点対象とする)。授業時間に使用したワークシートを見直し、学習内容の習得に努めること(1時間)。	

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
5	説明文の返却／レポートの基本的構成／発想から文章へ (1)	作成した説明文にコメントを付して返却し、説明文を作成する際の留意点について復習する。また、レポートの基本構成とレポートの種類、及び論点を創出する方法について学ぶ。	授業時間に使用したワークシートを見直し、学習内容の習得に努めること(1時間)。
6	資料の集め方／引用書誌情報の記し方／「問題提起のある文章」の導入	レポート作成に当たって、どのように資料を収集するか学ぶ。また、レポート内に引用する資料について、その引用の方法や書誌情報の記し方について学ぶ。さらに、「問題提起のある文章」の組み立てを理解する。	授業時間に使用したワークシートを見直し、学習内容の習得に努めること(1時間)。
7	引用書誌情報の収集と記載の実践／「問題提起のある文章」の構成	レポート実作②「問題提起のある文章」の作成のための資料収集を進める。具体的な資料収集を実際に行い、書誌情報を書いてみる。また、「問題提起のある文章」のアウトラインを作成する。 *パソコンを持参すること。	レポート実作②「問題提起のある文章」のための文献収集及び作成(1時間)。
8	レポート実作②「問題提起のある文章」の作成に向けての個人指導その1	レポート実作②「問題提起のある文章」の作成に向けて、個人指導を行う。 *パソコンを持参すること。	レポート実作②「問題提起のある文章」のための文献収集及び作成(1時間)。
9	レポート実作②「問題提起のある文章」の作成に向けての個人指導その2	レポート実作②「問題提起のある文章」の作成に向けて、個人指導を行う。 *パソコンを持参すること。	レポート実作②「問題提起のある文章」のための文献収集及び作成(1時間)。
10	レポート実作②「問題提起のある文章」の提出／発想から文章へ (2)／賛否両論を想定する	様々なところから発想した観点を文章に発展させる技法を身につける。賛否両論が可能な文を考えることで、論理的な文章の構築を学ぶ。	授業開始時間までに、レポート実作②「問題提起のある文章」を提出する。 提出できなかった場合は次週提出すること(評価は下がるが、採点対象とする)。授業時間に使用したワークシートを見直し、学習内容の習得に努めること(1時間)。
11	レポートにおける「事実」と「意見」の区別／段落について／中心文と展開文	レポートの記述において、「事実」と「意見」をどのように区別して扱うかについて学ぶ。また、段落とそれを構成する中心文、展開文の概念を理解する。	授業時間に使用したワークシートを見直し、学習内容の習得に努めること(1時間)。
12	他人の文章に対する批判を構築する	他人の文章の論理構造を読み解き、批判を構築する方法を身につける。	授業時間に使用したワークシートを見直し、学習内容の習得に努めること(1時間)。
13	論理的文章の基本	要約の方法を確認する。論文の文体を身につける。	授業時間に使用したワークシートを見直し、学習内容の習得に努めること(1時間)。
14	情報を整理する	データの読み取りの基本を学ぶ。論文の論理構築の方法を理解する。	授業時間に使用したワークシートを見直し、学習内容の習得に努めること(1時間)。
15	問題提起文の返却／敬語と手紙・メール文の基本	作成した「問題提起のある文」を添削して返却するとともに、講評を渡し解説を加える。日常的な言語によるコミュニケーションの訓練として、敬語を学ぶ。	授業時間に使用したワークシートを見直し、学習内容の習得に努めること。 前期の授業全体を振り返り、論理的な文章を書く際の注意点について確認しておく(1時間)。

授業科目	表現技法Ⅰ（読解・分析）C Presentation Skills I (Reading Comprehension and Analyses)		担当教員	錦戸 葵				
対象学科・年次・学期	栄養学科・1年次・前期		選択・必修	必修				
授業形態	演習		単位数	1単位				
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
	○	◎						
授業目的	本科目は、日本語表現の基礎を学び、学業および社会活動において必須となる文章力を修得することを目的とする。学術的文章にふさわしい構成や表現を学習し、学問・研究にかかわる文章を作成する能力を養うほか、社会活動において必要とされる、敬語表現およびメール・手紙の書き方に関する基礎的な知識を身につけることを目指す。							
到達目標	1. 日本語表現の基礎が身についている。 2. レポートや課題を、学術的文章にふさわしい構成・表現で書くことができる。 3. 敬語表現の使い方や、メール・手紙の書き方が身についている。							
関連科目	高校レベルの国語（現代文）の知識を基盤とするため、各自復習しておくこと。							
テキスト	なし							
参考書	講義内で適宜紹介する。							
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点					
	試験		期末レポートを6割、毎回実施する授業内課題を3割として評価する。また、その他として、授業への積極的な参加や、課題に対する積極的な取り組みを1割として評価する。なお、欠席した回の授業内課題については、提出は任意とし評価には加えない。					
	レポート	60						
	小テスト							
	提出物	30						
その他	10							
履修上の留意事項	欠席した場合は、後日その回の配布物を必ず受け取ること。							
課題に対するフィードバックの方法	授業内課題は、添削しコメントを付して返却する。							
実務経験を活かした教育内容								
回数 (担当)	学習の主題	授業内容					事前・事後学習	
1	ガイダンス	授業目的、到達目標、評価方法・基準について確認する。					事前：シラバスを確認する。	
2	学術的な文章	作文・レポート・論文の違いや、学術的な文章にふさわしい文体を学ぶ。					事後：返却された課題のコメントを読み、適宜修正を行う。	
3	文章の三要素と読解・要約	文章における三要素を学び、文章の読解・要約を行う。					事後：返却された課題のコメントを読み、適宜修正を行う。	
4	要約文の作成例／事実と意見	要約文の作成手順・作成例を確認し、文章要約の復習をする。事実と意見の違いを学ぶ。					事後：返却された課題のコメントを読み、適宜修正を行う。	
5	原稿用紙の使い方／紹介文の作成①	基本的な原稿用紙の使い方を学び、紹介文を作成する。					事後：返却された課題のコメントを読み、適宜修正を行う。	
6	紹介文の作成②	他の学生が執筆した紹介文を読み、長所や参考にしたい点を共有する。自分が作成した紹介文を振り返り、感想を書く。					事後：返却された課題のコメントを読み、適宜修正を行う。他者の紹介文の内容について調べる。	
7	資料の検索・引用	インターネットを用いた資料の検索の方法と、引用・出典の書き方について学ぶ。					事後：返却された課題のコメントを読み、適宜修正を行う。実際に自分で資料を検索してみる。	
8	文章の構成	文章の基本的な構成を学ぶ。					事後：返却された課題のコメントを読み、適宜修正を行う。	
9	文章の表記	学術的文章における、漢字・ひらがな・カタカナ・数字等の適切な表記を学ぶ。					事後：返却された課題のコメントを読み、適宜修正を行う。本や新聞を読み、表記を確認する。	
10	文章の推敲	文章推敲の観点を学び、実際に文章を推敲する。					事後：返却された課題のコメントを読み、適宜修正を行う。	

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
11	敬語表現／メール・手紙	敬語表現の基本を学ぶ。メールと手紙の書き方を学ぶ。	事後：返却された課題のコメントを読み、適宜修正を行う。
12	レトリック	さまざまな表現の技法を学び、学術的文章にふさわしい表現か否かを判断する力を身につける。	事後：返却された課題のコメントを読み、適宜修正を行う。
13	レポート作成の準備①	文章の構成を振り返り、レポートの序論・本論・結論の書き方や、タイトルのつけ方を学ぶ。	事後：返却された課題のコメントを読み、適宜修正を行う。レポートの構想を練る。
14	レポート作成の準備②	レポートの書き方を学び、レポート執筆時の注意事項を押さえる。各自レポートの構想を練り、ワークシートを利用して下書きを作成する。レポートについて、個別に相談に応じる。	事前：レポートの構想を練る。 事後：返却された課題のコメントを読み、適宜修正を行う。資料探しや下書き作成を行う。
15	学習のまとめ	これまでの講義内容を振り返り、復習を行う。レポートについて、個別に相談に応じる。	事後：返却された課題のコメントを読み、適宜修正を行う。レポートの執筆を開始する。

授業科目	表現技法Ⅱ（討議・発表）A Presentation Skills II (Academic Presentation)		担当教員	高木 維				
対象学科・ 年次・学期	栄養学科・1年次・後期		選択・必修	必修				
授業形態	演習		単位数	1単位				
学科ディプロ マ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
	○	◎						
授業目的	本科目は、大学および社会において求められるプレゼンテーション技術の習得を目的とする。プレゼンテーションの準備段階ではディスカッションを行い、他者の見解や批判を取り込んで考察を進める方法を学習する。また、プレゼンテーションにおいては発表資料を作成し、自分の主張を的確に伝えるための能力を身に付ける。							
到達目標	1. 多人数の前で、説得力のあるプレゼンテーションをするための技術を習得する。 2. 議論を推し進めるために、どのような点に着目すべきかを学習する。 3. 発表内容を的確に資料にまとめる技術を習得する。							
関連科目	1年前期に履修した「表現技法Ⅱ」と密接に関係する。							
テキスト	なし							
参考書	奥田統己、神成洋、佐々木冠、本間徹夫、山崎哲永 共著「読みやすく考えて調べて書く」（学術図書出版） 河野哲也「レポート・論文の書き方入門」（慶應義塾大学出版会）							
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点					
	試験		目標の到達状況を下記の方法で評価する。 提出物・授業態度により総合的に評価する。 ※口頭発表ができない場合は、評価の対象とはならない。 ・提出物（50%）：各種提出課題への取り組み ・授業態度（50%）：ディスカッション・口頭発表会への取り組みの姿勢					
	レポート							
	小テスト							
	提出物	50						
その他	50							
履修上の 留意事項	講義内活動をもとに、段階的にディスカッションや口頭発表会の準備を行う。 そのため、欠席回はTEAMSにアップロードされる講義資料を確認し、自身で学習を進める必要がある。							
課題に対するフィ ードバックの方法	提出物にはコメントを付して返却する。							
実務経験を 活かした教育内容								
回数 (担当)	学習の主題	授業内容					事前・事後学習	
1	・ガイダンス ・文献調査	・本科目の目的、評価基準 ・図書館・ネットを利用した情報の調べかた					ワークノートを利用し、文献調査を進める（1時間）	
2	・リサーチエスション ・図表の利用	・リサーチエスションの考えかた・絞り込みかた ・レポートにおける図表の利用のしかた					次回講義時間までに提出課題①「図表の利用」を完成させ、提出する（1時間）	
3	・資料の作成	・ディスカッションで利用する配布資料の構成 ・リサーチエスションと、現段階での調査結果のまとめかた					調査した内容のなかで特に重要な情報を、wordにまとめる（1時間）	
4	・ディスカッション概要	・一般的なディスカッションの構成と役割 ・ディスカッションの練習					ディスカッション時に配布する資料作成をつづける（1時間）	
5	・ディスカッション①	・現時点での状況調査結果・考察を資料にまとめ、グループでディスカッションを行う					提出課題②「ディスカッション報告書」を作成する（1時間）。	
6	・ディスカッション②	・現時点での状況調査結果・考察を資料にまとめ、グループでディスカッションを行う					提出課題②「ディスカッション報告書」を作成する（1時間）。	
7	・口頭発表会の概要 ・発表資料の作成	・口頭発表会の構成と評価 ・発表時間内に収まる原稿の構成と、作成の手順					ディスカッション資料やワークノートをもとに、発表資料を作成する（1時間）	
8	・原稿の作成	・発表時間内に収まる原稿の構成と、作成の手順					ワークノートをもとに、発表原稿を作成する（1時間）	
9	・質疑応答 ・口頭発表の注意点	・わかりやすい質問の方法と、回答の心がけ ・印象のよいプレゼンテーションに必要な技術					発表原稿の推敲を行う。また、発表資料を完成させる（1時間）	

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
10	・口頭発表会①	・発表時間 4-5 分、質疑応答 5 分までの発表を行う	提出課題③「発表資料」を締切までに提出する。また、発表の練習を行う（1 時間）
11	・口頭発表会②	・発表時間 4-5 分、質疑応答 5 分までの発表を行う	提出課題③「発表資料」を締切までに提出する。また、発表の練習を行う（1 時間）
12	・口頭発表会③	・発表時間 4-5 分、質疑応答 5 分までの発表を行う	発表の練習を行い、本番に備える（1 時間）
13	・口頭発表会④	・発表時間 4-5 分、質疑応答 5 分までの発表を行う	発表の練習を行い、本番に備える（1 時間）
14	・口頭発表会⑤	・発表時間 4-5 分、質疑応答 5 分までの発表を行う	発表の練習を行い、本番に備える（1 時間）
15	・総括	・発表資料と評価の返却 ・前期・後期を通じて「表現技法」で学んだ内容の総括	評価やコメントを読み、発表において注意すべき点を確認する（1 時間）

授業科目	表現技法Ⅱ（討議・発表）B Presentation Skills II (Academic Presentation)				担当教員	安永 立子		
対象学科・ 年次・学期	栄養学科・1年次・後期				選択・必修	必修		
授業形態	演習				単位数	1単位		
学科ディプロ マ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
	○	◎						
授業目的	さまざまな場面で必要とされる「プレゼンテーション力」を養い、人間関係を構築するコミュニケーションのあり方を学習する。また、多人数の前で話す能力を身につけるとともに、的確な情報伝達の方法を学習する。さらに、自分の主張を論理的に表現する方法を学び、複数人による討議を有意義に進行させることができる。							
到達目標	1.日本語による発表や討論のための基本的な方法論を身につける。 2.発話による他人とのコミュニケーションを円滑に行うために、必要な知識を習得する。 3.複数人による討議に際して、論理的な議論を行うことを可能にする。							
関連科目	1年前期に履修した表現技法Ⅰと密接に関係する。							
テキスト	なし							
参考書	授業時間内にその都度紹介する。							
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点					
	試験		目標の到達状況を下記の方法で評価する。					
	レポート		毎回の講義への積極的な参加に対して、4点満点で採点し、60点満点として評価する（3分の1以上の欠席は評価の対象外）。授業内での口頭発表及び、その準備のために作成する課題と事後の振り返り課題をその都度採点し、合計を40点満点に換算して、100点満点で上記の目標の達成度を評価する。なお、授業内で課す口頭発表を実施できなかった場合は評価の対象としない。					
	小テスト		その他：口頭発表、授業への取り組み姿勢					
	提出物	40						
その他		60						
履修上の 留意事項	授業に欠席した場合は、欠席日のワークシートを必ず受け取ること。							
課題に対するフィ ードバックの方法	提出物は適宜添削し、講評を添えて返却する。							
実務経験を 活かした教育内容								
回数 (担当)	学習の主題	授業内容					事前・事後学習	
1	ガイダンス／本科目の説明と履修上の注意 プレゼンテーションについて /適切なテーマ設定について学ぶ	本科目の目的、学習内容と方法、評価方法と基準、履修上の留意点について、説明する。 プレゼンテーションのテーマについてワークシートを作成する。作業の進め方についてスケジュールを理解する。 *パソコンを持参すること。					事前にシラバスを読み、履修上の疑問点を確認しておく(30分)。 プレゼンテーションのテーマを決定するための調査を行う(30分)。	
2	プレゼンテーションの構成	プレゼンテーションをどのように組み立てるか理解する。 *パソコンを持参すること。					プレゼンテーション作成に必要な資料を収集する(1時間)。	
3	グループディスカッションにむけた準備	グループディスカッションに向けて発表用配布資料の作り方を学ぶ。 *パソコンを持参すること。					グループディスカッションに必要な視覚的資料及び、発表原稿を作成する。(1時間)。	
4	グループディスカッションその1	グループに分かれ、それぞれ現時点での発表概要を説明する。グループ内で互いの発表について、討議を行い、プレゼンテーション完成を目指す。 *パソコンを持参すること。					グループディスカッションに必要な視覚的資料及び、発表原稿を作成する。発表後グループディスカッションワークシートを完成させ、次週に提出する(1時間)。	
5	グループディスカッションその2	グループに分かれ、それぞれ現時点での発表概要を説明する。グループ内で互いの発表について、討議を行い、プレゼンテーション完成を目指す。 *パソコンを持参すること。					グループディスカッションに必要な視覚的資料及び、発表原稿を作成する。発表後グループディスカッションワークシートを完成させ、次週に提出する(1時間)。	

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
6	プレゼンテーション発表にむけた個人指導その1	プレゼンテーションの作成にあたって、個別の進捗状況を確認し、発表全体の完成を目指す。 *パソコンを持参すること。	
7	プレゼンテーション発表にむけた個人指導その2	プレゼンテーションの作成にあたって、個別の進捗状況を確認し、発表全体の完成を目指す。 *パソコンを持参すること。	プレゼンテーションに必要な視覚的資料及び、発表原稿を作成する。(1時間)。 プレゼンテーション第1週の発表者は発表用配布資料を次週までに提出する。
8	口頭発表の留意点／発表時の質問方法と応答の形式	口頭による発表の特徴と留意点について学習する。また、発表内容に対してどのような質問をするべきか、質問に対しての適切な応答はどのようなものかを学習する。 *パソコンを持参すること。	プレゼンテーションに必要な視覚的資料及び、発表原稿を作成する。(1時間)。 プレゼンテーション第2週の発表者は発表用配布資料を次週までに提出する。
9	実践：プレゼンテーション (1)	視覚資料を使用した口頭発表の実践として、プレゼンテーションを行う。自分の主張を相手に理解してもらい発表のしかたを学ぶ。また、発表を聞いて発表内容についての討議に参加する。	発表者はプレゼンテーションの振り返りシートを作成し、次週に提出。次回発表者は発表用配布資料を提出し、リハーサルをしておくこと。聴講者は発表予定題目について討議に参加するための事前学習を行う(1時間)。
10	実践：プレゼンテーション (2)	視覚資料を使用した口頭発表の実践として、プレゼンテーションを行う。自分の主張を相手に理解してもらい発表のしかたを学ぶ。また、発表を聞いて発表内容についての討議に参加する。	発表者はプレゼンテーションの振り返りシートを作成し、次週に提出。次回発表者は発表用配布資料を提出し、リハーサルをしておくこと。聴講者は発表予定題目について討議に参加するための事前学習を行う(1時間)。
11	実践：プレゼンテーション (3)	視覚資料を使用した口頭発表の実践として、プレゼンテーションを行う。自分の主張を相手に理解してもらい発表のしかたを学ぶ。また、発表を聞いて発表内容についての討議に参加する。	発表者はプレゼンテーションの振り返りシートを作成し、次週に提出。次回発表者は発表用配布資料を提出し、リハーサルをしておくこと。聴講者は発表予定題目について討議に参加するための事前学習を行う(1時間)。
12	実践：プレゼンテーション (4)	視覚資料を使用した口頭発表の実践として、プレゼンテーションを行う。自分の主張を相手に理解してもらい発表のしかたを学ぶ。また、発表を聞いて発表内容についての討議に参加する。	発表者はプレゼンテーションの振り返りシートを作成し、次週に提出。次回発表者は発表用配布資料を提出し、リハーサルをしておくこと。聴講者は発表予定題目について討議に参加するための事前学習を行う(1時間)。
13	実践：プレゼンテーション (5)	視覚資料を使用した口頭発表の実践として、プレゼンテーションを行う。自分の主張を相手に理解してもらい発表のしかたを学ぶ。また、発表を聞いて発表内容についての討議に参加する。	発表者はプレゼンテーションの振り返りシートを作成し、次週に提出。次回発表者は発表用配布資料を提出し、リハーサルをしておくこと。聴講者は発表予定題目について討議に参加するための事前学習を行う(1時間)。
14	実践：プレゼンテーション (6)	視覚資料を使用した口頭発表の実践として、プレゼンテーションを行う。自分の主張を相手に理解してもらい発表のしかたを学ぶ。また、発表を聞いて発表内容についての討議に参加する。	発表者はプレゼンテーションの振り返りシートを作成し、次週に提出。聴講者は発表予定題目について討議に参加するための事前学習を行う(1時間)。
15	後期授業全体のまとめと反省	プレゼンテーションの発表原稿、振り返りシート等を添削して返却するとともに、講評を渡し解説を加える。	後期の講義全体を振り返り、発表・討議の際に注意すべき点を確認しておく(1時間)。

授業科目	表現技法Ⅱ（討議・発表）C Presentation Skills II Academic Presentation)				担当教員	錦戸 葵		
対象学科・ 年次・学期	栄養学科・1年次・後期				選択・必修	必修		
授業形態	演習				単位数	1単位		
学科ディプロ マ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
	○	◎						
授業目的	本科目は、学業および社会活動において必要とされる、討議・口頭発表・資料作成の技術を獲得することを目的とする。また、質疑応答・フィードバック・振り返りを行うことで、論理的に思考・判断して課題を発見する力と、指摘された課題を解決する力を身につけることを目指す。							
到達目標	1. 討議・発表の基礎知識を身につけ、グループディスカッションやプレゼンテーションを円滑に行うことができる。 2. 発表用の資料を、適切に作成することができる。 3. 課題および解決策を見つけることができる。							
関連科目	1年前期に履修した「学びの理解」と関連する。							
テキスト	なし							
参考書	講義内で適宜紹介する。							
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点					
	試験		期末レポートを3割、授業内での提出物を3割、その他（グループディスカッション・結論報告会・プレゼンテーションの内容・姿勢）を4割として評価する。 なお、グループディスカッションとプレゼンテーションのいずれも行わなかった場合、評価の対象としない。また、期末レポートを提出しなかった場合も、評価の対象としない。					
	レポート	30						
	小テスト							
	提出物	30						
その他	40							
履修上の 留意事項	自分がプレゼンテーションを行う回に欠席する場合は、必ず教員に連絡すること。また、欠席した回の配布物は、後日必ず受け取ること。							
課題に対するフィ ードバックの方法	提出物は、コメントを付して返却する。							
実務経験を 活かした教育内容								
回数 (担当)	学習の主題	授業内容				事前・事後学習		
1	ガイダンス	授業目的、到達目標、評価方法・基準について確認する。グループディスカッション用のグループ分けを行う。				事前：シラバスを確認する。		
2	グループディスカッション の準備①	グループディスカッションのやり方と、報告・質疑応答の流れについて学習する。				事後：グループディスカッションの手順を復習する。		
3	グループディスカッション の準備②	グループで交流する。自己紹介シートを作成し、グループ内で自己紹介を行う。ディスカッションの練習として、指定されたテーマについて話し合い、結論とその理由をグループでまとめ、提出する。				事後：次回のグループディスカッションに向けて、自分が果たしたい役割を考える。		
4	グループディスカッション	グループディスカッションを行う。前半グループがディスカッション（30分）を行い、後半グループが観察・フィードバックをする。その後、前半グループと後半グループを入れ替えて、同様にディスカッション・観察・フィードバックを行う。				事後：次回の報告会と感想文作成に向け、ディスカッションとフィードバックの内容を振り返り、まとめておく。		
5	結論報告会の準備	前回のディスカッションの結論を、フィードバックを踏まえ報告用にまとめる。代表1名を選出し、グループで相談しながら報告原稿を作成する。報告・質疑応答の練習を行う。				事前：ディスカッションとフィードバックの内容を振り返る		
6	結論報告会	代表1名がディスカッションの結論をクラス全体に報告する。1グループずつ報告（5分）と質疑応答（3分）を行ったあと、グループで振り返りを行い、個人で感想を書いて提出する。				事前：報告・質疑応答の準備をする。		
7	プレゼンテーションの準備 ①	プレゼンテーションについて学習する。プレゼンテーションの練習として、指定されたテーマについて発表するための原稿を作成する。				事後：返却された提出物のコメントを確認する。次回の発表の準備をする。		

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
8	プレゼンテーションの準備 ②	プレゼンテーションの練習として、グループ内で1人ずつ発表(3分)・質疑応答(2分)を行う。振り返りを行い、個人で感想を書いて提出する。	事前：発表の練習をする。 事後：振り返りの内容を踏まえ、プレゼンテーションに備える。
9	プレゼンテーションの準備 ③	プレゼンテーション用の資料の作成方法について学習する。資料の引用・出典について復習する。個別に相談に応じる。	事後：プレゼンテーション用の原稿と資料を作成し、発表の練習をする。
10	プレゼンテーション①	1人ずつプレゼンテーションを行う(1/4)。発表(5分)と質疑応答(3分)を行ったあと、発表者は自分の発表の振り返りを、それ以外の学生は発表を聞いた感想を、それぞれ書いて提出する。	事前：プレゼンテーションの準備をする。 事後：発表者は、自分の発表に対する質問・コメントをまとめ、レポート執筆に備える。
11	プレゼンテーション②	1人ずつプレゼンテーションを行う(2/4)。発表(5分)と質疑応答(3分)を行ったあと、発表者は自分の発表の振り返りを、それ以外の学生は発表を聞いた感想を、それぞれ書いて提出する。	事前：プレゼンテーションの準備をする。 事後：発表者は、自分の発表に対する質問・コメントをまとめ、レポート執筆に備える。
12	プレゼンテーション③	1人ずつプレゼンテーションを行う(3/4)。発表(5分)と質疑応答(3分)を行ったあと、発表者は自分の発表の振り返りを、それ以外の学生は発表を聞いた感想を、それぞれ書いて提出する。	事前：プレゼンテーションの準備をする。 事後：発表者は、自分の発表に対する質問・コメントをまとめ、レポート執筆に備える。
13	プレゼンテーション④	1人ずつプレゼンテーションを行う(4/4)。発表(5分)と質疑応答(3分)を行ったあと、発表者は自分の発表の振り返りを、それ以外の学生は発表を聞いた感想を、それぞれ書いて提出する。	事前：プレゼンテーションの準備をする。 事後：発表者は、自分の発表に対する質問・コメントをまとめ、レポート執筆に備える。
14	レポート作成の準備	プレゼンテーションの内容をレポート(期末レポート)にまとめるために、レポートの書き方について復習する。※プレゼンテーション予備日①	事後：レポート執筆の準備をする。
15	学習のまとめ	これまでの講義内容を復習する。レポートについて、個別に相談に応じる。※プレゼンテーション予備日②	事後：これまでの配布資料を確認し、レポートの執筆を開始する。

授業科目	心理学 Psychology	担当教員	安念 保昌					
対象学科・年次・学期	栄養学科・1年次・前期			選択・必修	必修			
授業形態	講義			単位数	2単位			
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
	○	◎	○	○				
授業目的	心とはいったい何なのか、心理学はその心をどの様に捉えようとしているのかを理解することが、この授業の目的である。心理学は様々な近接領域から影響を受けて、多様な形をなし、まずはその歴史的起源に立ち戻って、基本を押さえる。さらに心理学のそれぞれの領域で、行動や心をどの様に捉えてきたのかを理解し、そのどの領域にも共通する、身体と行動と心の繋がりを学修する。							
到達目標	食と体を結び付ける心の働きを知ることで、栄養士としての様々な場面における応用について学ぶ。 1) 心理学の基本的なものの考え方を理解する。 2) それぞれの領域の中で、行動や心がどの様に捉えられているのかを理解する。 3) 毎回の内容に関するワークシートや、Miro などを利用したグループワークや簡単な実験調査などを通して体験的に理解する。 4) それを簡潔なレポートにまとめる。復習は、この簡潔なレポートを作成することにある。							
関連科目	生涯発達論、人間関係論							
テキスト	前もって配信される授業資料							
参考書	適宜紹介する。 下山晴彦,他(編)「心理学事典」(誠心書房)2014 小林芳郎(編著)「新しい心理学へのアプローチ」(保育出版社)2015							
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点					
	試験	40	毎回復習として課されるワークシートにて、授業内容のエッセンスを自分のエピソード記憶と融合させ、文章化し提出してもらう。またその総まとめとして、定期試験を行う。それらをワークシート:定期試験=6:4で評価する。					
	レポート							
	小テスト							
	提出物	60						
その他								
履修上の留意事項	前もって配信される授業資料に、授業前に目を通して、授業中は、3色ボールペンを使ってノートを取る。主な授業内容は黒、重要な点は赤、自分で思いついた点は青で書く。							
課題に対するフィードバックの方法	授業冒頭、前回提出されたワークシートの回答にコメントしながら、復習する時間を設ける。試験の採点后、試験問題に関して、授業の流れの中でどの部分から出たのか、またそれについて解説した文書を、Teamsで配信する。							
実務経験を活かした教育内容								
回数(担当)	学習の主題	授業内容					事前・事後学習	
1	心理学はどの様にして誕生したのか	心そのものについて、その存在の不思議さ：心理学の歴史と動向					事前：配信される授業資料を予習する(2時間)。事後：授業後ワークシートにて復習を行う(2時間)。	
2	心の起源について考える	心はどのようにして生まれたのか、地球史の長期的視点で振り返る：比較心理学					事前：配信される授業資料を予習する(2時間)。事後：授業後ワークシートにて復習を行う(2時間)。	
3	心と脳とのつながり	心はどこにあるのか：神経心理学的基礎					事前：配信される授業資料を予習する(2時間)。事後：授業後ワークシートにて復習を行う(2時間)。	
4	人は周りをどのように感じとらえているのか	心の活動は、身の回りを感じ、捉えることから始まる：感覚知覚心理学					事前：配信される授業資料を予習する(2時間)。事後：授業後ワークシートにて復習を行う(2時間)。	
5	人は何に気づき注意するのか	2つのタイプの注意、小実験、注意の2過程説、闕下刺激：注意の心理学					事前：配信される授業資料を予習する(2時間)。事後：授業後ワークシートにて復習を行う(2時間)。	
6	記憶とは何か	記憶にまつわる、身近な問題：記憶の認知科学					事前：配信される授業資料を予習する(2時間)。事後：授業後ワークシートにて復習を行う(2時間)。	

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
7	言葉とは何か	言葉の成り立ちと獲得：言語心理学	事前：配信される授業資料を予習する(2時間)。事後：授業後ワークシートにて復習を行う(2時間)。
8	考えるとはどういうことか	思考の意義と過程：思考心理学	事前：配信される授業資料を予習する(2時間)。事後：授業後ワークシートにて復習を行う(2時間)。
9	うまくよく生きること	新しさを創り出す心は、豊かで充実した生活を生み出す：知能の心理学	事前：配信される授業資料を予習する(2時間)。事後：授業後ワークシートにて復習を行う(2時間)。
10	人はどのように感じ、揺れ動くか	感情・情動の心理学	事前：配信される授業資料を予習する(2時間)。事後：授業後ワークシートにて復習を行う(2時間)。
11	人は何を求め、どのように生きてゆくか	動機・欲求・適応の心理学	事前：配信される授業資料を予習する(2時間)。事後：授業後ワークシートにて復習を行う(2時間)。
12	性格とは何か	性格の理論、形成と要因：性格心理学	事前：配信される授業資料を予習する(2時間)。事後：授業後ワークシートにて復習を行う(2時間)。
13	経済心理学から見たテーマパーク	ディズニーランドの心理学	事前：配信される授業資料を予習する(2時間)。事後：授業後ワークシートにて復習を行う(2時間)。
14	ヒトのかわいらしさの起源	脳の進化とネオテニー	事前：配信される授業資料を予習する(2時間)。事後：授業後ワークシートにて復習を行う(2時間)。
15	人はなぜひかれあうのか	恋愛の心理学	事前：配信される授業資料を予習する(2時間)。事後：授業後ワークシートにて復習を行う(2時間)。

授業科目	倫理学 Ethics		担当教員	村上 友一				
対象学科・年次・学期	栄養学科・1年次・前期		選択・必修	必修				
授業形態	講義		単位数	1単位				
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
	◎	○		○				
授業目的	社会の一員として責任ある行動をとりうる自己を形成するために、倫理的な思考力を形成する。また、将来的に直面しうる諸問題に対応するための情報収集力・論理的思考力を養うとともに、そうした問題を言語化するだけの表現力を身につける。							
到達目標	1.決定主体である自己の成立基盤を理解する。 2.倫理的な問題に対して自分自身で考える力を養成する。 3.自分自身の考えを正しく表現する力を養い、コミュニケーション能力の向上をはかる。							
関連科目	1年後期で学修する「法と人権」、2年前期の「生命倫理」、3年後期「看護倫理」につながる科目である。							
テキスト	特に指定しない。							
参考書	授業内で紹介する。							
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点					
	試験		目標の到達状況を下記の方法で評価する。 レポート 50%、提出物 25%、その他 25%によって評価する。なお、その他には、「事前学習・事後学習」が含まれる。					
	レポート	50						
	小テスト							
	提出物	25						
その他	25							
履修上の留意事項	本講義では自分で考え、それを文章化する時間を設ける（上記、提出物）。この時間は私語を認めるので、友人とのコミュニケーションを通して自分の考えを深めて欲しい。講義がすべて終了した後にレポートが課される。							
課題に対するフィードバックの方法	課題へのフィードバックは期末レポートのみ行う（提出先の moodle において）。							
実務経験を活かした教育内容								
回数 (担当)	学習の主題	授業内容			事前・事後学習			
1	ガイダンス	生命倫理や現代社会において重視される自己決定権の背後に自由主義があることを確認する。			事前学習：自己決定権について自らの見識を言語化しておく。（1時間） 事後学習：講義で扱った問題について理解を深めるために学習課題を提示する。受講者は自ら情報収集・考察し、一定の字数にまとめなければならない。（3時間）			
2	自由主義の帰結	自由主義を突き詰めると、社会規範の多くが浸食されるほか、いくつかの問題が生じることを確認する。			事前学習：自由主義について自らの見識を言語化しておく。（1時間） 事後学習：講義で扱った問題について理解を深めるために学習課題を提示する。受講者は自ら情報収集・考察し、一定の字数にまとめなければならない。（3時間）			
3	自由主義と臓器売買	リバタリアニズムの立場からは容認されてしまう臓器売買、その実態を見ることにより、自由主義の負の側面を考察する。			事前学習：臓器売買について自らの見識を言語化しておく。（1時間） 事後学習：講義で扱った問題について理解を深めるために学習課題を提示する。受講者は自ら情報収集・考察し、一定の字数にまとめなければならない。（3時間）			

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
4	カントのリバタリアニズム批判	カントの哲学的立場から「自由主義」を批判的に見たときに、何が得られ、何が失われるかを見ておく。	事前学習：哲学者カントについて調べる（理解は求めない）（1時間） 事後学習：講義で扱った問題について理解を深めるために学習課題を提示する。受講者は自ら情報収集・考察し、一定の字数にまとめなければならない。（3時間）
5	自由をめぐる実践的考察	リバタリアニズムやカント主義のように極端に走るのではなく、われわれの生活実践から自由主義を再構築する。	事前学習：とくに求めない。他の科目を1時間多く勉強してください。 事後学習：講義で扱った問題について理解を深めるために学習課題を提示する。受講者は自ら情報収集・考察し、一定の字数にまとめなければならない。（3時間）
6	自己決定の成立基盤としての平等	リバタリアンが考えるように平等が自由を破壊するのではなく、むしろ平等が自由を保障することを確認する。	事前学習：とくに求めない。他の科目を1時間多く勉強してください。 事後学習：講義で扱った問題について理解を深めるために学習課題を提示する。受講者は自ら情報収集・考察し、一定の字数にまとめなければならない。（3時間）
7	平等概念の再検討	平等概念は複雑であるので、これを分析・整理する。また、いくつかの事例について考えることを通して、平等と不平等の理解を深める。	事前学習：平等について自分がどのようなイメージを抱いているかを言語化しておく。（1時間） 事後学習：講義で扱った問題について理解を深めるために学習課題を提示する。受講者は自ら情報収集・考察し、一定の字数にまとめなければならない。（3時間）
8	自己と共同体の関係を問い直す	自己決定の主体である個人がどのような存在であるのかを、これまでの考察を整理しつつ解明していく。インフォームド・コンセントの主体となるべき個人のあり方を明確にし、それによってインフォームド・コンセントを別の角度からとらえる視点を提供する。	事前学習：「自己形成」「アイデンティティ」について調べ、講義に備える。（1時間） 事後学習：講義で扱った問題について理解を深めるために学習課題を提示する。受講者は自ら情報収集・考察し、一定の字数にまとめなければならない。（3時間）

授業科目	生態学 Ecology		担当教員	立澤 史郎				
対象学科・年次・学期	看護学科/栄養学科・1 年次・前期		選択・必修	選択				
授業形態	講義		単位数	1 単位				
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
		○	◎	○				
授業目的	ヒトを含む生物と環境の関係および様々な環境問題について科学的・客観的に理解するために、生態学の基本概念と身近な事例を学ぶ。							
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「2つの自然」「3つの生態学」について理解し説明できる。 ・関心のある地球環境問題について生態学的観点から説明することができる。 							
関連科目	生物学 A・B、情報リテラシー、生活環境論、生命倫理							
テキスト	ありません。							
参考書	1.日本生態学会編「生態学入門 [第 2 版] (東京化学同人) 2.鷲谷いづみ, 矢原徹一著「保全生態学入門—遺伝子から景観まで」(文一総合出版)							
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点					
	試験		目標の到達状況を毎回のコメントペーパー、レポート、および受講状況を合わせて総合的に評価します。 レポート 40% 提出物 40%：コメントペーパー その他 20%：受講態度など					
	レポート	40						
	小テスト							
	提出物	40						
その他	20							
履修上の留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・高校「生物」教科書（特に生態・環境の項）を読み返しておくことが望ましい。 ・講義の内容および順序は受講生の理解度や関心等により変更する場合があります。 							
課題に対するフィードバックの方法	課題の達成度に応じた説明や情報の追加を授業内で行います。また個別の質問にも対応します。							
実務経験を活かした教育内容	国内外で地域住民・動物・生態系の one-health をめざして行っているプロジェクト等の内容を授業に反映させます。							
回数 (担当)	学習の主題	授業内容					事前・事後学習	
1	暮らしと生態学 (ナチュラルヒストリー基礎)	ヒトを含め生物が環境との相互作用の中で生きていること、それゆえ人・生物・環境の三者のバランス (one-health) が重要であることを理解する。生物の生きざま (生活史) を知る手法として生活痕跡 (フィールドサイン) の見方を学ぶ。					事前学習：過去に学んだ「進化」「適応」について復習しておくこと。(3~4 時間)	
2	鹿学 (かがく) 入門 (ナチュラルヒストリー応用)	生物が環境といかにかかわりあいながら生活しているか、その結果としてどのように多様化しているか、“シカ”を例に学ぶ。					事前学習：身の回りで「野生動物」についてどのようなニュースがあるか調べてみこと。(3~4 時間)	
3	個体群生態学 1 (基礎)	個体数の変動過程やその要因に関する基礎概念を学ぶ。またそれが、人口問題の理解や鳥獣害問題の解決・軽減につながることを理解する。					事前学習：身の回りやメディアで見聞きする人口問題に関係する記事・ニュースをよく読んでおくこと。(3~4 時間)	
4	個体群生態学 2 (応用：人口問題と鳥獣害)	個体群生態学 (個体数変動) の研究例を学ぶ。また応用事例として、人口問題や鳥獣害問題について学ぶ。					事前学習：身の回りやメディアで見聞きする鳥獣害問題に関係するニュースをよく読んでおくこと。(3~4 時間)	
5	群集生態学 1 (基礎)	生物群集 (種数) の変化や生物多様性に関する基礎概念を学ぶ。またそれらが外来種問題と関係していることを理解する。					事前学習：身の回りやメディアで見聞きする生物多様性に関係するニュースをよく読んでおくこと。(3~4 時間)	
6	群集生態学 2 (応用：生物多様性と外来種問題)	群集生態学の応用事例として、生物多様性保全の問題と外来種問題について学ぶ。					事前学習：身の回りやメディアで見聞きする外来生物に関係するニュースをよく読んでおくこと。(3~4 時間)	

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
7	生態系生態学 1 (基礎)	生態系における物質やエネルギーの循環について学ぶ。またそれが、人類の生存環境の問題と関わることを理解する。	事前学習：身の回りやメディアで見聞きする生態系に関するニュースをよく読んでおくこと。(3~4 時間)
8	生態系生態学 2 (応用：食物連鎖と生態濃縮)	生態系生態学の応用事例として、食物連鎖と生態濃縮について学ぶ。またそれらの視点を持つことで、人類が自らの生存環境にどのような影響を与えてきたか理解する。	事前学習：身の回りやメディアで見聞きする環境・公害問題に関するニュースをよく読んでおくこと。(3~4 時間)

授業科目	スポーツ科学と運動 Sports Science and Exercise		担当教員	大浦 浩				
対象学科・年次・学期	栄養学科・1年次・後期		選択・必修	選択				
授業形態	演習		単位数	1単位				
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
	◎	○		○			○	
授業目的	本授業は、身体を動かすことを通し、スポーツの楽しさ、仲間とのコミュニケーション、自他の体調の変化の「気づき」などを知り、社会生活に必要な「協調性」やあらゆる場面に自ら対応していく「積極性」を身につけることを目的とします。							
到達目標	医療人として豊かな人間性、社会生活に必要なマナーや社会性を身につける。							
関連科目	中学レベルの保健体育理論の知識を基盤とするので各自復習しておいてください。							
テキスト	特になし							
参考書	特になし							
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点					
	試験		実技参加への意欲・積極性と受講態度、安全性の評価と技能評価を総合して評価する。(70%) また課題を期限内に提出する事とする。(30%)					
	レポート							
	小テスト							
	提出物	30						
その他	70							
履修上の留意事項	全授業回数の 2/3 以上の出席回数が必要。安全にスポーツを行う為に運動着、運動しやすい靴を着用すること。土足厳禁。感染防止対策として、マスクの着用。時間厳守。授業中の無断退室・飲食・勝手な行動を禁ずる。規則厳守。シラバスに記載されているスポーツ種目の順番、実施回数、種目等は履修者人数によって変更する場合ある。各時間、予習復習時間は 60 分程度。							
課題に対するフィードバックの方法	課題提出物には評価を付けて返却します。 A～C 評価は再提出なし。D 評価は再提出してもらいます。							
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、ポッチャなど講義に織り交ぜながら、インクルーシブ教育について理解しやすいように授業を行います。							
回数 (担当)	学習の主題	授業内容					事前・事後学習	
1	ガイダンス レクリエーション	授業内容と目的、授業内容の構成、受講の諸注意の説明、評価方法について理解する。 軽い運動で身体をほぐす。					シラバスを読む。実技授業に参加できるだけの基礎体力づくりと健康管理を日頃から心がける。軽い運動が出来るような服装をすること。	
2	ソフトバレーボール①	基本ルールについて ボール操作とコントロール					ソフトバレーボールを文献やインターネットなどで予習	
3	ソフトバレーボール②	基本練習～攻撃編					ソフトバレーボールを文献やインターネットなどで復習（課題提出①）	
4	ソフトバレーボール③	基本練習～守備編					ソフトバレーボールを文献やインターネットなどで復習（課題提出②）	
5	ソフトバレーボール④	リーグ戦①					ソフトバレーボールを文献やインターネットなどで復習（課題提出③）	
6	ソフトバレーボール⑤	リーグ戦②					ソフトバレーボールを文献やインターネットなどで復習（課題提出④）	
7	ソフトバレーボール⑥	リーグ戦③					ソフトバレーボールを文献やインターネットなどで復習（課題提出⑤）	
8	バドミントン①	各ストロークの基本練習① ハーフコートでシングルスゲーム練習					バドミントンを文献やインターネットなどで予習	

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
9	バドミントン②	各ストロークの基本練習② ハーフコートでシングルスゲーム練習	バドミントンを文献やインターネットなどで復習（課題提出⑥）
10	バドミントン③	ルールの説明 ダブルスゲーム	バドミントンを文献やインターネットなどで復習（課題提出⑦）
11	バドミントン④	ダブルスゲーム	バドミントンを文献やインターネットなどで復習（課題提出⑧）
12	バドミントン⑤／生涯スポーツ（ポッチャ①）	生涯スポーツについて説明、ポッチャのルール説明	文献やインターネットなどで予習
13	バドミントン⑥／ポッチャ②	ダブルスゲーム	バドミントンとポッチャについて文献やインターネットなどで復習（課題提出⑨）
14	バドミントン⑦／ポッチャ③	ダブルスゲーム	バドミントンとポッチャについて文献やインターネットなどで復習（課題提出⑩）
15	まとめ	ソフトバレーボール、バドミントンゲーム	半期で実施した各実技種目等の復習

授業科目	スポーツ理論 Sports Theory				担当教員	大浦 浩			
対象学科・年次・学期	栄養学科/看護学科・1 年次・後期				選択・必修	選択			
授業形態	講義				単位数	1 単位			
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6	
		○		◎					
授業目的	看護師・養護教諭・保健師・栄養士・管理栄養士は、患者・生徒・クライアント等の健康を預かる大切な役割を担っている。そして、その健康の保持増進に影響を及ぼすとされるのが運動（スポーツ）である。本科目では、健康を含めた対象者の QOL に大きく関わる運動やスポーツについて自ら学び体験し、知識を構築するだけでなく、自身の運動習慣確立の第一歩とする事を目的とする。								
到達目標	1. 「健康とスポーツ（体力）との関連」や「栄養と睡眠」について理解する。 2. 「心身のつながりとスポーツとの関連」や「動機づけ」のメカニズムについて理解する。 3. 「トレーニング理論」と「運動プログラムの組み方」や「コンディションのセルフチェック法」について理解する。 4. 「スポーツを取り巻く社会変化」について理解する。								
関連科目	中学レベルの保健体育理論の知識を基盤とするので各自復習しておいてください。								
テキスト	プリントを配布								
参考書	1. 杉原隆著「運動指導の心理学」（大修館書店） 2. (特非) 日本トレーニング指導者協会編著「JATI トレーニング指導者テキスト【理論編】」（ベースボールマガジン社） 3. (特非) 日本トレーニング指導者協会編著「JATI トレーニング指導者テキスト【実践編】」（ベースボールマガジン社）								
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点						
	試験	100	目標の到達状況を受験条件（講義出席回数 2/3 以上）を満たした学生に対し、筆記試験にて 100%評価する。						
	レポート								
	小テスト								
	提出物								
その他									
履修上の留意事項	他者の学習の妨げとなるような私語や携帯電話の使用、飲食等を禁じる（飲み物は蓋付のもので、飲む時以外は机の上に置かなければ可）。禁止行為に対しては注意・指摘するが、改善が見られない場合は途中退室を命じることがある。大学生として節度ある受講態度を心掛けつつ、受講者間において講義内容に関する自由闊達な議論が展開されることを望む。尚、シラバスに記載されている内容や順番は状況により変更する場合がある。各授業の前後に 3～4 時間の予習・復習を要する。								
課題に対するフィードバックの方法	まとめの確認レポートについては、翌週の授業時に返却し解答・解説をする。								
実務経験を活かした教育内容									
回数 (担当)	学習の主題	授業内容						事前・事後学習	
1	・ガイダンス ・「こころとからだ」のつながり	講義の目的と内容構成、受講の諸注意、評価方法、講義の進め方について理解する。 スポーツ理論を学ぶ上で基本となる「心身の関連」について理解する。						シラバスを読む。	
2	・スポーツと動機づけについて	いわゆる“モチベーション”の正体を知り、その維持向上のメカニズムを学習する。スポーツ活動における成功（失敗）体験が人に及ぼす影響や自己コントロール法について理解する。						「やる気」と「モチベーション」の違いを理解し、自分の精神を自己コントロールする訓練を行う。	
3	・フィードバックについて	運動学習における「フィードバック構造」について学習し、運動上達のメカニズムを理解する。フィードバックの効用を実験を通して体感する。						フィードバックを、自己の向上だけでなく、他者とのコミュニケーションにも活用する。	
4	・コーチングについて	コーチングの基礎を学習し、医療従事者、運動指導者に限らず、誰もが一度は遭遇する「他者を“コーチング”する場面」で力を発揮できるように準備する。						学習したコーチングスキルを日常生活で使えるようになる。	

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
5	・コンディショニングの基本について	より良いスポーツ活動のために必要なコンディショニングは、心身のセルフチェックを行うことから始まる。	自身の状態を確認し、以降のトレーニングにつなげる。
6	・トレーニング理論と運動処方について	トレーニングの原則（運動 - 栄養 - 休養（超回復））について学習し、トレーニング計画作成の基本を理解する。	簡単なトレーニングメニューの作成や、一定期間のトレーニング計画の立案をする。
7	・各年代の体力特性および適正な運動処方について	年代別の体力特性について触れ、ジュニア期を中心に、人の発育発達に応じた適切な運動選択の方法について学習する。	”いつ“、“何”を基準に、“どのような”運動を行えば良いのかを考え、理解する。
8	・スポーツと社会（オリンピック、ドーピング、人種、DNA） ・総括	スポーツに纏わる様々な社会問題を通して、今後のスポーツ界はどうなっていくのか、56年ぶりの自国開催となった「東京五輪 2020」を振り返りながら考察する。	オリンピックの歴史やスポーツ界の間について知り、未来のスポーツ界について思いをはせる。

授業科目	地域社会文化論 Community Culture Theory				担当教員	澤井 玄			
対象学科・年次・学期	看護学科/栄養学科・1 年次・後期				選択・必修	選択			
授業形態	講義				単位数	2 単位			
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6	
		○	◎	○					
授業目的	「節分にまくのは落花生」「赤飯には甘納豆が入っている」のは普通だろうか、変わっているのだろうか。いずれも北海道の習慣で、全国的なものではない。この授業では、本学の所在する北海道の気候や人柄・食文化・習慣などを客観化することなどを通じて、自分の「普通」が他者にとっても「普通」とは限らないことを理解する。そして「自分は正しい」だけでなく「他者も正しい」ことを認められる思考を身に付けたい。またアイヌ文化についても適宜触れていきたい。								
到達目標	北海道の地域特性を理解するとともに、地域・時代・環境により、「正しい」こと、「当たり前」のことは不変ではないことを理解する。								
関連科目	「現代社会論」「社会貢献と活動」に関連する。								
テキスト	特になし。毎回資料を配布する。								
参考書	必要に応じて紹介する。可能であれば『なにこれ!?北海道学』池田貴夫著(北海道新聞社 2013 年)を見ておくこと。また本講義にかかわる事項以外にも、日刊の総合新聞(web ではなく紙の)にできるだけ毎日、目を通すこと。								
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点						
	試験	50	目標への到達状況を試験等の結果・提出物・その他授業への取り組み姿勢などにより総合的に評価する。講義に取り上げる事項に関連するアンケートを複数回実施する。これは提出物として評価するので誠実かつできるだけ詳細に回答すること。欠席回数が授業回数の 1/3 を超えた場合は試験の受験資格を失う。定期試験を受験しなかった場合は評価の対象とならない。 <遠隔授業となった場合の評価方法については別途指示する>						
	レポート								
	小テスト								
	提出物	40							
その他	10								
履修上の留意事項	授業中の私語・許可を得ない入退出等、授業の進行の妨げとなる行為は厳禁する。上記に違反する者は学生証を提示させ、繰り返し注意を受ける者については以後の出席を認めない場合があるので十分注意のこと。								
課題に対するフィードバックの方法	毎回の出席 Forms における質問・感想および講義内容に関連するアンケートに対する回答・コメント等は、原則として次回講義時に口頭または必要に応じて資料を配布しておこなう。								
実務経験を活かした教育内容	道内各地で調査の機会があり、地域ごとに方言・産物・食生活等に差異・特色があることから、履修生たちの地元の特色も聞き出しながら授業展開を行っていく。								
回数(担当)	学習の主題	授業内容						事前・事後学習	
1	イントロダクション	・私たちの「正しい」は世界中で正しいのだろうか。例:「命は唯一無二」なのか。 ・NHK スペシャル『ヤノマミ』ビデオ前半視聴。 ・「地球の食卓」(TOTO 出版)から世界の食生活を垣間見る。 ・初回アンケート(生活の中でのカルチャーショック)						配付資料を復習しておくこと。アンケートに回答すること。(計 4.5 時間)	
2	地域・文化で異なる「当たり前」	・「地球の食卓」続き。 ・増加する在日外国人。習慣の違い。 ・NHK スペシャル『ヤノマミ』ビデオ後半視聴。 ・地域・文化に関するアンケート。						配付資料を復習しておくこと。アンケートに回答すること。(計 4.5 時間)	
3	命は「唯一無二」のものか?	・前回アンケート結果報告。 ・ヤノマミ族の新生児を「天に返す」行為について。 ・世界各地・各時代の人口抑制(墮胎・間引き)。						配付資料を復習しておくこと。(計 3.5 時間)	
4	親子・家族とは何か	・生物学的な親子と社会的な親子。 ・ 様々な親子のあり方。 ・どこまでが家族か。 ・「家族」に関するアンケート。						配付資料を復習しておくこと。アンケートに回答すること。(計 4.5 時間)	
5	日本の家族像	・江戸時代~現代の日本の家族像の変化。 ・「我が子」か「神の子」か。 ・誕生から死亡までの日本の儀礼・習慣。						配付資料を復習しておくこと。(計 3.5 時間)	
6	家族・家庭とは何か	・家族団欒(だんらん)の誕生と、家庭の食卓の変遷。明治からサザエさん ・ちびまる子ちゃん、そして現代。 ・家庭内教育の場としての食卓・団欒。						配付資料を復習しておくこと。(計 3.5 時間)	

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
7	現代の家族と食卓	<ul style="list-style-type: none"> ・家族のあり方の変化。 ・『家族の勝手でしょ』（岩村暢子・新潮社）にみる孤食・個食・勝手食い・バラバラ食いなど ・家庭内教育機会の減少。 	配付資料を復習しておくこと。(計 3.5 時間)
8	日本人の身体観	<ul style="list-style-type: none"> ・文化としての身体。 ・日本人の身体観・体に関する諺。 ・現代医療に必要な、文化による身体観の相違への理解。 	配付資料を復習しておくこと。(計 3.5 時間)
9	伝統的生活文化（伝統医療）と現代医療	<ul style="list-style-type: none"> ・現代医療と伝統医療の対立と共存。 ・民間治療・まじないのアンケート。 	配付資料を復習しておくこと。アンケートに回答すること。(計 4.5 時間)
10	方言と意思疎通	<ul style="list-style-type: none"> ・方言のために医療従事者が病状把握を誤る現状。「はらあんべ（腹塩梅）ニヤニヤすってや」など ・臨床方言学の提唱。 	配付資料を復習しておくこと。(計 3.5 時間)
11	北海道の自然と歴史	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道の自然環境 ・北海道に歴史は無いのか、明治時代以前から考える。 	配付資料を復習しておくこと。(計 3.5 時間)
12	明治から現代の北海道	<ul style="list-style-type: none"> ・本州からの移住 ・故地からの伝統継承と新しい生活 	配付資料を復習しておくこと。(計 3.5 時間)
13	北海道に住む人々の習慣・考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道人の気質・習慣・食文化・消費動向など・節分の風習アンケート 	配付資料を復習しておくこと。アンケートに回答すること。(計 4.5 時間)
14	アイヌ民族の今 北海道の疾病と特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・アイヌ民族の現状 ・北海道に多い病気・少ない病気とその要因 	配付資料を復習しておくこと。(計 3.5 時間)
15	講義のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの講義のまとめ。 	配付資料を復習しておくこと。(計 6 時間)

授業科目	法と人権 Law and Human Rights		担当教員	神元 隆賢				
対象学科・年次・学期	看護学科/栄養学科・1年次・後期		選択・必修	選択				
授業形態	講義		単位数	2単位				
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
	◎	○	◎	○				
授業目的	わが国の基礎法にしてすべての法律の根本を定義する根本規範である日本国憲法の内容は、総論、人権保障、統治機構に分けられる。この授業は、第1～11回では人権保障に関する問題をとりあげ、具体的事例を踏まえて学習することにより、社会生活を営むうえで必要な人権の基礎知識と法的思考を身につけることを目的とする。第12～14回では医療と人権に関する諸問題を学習することにより、「食」という人の健康の根本に携わる者として必要な法知識を身につけることを目的とする。							
到達目標	1.日本国憲法のうちの人権論に関する主要な判例および学説を理解したうえで、社会や世論で問題（話題）とされている事象について、現代憲法学の観点から議論をすることができる。 2.医療人としての職務と人権、そして法との関わりを、具体的な事例を通じて理解したうえで、法的・倫理的課題を克服するための一つの視角を得る。							
関連科目								
テキスト	初宿正典他「いちばんやさしい憲法入門（第6版）」（有斐閣アルマ、2020年）							
参考書	1.芦部信喜（高橋和之補訂）「憲法（第7版）」（岩波書店、2019年） 2.戸松秀典「憲法」（弘文堂、2015年）							
評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準・観点					
	試験	60	原則、この授業は対面で実施するが、コロナ禍により困難である場合にはオンライン授業で実施する。授業期間中にコロナ感染状況が変化し、対面授業とオンライン授業が切り替わった場合には、評価方法はオンライン授業のものを採用する。評価基準は、試験・レポートでは、文章の完成度と、私見を理論的に論述できるかという理論構成力を重視する。小テストでは、人権にかかる基本的知識の習得度を重視する。 【対面授業】2/3以上への出席を必要条件とし、宿題型のレポート、授業15回目に実施する小テスト、学期末の試験によって成績を評価する。評価割合は左記参照。試験を受験しなかった場合は、評価の対象としない。追試験は実施するが、レポート・小テストの提出延長はコロナ隔離等の特段の事情がなければ認めない。 【オンライン授業】授業15回目で宿題型レポートを課し、その点数のみ（100%）で評価する。レポートの提出延長はコロナ隔離等の特段の事情がなければ認めない。					
	レポート	20						
	小テスト	20						
	提出物							
その他								
履修上の留意事項	【対面授業】PowerPointと教科書を併用し、授業前日までにMicrosoft TeamsにてPowerPointデータをエクスポートしたPDFファイルを配布する。 【オンライン授業】MP4動画とPDFファイルをMicrosoft Teamsにて配布する。 担当教員への連絡はkanmoto@hgu.jpまで。							
課題に対するフィードバックの方法	レポートについてはすべてにコメントを返す。小テスト、定期試験については模範解答及び講評をMicrosoft Teamsにて後日公開する。							
実務経験を活かした教育内容								
回数（担当）	学習の主題	授業内容					事前・事後学習	
1	ガイダンス、法学入門（1）	・授業の概要、方法、成績評価方法の説明 ・法とは何か					事前：シラバスを読んでおく（30分）。事後：自分の考えをノートにまとめる（1時間30分）。	
2	法学入門（2）	・憲法、民法、刑法の機能 ・判例と学説					事前：とくになし。事後：自分の考えをノートにまとめる（2時間）	
3	外国人の権利	・外国人に参政権（選挙権、被選挙権）を認める余地はあるか					事前：テキストの「Theme2」を読む（1時間）。事後：自分の考えをノートにまとめる（1時間）。	
4	プライバシー権	・プライバシー権保護の重要性 ・名誉毀損とは「宴のあと」事件					事前：テキストの「Theme3」を読む（1時間）。事後：自分の考えをノートにまとめる（1時間）	
5	表現の自由（1）プライバシー権との調和	・名誉毀損における真実性の証明による不処罰					事前：テキストの「Theme3」と前回のレジュメ・ノートを読む（1時間）。事後：自分の考えをノートにまとめる（1時間）	

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
6	表現の自由(2) ポルノの権利	・ わいせつ文書等頒布罪 ・ 許容される性表現の限界	事前: テキストの「Theme8」を読む(1時間)。事後: 自分の考えをノートにまとめる(1時間)
7	法の下での平等	・ 平等権の意味 ・ 尊属殺人罪違憲判決事件	事前: テキストの「Theme5,6」を読む(1時間)。事後: 自分の考えをノートにまとめる(1時間)
8	信教の自由	・ 神戸高専剣道実技拒否事件 ・ オウム真理教解散命令事件	事前: テキストの「Theme7」を読む(1時間)。事後: 自分の考えをノートにまとめる(1時間)
9	生存権	・ 「健康で文化的な最低限度の生活」とは	事前: テキストの「Theme11」を読む(1時間)。事後: 自分の考えをノートにまとめる(1時間)
10	教育権	・ 家永教科書裁判 ・ 旭川学テ事件	事前: テキストの「Theme12」を読む(1時間)。事後: 自分の考えをノートにまとめる(1時間)。
11	死刑制度	・ 死刑存置論 ・ 死刑廃止論	事前: テキストの「Theme13」を読む(1時間)。事後: 自分の考えをノートにまとめる(1時間)
12	人の始期・終期	・ 胎児と人、人と死体を区別する法的基準 ・ 人はいつから「人」として法的に保護されるか	事前: とくになし。事後: 自分の考えをノートにまとめる(2時間)
13	自己決定権(1) 被害者の同意	・ 自殺、自殺関与、同意殺人(死に同意した者の殺害)の違法性 ・ 同意傷害(負傷に同意した者の傷害)における傷害罪の成否 ・ 医療行為と傷害	事前: とくになし。事後: 自分の考えをノートにまとめる(2時間)
14	自己決定権(2) 安楽死・尊厳死	死期が切迫した患者の苦痛を除去するための殺害、延命治療中止は許容されるか	事前: 前回の授業内容を復習し、安楽死・尊厳死の是非について、自分の考えを整理しておく(1時間)。事後: 自分の考えをノートにまとめる(1時間)
15	授業のまとめ	・ これまでの総括 ・ 学期末試験に向けて ・ 小テスト	事前: 授業全体を振り返って、疑問点をまとめておく(1時間)。事後: 学期末試験に向けてこれまでのノートをまとめて考えを整理する(1時間)

授業科目	生涯発達論 Lifelong Development				担当教員	安念 保昌			
対象学科・年次・学期	栄養学科・1年次・後期				選択・必修	選択			
授業形態	講義				単位数	1単位			
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6	
			◎	○					
授業目的	「個体発生は、系統発生を繰り返す」とエルンスト・ヘッケルの反復説にあるように、長い進化の中で生物はそれぞれの種で生まれては死んでゆくことを繰り返してきた。発達心理学は、その言葉通りで言えば生まれて、成長していくことに焦点を当ててきたが、世界で最先端の少子高齢化が進む日本で、心身共に成長を過ぎて、老齢期そして死を迎えるまでの人の一生をとらえる生涯発達心理学に変わってきている。子育てを通じての親子関係が、孫育ての関係に替わっていくことで、人は長寿社会を構成するようになった。こうした世代間関係の在り方をライフサイクル、世代間発達を学修する。								
到達目標	1) 発達心理学の基礎を理解する。 2) 発生から成熟までの変化を理解する。 3) 青年期から成人期までの変化を理解する。 4) 中年期から老いへの対応を理解する。 5) 毎回の内容に関するワークシートや、Miro などを利用したグループワークや簡単な実験調査などを通して体験的に理解する。 6) それを簡潔なレポートにまとめることができること。復習は、この簡潔なレポートを作成することにある。								
関連科目	心理学(栄養)								
テキスト	前もって配信される授業資料								
参考書	適宜紹介する。 西村純一・平野真理(編著)「生涯発達心理学」(ナカニシヤ出版)2019 高橋一公・中川佳子(編著)「生涯発達心理学15講」(北大路書房)2014								
評価方法・基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準・観点						
	試験	40	毎回復習として課されるワークシートにて、授業内容のエッセンスを自分のエピソード記憶と融合させ、文章化し提出してもらおう。またその総まとめとして、定期試験を行う。それらをワークシート:定期試験=6:4で評価する。						
	レポート								
	小テスト								
	提出物	60							
その他									
履修上の留意事項	前もって配信される授業資料に、授業前に目を通して、授業中は、3色ボールペンを使ってノートを取ること。主な授業内容は黒、重要な点は赤、自分で思いついた点は青で書く。								
課題に対するフィードバックの方法	授業冒頭、前回提出されたワークシートの回答にコメントしながら、復習する時間を設ける。 試験の採点后、試験問題に関して、授業の流れの中でどの部分から出たのか、またそれについて解説した文書を、Teamsで配信する。								
実務経験を活かした教育内容									
回数(担当)	学習の主題	授業内容				事前・事後学習			
1	生涯発達心理学の基礎	心とは何か：認識と精神発達、発達の意義、氏か育ちか				事前：配信される授業資料を予習する(2時間)。事後：授業後ワークシートにて復習を行う(2時間)。			
2	成長・成熟の過程	学習理論からみた発達、比較行動学による発達理論、刻印付け、生理的早産としての人間、愛着の発達理論				事前：配信される授業資料を予習する(2時間)。事後：授業後ワークシートにて復習を行う(2時間)。			
3	個体発生と乳児期の発達	胎生期、新生児の特徴、新生児微笑、乳児期の認知的発達、愛着形成、ピアジェの認知発達理論、				事前：配信される授業資料を予習する(2時間)。事後：授業後ワークシートにて復習を行う(2時間)。			
4	幼児期の機能と発達	ことばの発達、幼児期の認知発達、社会性の発達、心の理論、社会脳				事前：配信される授業資料を予習する(2時間)。事後：授業後ワークシートにて復習を行う(2時間)。			
5	児童期の発達	思考と道徳性の発達、遊びと対人関係、発達障害、ASD				事前：配信される授業資料を予習する(2時間)。事後：授業後ワークシートにて復習を行う(2時間)。			

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
6	疾風怒濤の時代	アイデンティティの獲得と危機、精神病理、キャリア発達理論	事前：配信される授業資料を予習する(2時間)。事後：授業後ワークシートにて復習を行う(2時間)。
7	家族の形成と発達	家族理論、母性と父性、世代間の連鎖	事前：配信される授業資料を予習する(2時間)。事後：授業後ワークシートにて復習を行う(2時間)。
8	中年期から老年期	ライフサイクル論、中年期の課題と危機、老年期の不適応と障害	事前：配信される授業資料を予習する(2時間)。事後：授業後ワークシートにて復習を行う(2時間)。

授業科目	人間関係論 Human Relations		担当教員	安念 保昌				
対象学科・年次・学期	栄養学科・1年次・前期		選択・必修	必修				
授業形態	講義		単位数	1 単位				
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
	◎		○	○				
授業目的	我々が日々人の中で振る舞う中に、どのような秘密が隠されているのだろうか。意識の進化の中に、自己の成り立ちを考え、さらに、対人行動を巡るあらゆる生物・生態学的制約について考察する。自己は、意識過程の様々な物語から、自ら編み上げていったものである。そのプロセスは、ある物語性を持ったゲーム空間においてなされ、一方、他者は、そうした編み上げられたゲーム上の自己を通じて、解釈される。こうしてどのような家族・社会集団が成立するのだろうか。							
到達目標	1)人間関係の基礎的な事項：自己認知、対人認知、態度、集団特性、コミュニケーション、生物心理社会モデルを理解すること。また、この分野が、社会心理学の中に置かれている、普遍的な位置づけについても理解する。 2) 社会心理学の細部の領域において、心がどのような方法論でとらえられているのか理解する。 3) 毎回の内容に関するワークシートや、Miro などを利用したグループワークや簡単な実験調査などを通して体験的に理解する。 4) 毎回の内容を自分の身近な問題として捉えることができ、それを簡潔な文章にまとめることができる。							
関連科目	心理学(栄養)							
テキスト	前もって配信される授業資料							
参考書	適宜紹介する。 石川ひろの, 他(編著)「人間関係論」〔第3版〕(医学書院) 2018 岡堂哲雄(編著)「人間関係論入門」(金子書房) 2000 北村英哉・大坪庸介(著)「進化と感情から解き明かす社会心理学」(有斐閣アルマ) 2012							
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点					
	試験	40	毎回復習として課されるワークシートにて、授業内容のエッセンスを自分のエピソード記憶と融合させ、文章化し提出してもらう。またその総まとめとして、定期試験を行う。それらをワークシート:定期試験=6:4で評価する。					
	レポート							
	小テスト							
	提出物	60						
その他								
履修上の留意事項	前もって配信される授業資料に、授業前に目を通して、授業中は、3色ボールペンを使ってノートを取る。主な授業内容は黒、重要な点は赤、自分で思いついた点は青で書く。							
課題に対するフィードバックの方法	授業冒頭、前回提出されたワークシートの回答にコメントしながら、復習する時間を設ける。試験の採点后、試験問題に関して、授業の流れの中でどの部分から出たのか、またそれについて解説した文書を、Teamsで配信する。							
実務経験を活かした教育内容								
回数(担当)	学習の主題	授業内容				事前・事後学習		
1	はじめに: 演劇と人間関係	我々は仮面 persona をかぶっているのだろうか。				事前: 配信される授業資料を予習する(2時間)。事後: 授業後ワークシートにて復習を行う(2時間)。		
2	自己と他者: 社会的自己	自己知識・自己概念 自己知覚 自己評価・自尊心の維持・自己制御 自己呈示				事前: 配信される授業資料を予習する(2時間)。事後: 授業後ワークシートにて復習を行う(2時間)。		
3	社会的認知	帰属、対人認知のメカニズム、社会的判断・推論、ステレオタイプ、偏見				事前: 配信される授業資料を予習する(2時間)。事後: 授業後ワークシートにて復習を行う(2時間)。		
4	対人関係・対人行動・対人認知	バランス理論、認知的不協和理論、社会的交換、協力と競争、援助行動、攻撃				事前: 配信される授業資料を予習する(2時間)。事後: 授業後ワークシートにて復習を行う(2時間)。		
5	コミュニケーション	言語・非言語コミュニケーション、マスコミ、CMC、ICT				事前: 配信される授業資料を予習する(2時間)。事後: 授業後ワークシートにて復習を行う(2時間)。		

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
6	集団・組織	所属・成員性、集団への同調、内集団ひいき、集団内の地位とリーダーシップ	事前：配信される授業資料を予習する(2時間)。事後：授業後ワークシートにて復習を行う(2時間)。
7	態度の機能と構造	態度の形成と機能、態度の構造と変化、態度変化のモデル、説得への抵抗	事前：配信される授業資料を予習する(2時間)。事後：授業後ワークシートにて復習を行う(2時間)。
8	社会的ジレンマ	ゲーム理論と心の理論	事前：配信される授業資料を予習する(2時間)。事後：授業後ワークシートにて復習を行う(2時間)。

授業科目	特別総合科目 Study with Extracurricular Activities		担当教員	百々瀬 いづみ 他				
対象学科・年次・学期	栄養学科・1年・通年		選択・必修	選択				
授業形態	演習		単位数	1単位				
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
	◎	○		○				
授業目的	<p>本学は、人間力を根幹とした医療人の育成という教育理念に基づき、専門職業人としての資質の向上を目指している。本科目では、学生自らが健康、社会・環境、栄養、保健医療福祉に関する課題を掲げ、課外活動に積極的に参加、学修を積み重ねることで管理栄養士としての専門科目を履修する際の基盤をつくることをねらいとする。</p>							
到達目標	<p>1) 自己の人間力を育成しかつ専門職業人としての資質向上につながる活動に計画的・主体的に参加することができる。 2) 活動内容と学びを保健医療福祉の視点から記述できる。 3) 活動を通して、専門職業人（管理栄養士）の役割について考えることができる。</p>							
関連科目	学びの理解、管理栄養士論							
テキスト	なし							
参考書	なし							
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点					
	試験		<p>評価のためには、以下の3点が必要となる。1) 学習のねらいに合致した自主的活動が授業の30時間相当あること。2) 活動がポートフォリオにまとめられていること。3) 各活動の学びがレポートにまとめられていること。提出されたポートフォリオ（上記3点含む）から総合的に評価する。詳細は、ガイダンスで説明する。</p>					
	レポート							
	小テスト							
	提出物	100						
その他								
履修上の留意事項	必ずガイダンスを受講してください。							
課題に対するフィードバックの方法	個々の課題に対して、個別にアドバイスをおこなう							
実務経験を活かした教育内容								
回数 (担当)	学習の主題	授業内容				事前・事後学習		
1	科目ガイダンス	<p>①学修のねらいと学修の進め方 ②単位認定の方法</p>						
2～15	自主的活動	各種活動とポートフォリオの作成						

授業科目	形態機能学 I Anatomy and Physiology I		担当教員	金高 有里、千葉 仁志				
対象学科・年次・学期	栄養学科・1年次・前期		選択・必修	必修				
授業形態	講義		単位数	2単位				
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
		○	○					
授業目的	人体の構造と機能について基本的な解剖学および生理学的知識を修得する。具体的には、人体の構造と構成、細胞、組織、器官についての概略を踏まえて、体液・血液、循環器系、消化器系、呼吸器系、等についての構造、機能、調節機構について学修し、栄養学との関連について理解する。							
到達目標	人体を構成する各器官の構造と機能を理解し、栄養学との関係を説明できる。							
関連科目	生化学Ⅰ, 生化学Ⅱ, 基礎栄養学, 病理学							
テキスト	栄養科学イラストレイテッド 解剖生理学 人体の構造と機能 第3版 羊土社							
参考書	「人体の構造と機能 第5版」 内田さえ、佐伯由香、原田玲子編集、医歯薬出版							
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点					
	試験	90	定期試験 (90%)、提出物 (10%) の結果により総合的に評価する。					
	レポート							
	小テスト							
	提出物	10						
その他								
履修上の留意事項	形態機能学Ⅱと一体の科目として学修すること。生化学や基礎栄養学、病理学の理解へと続く科目として学修すること。学んだことを自分の体のことと結びつけて理解すること。							
課題に対するフィードバックの方法	提出物には、評価をつけて返却する。							
実務経験を活かした教育内容	組織解剖学を取り入れた研究を進めているため、その内容を生かした授業とする。							
回数 (担当)	学習の主題	授業内容				事前・事後学習		
1 (金高)	ガイダンス	形態機能学について				テキストと配付プリントを読んでおくこと (2時間)		
2 (金高)	細胞と組織	細胞の構造と機能、組織、器官、個体、人体の基準平面				テキストと配付プリントを読んでおくこと (2時間)		
3 (金高)	運動器系 (1)	運動の仕組み、骨の構造と機能、骨格、関節				テキストと配付プリントを読んでおくこと (2時間)		
4 (金高)	運動器系 (1)	骨格筋の構造と機能、全身の骨格筋、筋収縮の仕組み				テキストと配付プリントを読んでおくこと (2時間)		
5 (金高)	皮膚・皮膚感覚	皮膚の構造、上皮組織、感覚				テキストと配付プリントを読んでおくこと (2時間)		
6 (金高)	ホメオスタシス (1)	エネルギー出納、摂食行動、エネルギー消費、発熱と熱放散、体温、エネルギー代謝異常				テキストと配付プリントを読んでおくこと (2時間)		
7 (金高)	ホメオスタシス (2)	エネルギー出納、摂食行動、エネルギー消費、発熱と熱放散、体温、エネルギー代謝異常				テキストと配付プリントを読んでおくこと (2時間)		
8 (金高)	生体防御 (1)	異物、解毒、皮膚・粘膜、自然免疫				テキストと配付プリントを読んでおくこと (2時間)		
9 (金高)	生体防御 (2)	獲得免疫				テキストと配付プリントを読んでおくこと (2時間)		
10 (千葉)	血液	血液の組成と機能、赤血球の産生と機能、白血球の種類と機能、血小板の産生と機能、血液凝固と線溶系、血液型				テキストと配付プリントを読んでおくこと (2時間)		
11 (千葉)	循環器系 (1)	血管の構造と種類、心臓の構造と機能、心臓収縮と心電図、血圧とその調節				テキストと配付 (2時間) プリントを読んでおくこと		
12 (千葉)	循環器系 (2)	体循環、肺循環、動脈、静脈、毛細血管、血圧、血流、リンパ系				テキストと配付プリントを読んでおくこと (2時間)		

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
13 (千葉)	呼吸器系 (1)	呼吸器系の概略、鼻腔・咽頭・喉頭の構造と発声のしくみ、気管と気管支の構造と特徴、肺の構造と区分、胸部 X 線写真の見方	テキストと配付プリントを読んでおくこと (2 時間)
14 (千葉)	呼吸器系 (2)	縦隔の区分、胸膜腔の構造と呼吸運動、呼吸ガス交換とガス運搬、呼吸運動の調節、呼吸機能検査	テキストと配付プリントを読んでおくこと (2 時間)
15 (金高)	まとめ	まとめと復習	テキストと配付プリントを読んでおくこと (2 時間)

授業科目	形態機能学Ⅱ Anatomy and Physiology II		担当教員	千葉 仁志				
対象学科・年次・学期	栄養学科・1年次・後期		選択・必修	必修				
授業形態	講義		単位数	2単位				
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
		○	○	◎				
授業目的	形態機能学Ⅰに引き続き、人体の構造（解剖学）と機能（生理学）を生活行動と連動させながら系統的に学習し、2年次と3年次に履修する病理学、病態診療学Ⅰ・Ⅱの基礎を支える科目とする。ここでは食物の消化と栄養素の吸収に関わる消化器系、体液の調節と尿の生成に関わる腎・泌尿器系、内臓機能の調節に関わる内分泌系、情報の受容と処理に関わる神経系と感覚器系、生殖器の正常な形態と機能について学び、ヒトの「生きる仕組み」の基本を理解する。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 上部消化管と下部消化管の構造を機能と関連づけて説明できる。 2. 肝臓・胆嚢・膵臓の構造を機能と関連づけて説明できる。 3. 泌尿器の構造を尿の生成機構および排尿調節機構と関連づけて説明できる。 4. 体液、電解質および酸塩基平衡について構成と機能を関連づけて説明できる。 5. 内分泌器官の構造を内分泌による内臓機能の調節に関連づけて説明できる。 6. 中枢神経と末梢神経の構造を機能と関連づけて説明できる。 7. 感覚器の構造を機能と関連づけて説明できる。 8. 生殖器の構造を機能と関連づけて説明できる。 							
関連科目	1年次後期に履修する基礎栄養学、2年次前期に履修する病理学、2年次後期に履修する病態診療学Ⅰ、3年次前期に履修する病態診療学Ⅱと、密接に関連する。							
テキスト	志村 二三夫, 岡 純, 山田 和彦編集, 栄養科学イラストレイテッド「解剖生理学 人体の構造と機能 第3版、羊土社。							
参考書	内田さえ、佐伯由香、原田玲子編集、人体の構造と機能 第5版、医歯薬出版。							
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点					
	試験	70%	<p>期末試験：到達目標に関する期末試験を実施し、学習到達度を評価する。学期の初めに配布する定期試験の練習問題と正解をよく学習し、定期試験の準備をすること。</p> <p>小テスト：毎回の授業終了前に、当日の授業内容に関する小テストを行う。各回、60%以上を正解した場合に合格点を与える。</p> <p>期末試験と小テストの得点合計が60%以上の場合に合格とする。</p>					
	レポート							
	小テスト	30%						
	提出物							
その他								
履修上の留意事項	教員が作成したパワーポイントの講義資料（レジュメ）に基づいて講義を行う。講義前にはレジュメを一読し、要点を把握して授業に参加すること。毎回の授業で実施する小テストに合格するには、授業に対して注意を絶やさず、授業時間内に重要事項を学修する姿勢が求められる。小テストではFORMSを使用するので、送受信ができるようにPC（あるいはタブレットやスマートフォン）を準備しておくこと。							
課題に対するフィードバックの方法	毎回の授業終了前に実施する小テストはFORMSを利用するので、解答の送信後に正解と採点結果が直ちに返送される。間違えた箇所をレジュメと教科書・参考書で確認し、理解と正しい情報の確実な記憶に務めること。それが定期試験の合格につながる。							
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、医師としての臨床経験を講義に織り交ぜながら、解剖学と生理学について身近に感じられ、理解が進むように配慮して授業を行う。							
回数 (担当)	学習の主題	授業内容			事前・事後学習			
1	消化管の構造と機能 (1)	口腔と咽頭の構造、咀嚼および嚥下機能、上部消化管の構造と機能			授業前にレジュメを一読し、要点を把握しておく。小テストで間違えた箇所を中心に、レジュメ・テキスト・参考書で復習する。(2時間)			
2	消化管の構造と機能 (2)	下部消化管の構造と機能、栄養素の消化と吸収、消化管ホルモン			授業前にレジュメを一読し、要点を把握しておく。小テストで間違えた箇所を中心に、レジュメ・テキスト・参考書で復習する。(2時間)			
3	肝臓・胆嚢・膵臓の構造と機能	肝臓の区分と多様な機能、胆嚢の構造と機能、膵臓の構造と機能			授業前にレジュメを一読し、要点を把握しておく。小テストで間違えた箇所を中心に、レジュメ・テキスト・参考書で復習する。(2時間)			

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
4	腎・尿路系の構造と機能	腎臓と尿路系の構造、尿の生成と調節機構、排尿調節機構	授業前にレジюмеを一読し、要点を把握しておく。小テストで間違えた箇所を中心に、レジюме・テキスト・参考書で復習する。(2時間)
5	体液の調節機構	水分の調節、電解質の調節、酸塩基平衡のしくみ	授業前にレジюмеを一読し、要点を把握しておく。小テストで間違えた箇所を中心に、レジюме・テキスト・参考書で復習する。(2時間)
6	内分泌系の構造と機能 (1)	ホルモンの種類と化学構造、ホルモン分泌の調節、視床下部一下垂体系、甲状腺	授業前にレジюмеを一読し、要点を把握しておく。小テストで間違えた箇所を中心に、レジюме・テキスト・参考書で復習する。(2時間)
7	内分泌系の構造と機能 (2)	副甲状腺、副腎、膵島、副腎、性腺	授業前にレジюмеを一読し、要点を把握しておく。小テストで間違えた箇所を中心に、レジюме・テキスト・参考書で復習する。(2時間)
8	神経系の構造と機能 (1)	神経系の細胞の種類と機能、神経細胞の構造と興奮のしくみ、神経筋接合部の構造と興奮の伝達	授業前にレジюмеを一読し、要点を把握しておく。小テストで間違えた箇所を中心に、レジюме・テキスト・参考書で復習する。(2時間)
9	神経系の構造と機能 (2)	脳の構造と機能、脳室と髄膜、脳脊髄液の生成と循環	授業前にレジюмеを一読し、要点を把握しておく。小テストで間違えた箇所を中心に、レジюме・テキスト・参考書で復習する。(2時間)
10	神経系の構造と機能 (3)	脊髄の構造と機能、脳神経と脊髄神経の構造と機能、	授業前にレジюмеを一読し、要点を把握しておく。小テストで間違えた箇所を中心に、レジюме・テキスト・参考書で復習する。(2時間)
11	神経系の構造と機能 (4)	自律神経系の種類と機能、脳の高次機能	授業前にレジюмеを一読し、要点を把握しておく。小テストで間違えた箇所を中心に、レジюме・テキスト・参考書で復習する。(2時間)
12	感覚器の構造と機能 (1)	眼球と眼球付属器の構造と視覚機能、対光反射と遠近調節、眼球運動と神経支配	授業前にレジюмеを一読し、要点を把握しておく。小テストで間違えた箇所を中心に、レジюме・テキスト・参考書で復習する。(2時間)
13	感覚器の構造と機能 (2)	耳の構造と聴覚および平衡覚、舌の構造と味覚、嗅上皮と嗅覚、体性感覚の種類、皮膚の構造と機能、疼痛の分類	授業前にレジюмеを一読し、要点を把握しておく。小テストで間違えた箇所を中心に、レジюме・テキスト・参考書で復習する。(2時間)
14	生殖器の構造と機能 (1)	性分化のしくみ、女性生殖器の構造と機能、男性生殖器の構造と機能	授業前にレジюмеを一読し、要点を把握しておく。小テストで間違えた箇所を中心に、レジюме・テキスト・参考書で復習する。(2時間)
15	生殖器の構造と機能 (2)	受精と発生のしくみ、定期試験についての注意	授業前にレジюмеを一読し、要点を把握しておく。小テストで間違えた箇所を中心に、レジюме・テキスト・参考書で復習する。(2時間)

授業科目	有機化学 Organic Chemistry		担当教員	津久井 隆行				
対象学科・年次・学期	栄養学科・1年次・前期		選択・必修	選択				
授業形態	講義		単位数	2単位				
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
		○		◎				
授業目的	自然の動植物や人類にとって、その生命維持や生活を支える基本としての有機化合物とは不可分の関係にある。具体的には、たんぱく質、炭水化物、脂質、ビタミンは有機化合物である。これらの構造、官能基とその反応性、立体構造等を学修する。さらに様々な有機反応について学修し、生体を構成する、あるいは生命現象に深く関与する基本的な有機化合物について理解を深め、生化学に関わる基本物質についての知識を修得し、生命現象を化学的に理解する。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 有機化学と生化学・栄養学との関連性を説明できる。 2. 有機化合物における炭素の特殊性について説明できる。 3. 炭素の基本骨格による分類とその種類・構造・名称・性質について説明できる。 4. 有機化合物の官能基の種類と物質の名称について説明できる。 5. 異性体と生体物質との関連について説明できる。 6. 栄養素を具体的に挙げの構造や特性の概略について説明できる。 							
関連科目	基礎科目（食品科学、生化学ⅠおよびⅡ、基礎栄養学）や実験系科目の基礎となる。食品衛生管理者となる資格の取得には本科目の履修が必須となる。							
テキスト	熊谷仁 他「初歩の有機化学」（アイ・ケイコーポレーション）及び、教員が作成する配布資料							
参考書	菅原二三男 監訳「マクマリー生物有機化学 生化学編」（丸善）							
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点					
	試験	70	目標の到達状況を下記の視点から評価し、60点以上を合格とする。 ①小テスト（30点） ・講義開始時に前回実施した講義内容に関する小テストを実施し、学修内容に対する理解度を評価する。 ②定期試験（70点） ・到達目標に関する定期試験を実施し、学修到達度を評価する。					
	レポート							
	小テスト	30						
	提出物							
その他								
履修上の留意事項	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業前にテキスト・配布資料の該当ページに必ず目を通し予習する。 2. 授業後にはテキスト・配布資料の該当ページを必ず復習する。 3. 演習を取り入れた双方向的授業を推進することから質疑に積極的に参加する。 							
課題に対するフィードバックの方法	小テストは終了後に解答・解説を実施する。							
実務経験を活かした教育内容								
回数 (担当)	学習の主題	授業内容			事前・事後学習			
1	有機化学とは	有機化学の定義を示し生化学・栄養学との関連について理解する。			配布資料を用いて授業内容の予習・復習をする。(2時間)			
2	有機化学の基礎：有機化合物の結合とその表し方	有機化合物の基本的な構造および構造式の表し方について学修する。			配布資料を用いて授業内容の予習・復習をする。(各2時間) 講義開始時に前回の内容に関する小テストを行う。			
3	炭素の基本骨格による分類とその種類・構造・名称・性質について	単結合炭化水素（アルカン）の種類・構造・名称・性質について学修する。			テキストおよび配布資料を用いて授業内容の予習・復習をする。(各2時間) 講義開始時に前回の内容に関する小テストを行う。			
4	炭素の基本骨格による分類とその種類・構造・名称・性質について	二重結合炭化水素（アルケン）の種類・構造・名称・性質について学修する。			テキストおよび配布資料を用いて授業内容の予習・復習をする。(各2時間) 講義開始時に前回の内容に関する小テストを行う。			

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
5	炭素の基本骨格による分類とその種類・構造・名称・性質について	三重結合炭化水素（アルキン）の種類・構造・名称・性質について学修する。	テキストおよび配布資料を用いて授業内容の予習・復習をする。 (各2時間) 講義開始時に前回の内容に関する小テストを行う。
6	炭素の基本骨格による分類とその種類・構造・名称・性質について	官能基と IUPAC 命名法について学修する。	テキストおよび配布資料を用いて授業内容の予習・復習をする。 (各2時間) 講義開始時に前回の内容に関する小テストを行う。
7	炭素の基本骨格による分類とその種類・構造・名称・性質について	代表的な有機反応について学修する。	テキストおよび配布資料を用いて授業内容の予習・復習をする。 (各2時間) 講義開始時に前回の内容に関する小テストを行う。
8	炭素の基本骨格による分類とその種類・構造・名称・性質について	環状炭化水素（芳香族化合物）の種類・構造・名称・性質について学修する。	テキストおよび配布資料を用いて授業内容の予習・復習をする。 (各2時間) 講義開始時に前回の内容に関する小テストを行う。
9	有機化合物の官能基の種類と物質の名称	官能基の種類と性質1：アルコール、エーテル、フェノールなどについて学修する。	テキストおよび配布資料を用いて授業内容の予習・復習をする。 (各2時間) 講義開始時に前回の内容に関する小テストを行う。
10	有機化合物の官能基の種類と物質の名称	官能基の種類と性質2：アルデヒド、ケトンその他について学修する。	テキストおよび配布資料を用いて授業内容の予習・復習をする。 (各2時間) 講義開始時に前回の内容に関する小テストを行う。
11	糖・アミノ酸の異性体と立体化学について	糖の D-、L-異性体と α -、 β -異性体、様々なグリコシド結合について理解する。	テキストおよび配布資料を用いて授業内容の予習・復習をする。 (各2時間) 講義開始時に前回の内容に関する小テストを行う。
12	糖・アミノ酸の異性体と立体化学について	アミノ酸の分類と化学構造について理解する。	テキストおよび配布資料を用いて授業内容の予習・復習をする。 (各2時間) 講義開始時に前回の内容に関する小テストを行う。
13	脂質の有機化学	脂質の化学構造や化学反応について理解する。	テキストおよび配布資料を用いて授業内容の予習・復習をする。 (各2時間) 講義開始時に前回の内容に関する小テストを行う。
14	核酸の有機化学	核酸の化学構造について理解する。	テキストおよび配布資料を用いて授業内容の予習・復習をする。 (各2時間) 講義開始時に前回の内容に関する小テストを行う。
15	全体のまとめ	これまでに学修した内容について振り返り、定着を図る。	テキストおよび配布資料を用いて授業内容の予習・復習をする。 (各3時間) 講義開始時に前回の内容に関する小テストを行う。

授業科目	微生物学 Microbiology		担当教員	濱岡 直裕				
対象学科・年次・学期	栄養学科・1年次・後期		選択・必修	必修				
授業形態	講義		単位数	2単位				
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
		○		◎				
授業目的	人間は様々な場面で微生物と関わりを持っていることを学修する。微生物学の歴史や分類、性質等について理解する。また、人体と有毒物質との相互関係を理解し、病原微生物の感染から発症、その防御機構について学修する。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 微生物とヒトの関わりを説明できる。 2. 微生物の種類、性質、生理と代謝について説明できる。 3. 微生物と食品の関係を説明できる。 4. 微生物と感染症について説明できる。 5. 滅菌・消毒について説明できる。 6. 微生物のバイオテクノロジー応用について説明できる。 							
関連科目	微生物学実験に強く関連する。							
テキスト	小林秀光・白石淳 編「微生物学 第3版」(化学同人)							
参考書	大橋典男編「栄養科学イラストレイテッド微生物学」(羊土社)							
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点					
	試験	70	試験、小テスト、授業中の取り組み姿勢(集中度、積極性、出席状況、授業への参加状況、態度)などにより目標の到達状況进行评估する。最終試験は最終授業時間において行う。					
	レポート							
	小テスト	20						
	提出物							
その他	10							
履修上の留意事項	各授業の前後に各1時間の予習・復習を必要とする。							
課題に対するフィードバックの方法	小テストや試験の出題は授業の中で解説する。							
実務経験を活かした教育内容								
回数(担当)	学習の主題	授業内容				事前・事後学習		
1	微生物概論	オリエンテーション、微生物の歴史				事前にテキストを予習し、後にテキストの問題で復習する(各1時間程度)。		
2	微生物基礎(1)	微生物の種類と性質(1)				事前にテキストを予習し、後にテキストの問題で復習する(各1時間程度)。		
3	微生物基礎(2)	微生物の種類と性質(2)				事前にテキストを予習し、後にテキストの問題で復習する(各1時間程度)。		
4	微生物基礎(3)	微生物の生理と代謝				事前にテキストを予習し、後にテキストの問題で復習する(各1時間程度)。		
5	食品微生物(1)	微生物と食品				事前にテキストを予習し、後にテキストの問題で復習する(各1時間程度)。		
6	食品微生物(2)	微生物を利用した食品				事前にテキストを予習し、後にテキストの問題で復習する(各1時間程度)。		
7	食品微生物(3)	微生物の機能を利用した食品				事前にテキストを予習し、後にテキストの問題で復習する(各1時間程度)。		

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
8	病原微生物 (1)	感染機構、細菌	事前にテキストを予習し、事後にテキストの問題で復習する (各 1 時間程度)。
9	小まとめと小テスト	ここまでの小まとめ、小テスト、解答解説	事前にテキストを予習し、事後に配布資料等で復習する (各 1 時間程度)。
10	病原微生物 (2)	真菌、ウイルス、原虫	事前にテキストを予習し、事後にテキストの問題で復習する (各 1 時間程度)。
11	病原微生物 (3)	新興・再興感染症	事前にテキストを予習し、事後にテキストの問題で復習する (各 1 時間程度)。
12	滅菌・消毒	滅菌法、消毒法	事前にテキストを予習し、事後にテキストの問題で復習する (各 1 時間程度)。
13	バイオテクノロジー	バイオテクノロジーと微生物	事前にテキストを予習し、事後にテキストの問題で復習する (各 1 時間程度)。
14	微生物学の応用	微生物に関する最近の話題	事前にテキストを予習し、事後にテキストの問題で復習する (各 1 時間程度)。
15	総まとめ	総括、最終試験、解答解説	事前にテキストを予習し、事後に配布資料等で復習する (各 1 時間程度)。

授業科目	微生物学実験 Microbiology Experiment		担当教員	濱岡 直裕				
対象学科・年次・学期	栄養学科・1年次・後期		選択・必修	必修				
授業形態	実験		単位数	1単位				
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
	○	○		◎			○	
授業目的	微生物学で学修する内容を基礎として、微生物学の実験技術の基礎を学修するとともに、実験を通して、微生物の特徴を理解する。微生物の観察や測定等の実験によってヒトと微生物の関わりを学び、医療現場、介護現場、食生活などにおける微生物の有用性や危険性などを理解し、管理栄養士として医療・介護の現場において必要な応用力を身につける。							
到達目標	1. 微生物を扱うための基本的技術を修得している。 2. 医療における微生物の有用性や危険性について説明できる。 3. 食品加工、食生活における微生物の有用性や危険性について説明できる。							
関連科目	微生物学に強く関連する。							
テキスト	杉山章、岸本満、和泉秀彦編「食品衛生学実験 - 安全を支える衛生検査のポイント -」(みらい) 毎回、資料を配付する							
参考書								
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点					
	試験		レポート、提出物、授業中の取り組み姿勢(授業への集中度、積極性、参加状況、授業中の受講態度)などにより目標の到達状況を評価する。					
	レポート	40						
	小テスト							
	提出物	20						
その他	40							
履修上の留意事項	実験にあたっては予習・復習を1時間程度行うこと							
課題に対するフィードバックの方法	実験レポートはコメントを付け返却する。							
実務経験を活かした教育内容								
回数(担当)	学習の主題	授業内容					事前・事後学習	
1	微生物学的基礎技術	実験の基本的注意、実験準備					テキストの該当箇所を確認し、配布資料で実験内容を整理する。	
2	菌数の測定(1)	一般生菌数の測定					テキストの該当箇所を確認し、配布資料で実験内容を整理する。	
3	菌数の測定(2)	一般生菌数の測定結果の確認					テキストの該当箇所を確認し、配布資料で実験内容を整理する。	
4	菌数の測定(3)	乳酸菌数の測定					テキストの該当箇所を確認し、配布資料で実験内容を整理する。	
5	菌数の測定(4)	乳酸菌数の測定結果の確認					テキストの該当箇所を確認し、配布資料で実験内容を整理する。	
6	菌数の測定(5)	抗菌剤の効果の評価					テキストの該当箇所を確認し、配布資料で実験内容を整理する。	
7	菌数の測定(6)	抗菌剤の効果の評価の確認					テキストの該当箇所を確認し、配布資料で実験内容を整理する。	
8	コロニー観察と染色観察(1)	落下細菌の採取、標準菌のコロニー観察					テキストの該当箇所を確認し、配布資料で実験内容を整理する。	
9	コロニー観察と染色観察(2)	落下細菌の単染色、顕微鏡観察					テキストの該当箇所を確認し、配布資料で実験内容を整理する。	
10	コロニー観察と染色観察(3)	標準菌のグラム染色、顕微鏡観察					テキストの該当箇所を確認し、配布資料で実験内容を整理する。	

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	テキストの該当箇所を確認し、配布資料で実験内容を整理する。
11	コロニー観察と染色観察(4)	標準菌、落下細菌のグラム染色、顕微鏡観察	テキストの該当箇所を確認し、配布資料で実験内容を整理する。
12	大腸菌群の検査 (1)	食品中の大腸菌・大腸菌群の検出	テキストの該当箇所を確認し、配布資料で実験内容を整理する。
13	大腸菌群の検査 (2)	大腸菌・大腸菌群の検出確認	テキストの該当箇所を確認し、配布資料で実験内容を整理する。
14	大腸菌群の検査 (3)	大腸菌の鑑別・大腸菌群の最確数	テキストの該当箇所を確認し、配布資料で実験内容を整理する。
15	全体のまとめ	プレゼンテーション	テキストの該当箇所を確認し、配布資料で実験内容を整理する。

授業科目	生化学 I Biochemistry I		担当教員	森山 隆則				
対象学科・年次・学期	栄養学科・1年次・後期		選択・必修	必修				
授業形態	講義		単位数	2単位				
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
		○		◎				
授業目的	人体を構成する細胞の構造と機能、ヒトの体を構成し外から摂取しなければならないアミノ酸、たんぱく質、糖質、脂質、核酸、酵素、ビタミン及びミネラルの化学構造と機能について学修する。生体のエネルギー源と代謝、生体酸化、酵素の性質や作用等について理解する。							
到達目標	1.アミノ酸・たんぱく質・糖質・脂質の機能を構造・性質にもとづき説明できる。 2.核酸の機能を構造・性質にもとづき説明できる。 3.酵素の定義、構成、性質、生理学的及び栄養学的意義について説明できる。 4.ビタミンの種類と機能を示し補酵素としての役割及び欠乏症について説明できる。 5.体を構成するミネラルを示し、必須なミネラルの欠乏症について説明できる。 6.糖質代謝とエネルギー産生について理解し脂質・たんぱく質との関連を説明できる。							
関連科目	生化学 II、生化学実験							
テキスト	1. 菌田淳「栄養科学イラストレイテッド 生化学 改定第 3 版」(羊土社) 2. 菌田淳「栄養科学イラストレイテッド演習版 生化学ノート 改定第 3 版」(羊土社) 3. その他、教員が作成する配布資料							
参考書	遠藤克己、三輪一智「生化学ガイドブック改定第 3 版」(南江堂)							
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点					
	試験	70	目標の到達状況を定期試験 (70%)、レポート (20%) その他 (10%) で評価する。 その他：授業時の発表、取組み姿勢					
	レポート	20						
	小テスト							
	提出物							
その他	10							
履修上の留意事項	1.授業前にテキスト・配布資料の該当ページに必ず目を通し予習する。 2.授業後にはテキスト・配布資料の該当ページを必ず復習する。 3.テキスト「生化学ノート」の課題については指示ある毎に期日内に提出する。 4.双方向的授業を推進することから質疑に積極的に参加する。							
課題に対するフィードバックの方法	レポートの課題は、翌週の授業時に返却し解説する。							
実務経験を活かした教育内容	実務経験の立場から、生体成分などの講義を織り交ぜながら、生化学について分かりやすく授業を行います。							
回数 (担当)	学習の主題	授業内容					事前・事後学習	
1	生化学とは	生化学を学ぶ目的、単位・専門用語の理解					プリント内容は必ず予習 (2 時間)・復習 (2 時間) をする。	
2	生命と細胞	生命の最小単位である細胞の構造と小器官の役割					プリント内容は必ず予習 (2 時間)・復習 (2 時間) をする	
3	たんぱく質とは	アミノ酸・たんぱく質の定義・構造式・生化学的性質					プリント内容は必ず予習 (2 時間)・復習 (2 時間) をする。	
4	たんぱく質の種類	たんぱく質の構造・機能からみた種類					プリント内容は必ず予習 (2 時間)・復習 (2 時間) をする。	
5	糖質とは	糖質の定義・構造式 (異性体)・生化学的性質					プリント内容は必ず予習 (2 時間)・復習 (2 時間) をする	
6	糖質の種類	糖質の分類 (単糖類・二糖類・多糖類)					プリント内容は必ず予習 (2 時間)・復習 (2 時間) をする。	
7	脂質とは	脂質の定義・構造式・生化学的性質					プリント内容は必ず予習 (2 時間)・復習 (2 時間) をする。	
8	脂質の種類	脂質の分類 (単純脂質・複合脂質・誘導脂質)					プリント内容は必ず予習 (2 時間)・復習 (2 時間) をする。	

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
9	核酸とは	核酸の構成、遺伝子及びたんぱく質合成との関連	プリント内容は必ず予習（2 時間）・復習（2 時間）をする。
10	酵素とは	酵素の定義・性質・生体における生理学的役割	プリント内容は必ず予習（2 時間）・復習（2 時間）をする。
11	ビタミンとは	ビタミンの化学構造、機能、分類（水溶性・脂溶性）・欠乏症	プリント内容は必ず予習（2 時間）・復習（2 時間）をする。
12	ミネラルとは	ミネラルの構造と機能、種類と欠乏症	プリント内容は必ず予習（2 時間）・復習（2 時間）をする。
13	糖質の代謝	解糖系とクエン酸回路（TCA サイクル）	プリント内容は必ず予習（2 時間）・復習（2 時間）をする。
14	糖新生	グリコーゲンの代謝とペントースリン酸回路	プリント内容は必ず予習（2 時間）・復習（2 時間）をする。
15	糖代謝の意義	解糖と糖新生の調節、脂質、たんぱく質との関連	プリント内容は必ず予習（2 時間）・復習（2 時間）をする。

授業科目	食品科学Ⅰ Food ScienceⅠ		担当教員	松川 典子				
対象学科・ 年次・学期	栄養学科・1年次・前期		選択・必修	必修				
授業形態	講義		単位数	2単位				
学科ディプロ マ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
		○	○	◎				○
授業目的	食品の分類には、生産様式、原料、主要栄養素、食習慣、その他の分類があること、また、食品の機能性について学修する。一次機能は生命維持に関わる栄養成分、二次機能は食欲や満足感に影響する嗜好成分であり、三次機能は、消化管内で作用する機能、消化管で吸収後の標的組織での生理機能調節に関わる成分であり、それぞれの特性を理解する。また新規食品やその成分が健康に与える影響や疾病予防に対する役割などを理解する。							
到達目標	1. 食品の種類と分類を説明できる。 2. 食品の機能について、成分と一次、二次、三次機能の関係を説明でき、機能を効果的に活用できる知識を修得している。 3. 食品成分の変化、成分間反応の基礎を理解し、栄養価、安全性、嗜好性などの面で適切に食品を扱う能力を身につけている。							
関連科目	食品科学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、食品科学実験Ⅰ・Ⅱ、調理学、基礎栄養学							
テキスト	中河原 俊治 編著「食べ物と健康Ⅱ 第2版 食品の機能」(三共出版)							
参考書								
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点					
	試験	80	授業内で前回の内容に関する小テスト(20%)を実施し、全体の授業内容に関連する定期試験(80%)を実施することで学習到達度を評価する。					
	レポート							
	小テスト	20						
	提出物							
その他								
履修上の 留意事項	各授業の前後に1～2時間の予習・復習を要する。授業時間ごとに不明な点は質問紙に記入、提出する。調理学や基礎栄養学などとの関連があるので、系統的な科目として学修する。							
課題に対するフィ ードバックの方法	小テストは終了後に解答・解説する。							
実務経験を 活かした教育内容								
回数 (担当)	学習の主題	授業内容				事前・事後学習		
1	食品の分類、機能	食品とは(種類、分類など)、食品成分と機能性				事前:シラバスを確認する。教科書を用いて該当部分を予習する。(1時間) 事後:教科書、配布資料を用いて授業内容を復習する。(1時間)		
2	食品の一次機能(1)	水分、炭水化物の種類と性質①				事前:教科書を用いて該当部分を予習する。(1時間) 事後:教科書、配布資料を用いて授業内容を復習する。(1時間)		
3	食品の一次機能(2)	炭水化物の種類と性質②				事前:教科書を用いて該当部分を予習する。(1時間) 事後:教科書、配布資料を用いて授業内容を復習する。(1時間)		
4	食品の一次機能(3)	炭水化物の加熱変化、たんぱく質の種類と性質①				事前:教科書を用いて該当部分を予習する。(1時間) 事後:教科書、配布資料を用いて授業内容を復習する。(1時間)		
5	食品の一次機能(4)	たんぱく質の種類と性質②、たんぱく質の変化、酵素				事前:教科書を用いて該当部分を予習する。(1時間) 事後:教科書、配布資料を用いて授業内容を復習する。(1時間)		

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
6	食品の一次機能（5）	脂質の種類と性質①	事前：教科書を用いて該当部分を予習する。(1時間) 事後：教科書、配布資料を用いて授業内容を復習する。(1時間)
7	食品の一次機能（6）	脂質の種類と性質②、脂質の変化	事前：教科書を用いて該当部分を予習する。(1時間) 事後：教科書、配布資料を用いて授業内容を復習する。(1時間)
8	食品の一次機能（7）	無機質の種類と性質	事前：教科書を用いて該当部分を予習する。(1時間) 事後：教科書、配布資料を用いて授業内容を復習する。(1時間)
9	食品の一次機能（8）	ビタミンの種類と性質	事前：教科書を用いて該当部分を予習する。(1時間) 事後：教科書、配布資料を用いて授業内容を復習する。(1時間)
10	食品の二次機能（1）	色素成分の種類と性質	事前：教科書を用いて該当部分を予習する。(1時間) 事後：教科書、配布資料を用いて授業内容を復習する。(1時間)
11	食品の二次機能（2）	呈味成分の種類と性質	事前：教科書を用いて該当部分を予習する。(1時間) 事後：教科書、配布資料を用いて授業内容を復習する。(1時間)
12	食品の二次機能（3）	香気・臭い成分の種類と性質	事前：教科書を用いて該当部分を予習する。(1時間) 事後：教科書、配布資料を用いて授業内容を復習する。(1時間)
13	食品の二次機能（4）	食品の物性とおいしさの評価	事前：教科書を用いて該当部分を予習する。(1時間) 事後：教科書、配布資料を用いて授業内容を復習する。(1時間)
14	食品の三次機能（1）	非栄養成分、生体での機能発現	事前：教科書を用いて該当部分を予習する。(1時間) 事後：教科書、配布資料を用いて授業内容を復習する。(1時間)
15	食品の三次機能（2）	疾病予防と食品成分	事前：教科書を用いて該当部分を予習する。(1時間) 事後：教科書、配布資料を用いて授業内容を復習する。(1時間)

授業科目	食品科学Ⅱ Food Science II				担当教員	板垣 康治		
対象学科・年次・学期	栄養学科・1年次・後期				選択・必修	必修		
授業形態	講義				単位数	2単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
		○	○	◎				
授業目的	日常摂取する食品を生物起源によって植物性食品、動物性食品、その他の食品に分類し、それぞれに分類される食品の種類と成分的特性について、また、それらの代表的な加工品について学修する。多様な食品の種類や成分特性に関する知識を系統的に理解する。また、食品成分表の構成と内容についても理解する。							
到達目標	1. 様々な食品の種類や機能性に関する知識を系統的に理解し、説明できる。 2. 食品の特性を食事設計や栄養教育などの管理栄養士業務に活用できる。							
関連科目	1年前期に履修した食品科学Ⅰ、2年後期に履修する食品科学Ⅲ、及び4年前期に履修する食品機能論と関連する。							
テキスト	荒川 義人 編著「食べ物と健康Ⅰ 第2版 食品の分類と成分」(三共出版)							
参考書	「日本食材百科事典」講談社編(講談社+α文庫)							
評価方法・基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準・観点					
	試験	60	定期試験、授業中の取り組み姿勢(集中度、積極性、出席状況、授業への参加状況、態度)、最終試験などにより目標の到達状況を評価する。最終試験は、第14回目の授業において行う。					
	レポート							
	最終試験	20						
	提出物							
その他	20							
履修上の留意事項	各授業の前後に2時間の予習・復習を要する。 食品科学Ⅰ、調理学の基礎を身に付け、身近にある多様な食品に関心をもって受講する。							
課題に対するフィードバックの方法	最終試験の解説を最終講義で行ったうえで、総括、まとめを行う。							
実務経験を活かした教育内容	大手食品メーカーでの勤務経験を生かして、より実践的な授業展開を図りたい。							
回数(担当)	学習の主題	授業内容					事前・事後学習	
1	人間と食品	食文化と食生活、食生活と健康、食料と環境問題					事前：関連部分をテキスト等で予習する(2時間)。事後：テキストの課題で復習する(2時間)。	
2	食品の分類と成分	食品の分類、植物性食品(1) 穀類					事前：関連部分をテキスト等で予習する(2時間)。事後：テキストの課題で復習する(2時間)。	
3	食品の分類と成分	植物性食品(2) いも類、豆類					事前：関連部分をテキスト等で予習する(2時間)。事後：テキストの課題で復習する(2時間)。	
4	食品の分類と成分	植物性食品(3) 種実類、野菜類<1>					事前：関連部分をテキスト等で予習する(2時間)。事後：テキストの課題で復習する(2時間)。	
5	食品の分類と成分	植物性食品(4) 野菜類<2>					事前：関連部分をテキスト等で予習する(2時間)。事後：テキストの課題で復習する(2時間)。	
6	食品の分類と成分	植物性食品(5) 果実類					事前：関連部分をテキスト等で予習する(2時間)。事後：テキストの課題で復習する(2時間)。	
7	食品の分類と成分	植物性食品(6) きのこと類・藻類					事前：関連部分をテキスト等で予習する(2時間)。事後：テキストの課題で復習する(2時間)。	
8	食品の分類と成分	動物性食品(1) 肉類					事前：関連部分をテキスト等で予習する(2時間)。事後：テキストの課題で復習する(2時間)。	

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
9	食品の分類と成分	動物性食品 (2) 魚介類	事前：関連部分をテキスト等で予習する (2 時間)。事後：テキストの課題で復習する (2 時間)。
10	食品の分類と成分	動物性食品 (3) 乳類	事前：関連部分をテキスト等で予習する (2 時間)。事後：テキストの課題で復習する (2 時間)。
11	食品の分類と成分	動物性食品 (4) 卵類	事前：関連部分をテキスト等で予習する (2 時間)。事後：テキストの課題で復習する (2 時間)。
12	食品の分類と成分	その他の食品 (1) 油脂類その他の食品 (2) 甘味料、調味料、香辛料、嗜好飲料その他の食品 (3) 微生物利用食品	事前：関連部分をテキスト等で予習する (2 時間)。事後：テキストの課題で復習する (2 時間)。
13	食品成分表の理解	日本食品標準成分表の概要、2020 年版 (八訂) の構成など (1)	事前：関連部分をテキスト等で予習する (2 時間)。事後：テキストの課題で復習する (2 時間)。
14	食品科学Ⅱの総括 (1)	食品科学Ⅱの総括 最終試験	事前：テキスト等で重要項目を中心に復習する (2 時間)。事後：最終試験の内容を中心に理解が不十分な箇所を再度、復習する (2 時間)。
15	食品科学Ⅱの総括 (2)	最終試験の総括とまとめ	事前：テキストを用いて重要項目を中心に確認する (2 時間)。事後：配布資料で復習する (2 時間)。

授業科目	食品科学実験Ⅰ Food Science LaboratoryⅠ		担当教員	松川 典子、津久井 隆行				
対象学科・年次・学期	栄養学科・1年次・後期		選択・必修	必修				
授業形態	実験		単位数	1単位				
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
	○	○	○	◎			○	○
授業目的	食品科学実験に関する基礎知識、基本的操作を身につけ、食品の一般成分である水分、アミノ酸、たんぱく質、糖質（単糖類、オリゴ糖、多糖類）、脂質、灰分などの定量分析および、定性分析を学修する。実験の結果をレポートに整理するとともに、食品成分の特性や食品成分表に記載されている成分値についても理解する。							
到達目標	1. 食品科学実験の基本操作を身に付けている。 2. 食品成分の特性について説明できる。 3. 食品の一般成分分析法を修得し、食品成分表の記載値の根拠を説明できる。							
関連科目	食品科学Ⅰ・Ⅱ、食品科学実験Ⅱ、基礎栄養学							
テキスト	吉田勉 監修「新しい食品学実験」（三共出版） その他にテーマごとにプリントを配布する。							
参考書	なし							
評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準・観点					
	試験		目標の到達状況をレポート（60%）、その他（40%）で評価する。 その他：授業時の実験操作を進める姿勢					
	レポート	60						
	小テスト							
	提出物							
その他	40							
履修上の留意事項	レポートは、実験テーマごとに内容（結果・考察）をまとめたものを、指定期日までに提出する。 レポート作成には、食品科学Ⅰのテキストで実験内容に該当する箇所の復習を含め2時間程度を要する。							
課題に対するフィードバックの方法	レポートは、添削し返却する。							
実務経験を活かした教育内容								
回数（担当）	学習の主題	授業内容					事前・事後学習	
1 （松川）	実験の基礎知識	ガイダンス、実験器具及びデータの取り扱い					配布プリントと実験テキスト、及び指示する食品科学関連資料で実験内容を確認する。	
2 （松川）	基礎実験（1）	糖の定性					配布プリントと実験テキスト、及び指示する食品科学関連資料で実験内容を確認する。	
3 （松川）	基礎実験（2）	たんぱく質の定性					配布プリントと実験テキスト、及び指示する食品科学関連資料で実験内容を確認する。	
4 （松川）	基礎実験（3）	有機酸の定量					配布プリントと実験テキスト、及び指示する食品科学関連資料で実験内容を確認する。	
5 （津久井）	一般成分分析（1）	水分と灰分の定量①					配布プリントと実験テキスト、及び指示する食品科学関連資料で実験内容を確認する。	
6 （津久井）	一般成分分析（2）	水分と灰分の定量②					配布プリントと実験テキスト、及び指示する食品科学関連資料で実験内容を確認する。	
7 （津久井）	一般成分分析（3）	たんぱく質の定量①					配布プリントと実験テキスト、及び指示する食品科学関連資料で実験内容を確認する。	

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
8 (津久井)	一般成分分析 (4)	たんぱく質の定量②	配布プリントと実験テキスト、及び指示する食品科学関連資料で実験内容を確認する。
9 (津久井)	一般成分分析 (5)	脂質の定量	配布プリントと実験テキスト、及び指示する食品科学関連資料で実験内容を確認する。
10 (津久井)	一般成分分析 (6)	無機質の定量	配布プリントと実験テキスト、及び指示する食品科学関連資料で実験内容を確認する。
11 (津久井)	一般成分分析 (7)	糖質の定量	配布プリントと実験テキスト、及び指示する食品科学関連資料で実験内容を確認する。
12 (松川)	一般成分分析 (8)	ビタミンの定量	配布プリントと実験テキスト、及び指示する食品科学関連資料で実験内容を確認する。
13 (松川)	でんぷんの性質	でんぷんの種類と糊化温度の違い確認	配布プリントと実験テキスト、及び指示する食品科学関連資料で実験内容を確認する。
14 (松川)	油脂の性質	油脂の性質 (融点測定・酸価の測定)	配布プリントと実験テキスト、及び指示する食品科学関連資料で実験内容を確認する。
15 (松川)	食品の色素の性質	食品に含まれる脂溶性、水溶性色素の性質確認	配布プリントと実験テキスト、及び指示する食品科学関連資料で実験内容を確認する。

授業科目	調理学 Cookery Science		担当教員	坂本 恵				
対象学科・年次・学期	栄養学科・1年次・前期		選択・必修	必修				
授業形態	講義		単位数	2単位				
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
		○	○	◎				
授業目的	人間と食品について、食文化と食生活の歴史の変遷、食生活と健康、食料と環境問題を含め理解する。さらに食物のおいしさは調理方法、個人の嗜好性、環境など様々な要因によって影響を受けていることを理解する。また、食品の備えている特性が調理過程において理化学的、組織学的、物性学的に変化することを学修し、調理理論を理解する。実践の場において、管理栄養士として栄養指導、食事管理などを行うための基礎的な知識を身につける。							
到達目標	1. 食文化と食生活の歴史の変遷、食料と環境問題、食生活と健康について説明できる。 2. 食事における調理の役割について説明できる。 3. 調理操作による食品の変化について説明できる。 4. 食文化や食習慣に配慮した食事計画と調理操作について理解している。							
関連科目	同時期に開講されている調理学実習Ⅰ、食品科学Ⅰと関連している。							
テキスト	1. 大越ひろ・高橋智子編著 「四訂 健康・調理の科学」(建帛社) 2. 八訂 食品成分表 2023 (女子栄養大学出版部)							
参考書								
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点					
	試験	60	目標の到達状況を小テスト(40%)および定期試験(60%)の結果により総合的に評価する。					
	レポート							
	小テスト	40						
	提出物							
その他								
履修上の留意事項	1.授業の中で小テストを実施する。 2.講義資料の練習問題を解き内容を理解する。							
課題に対するフィードバックの方法	小テストは、授業時に返却し解答・解説をする。							
実務経験を活かした教育内容								
回数(担当)	学習の主題	授業内容			事前・事後学習			
1	食生活の変遷	食文化と食生活の歴史の変遷、食料と環境問題			シラバスの確認、テキストと配布プリントを復習する(4時間)			
2	調理の目的	調理の目的と役割			テキスト関連部分と配布プリントを確認し内容を理解する(4時間)			
3	食事設計と健康(1)	食事の意義と役割、食事設計、食品成分表の理解と活用			テキスト関連部分と配布プリントを確認し内容を理解する(4時間)			
4	食事設計と健康(2)	対象者に適した献立作成の基本的な考え方			テキスト関連部分と配布プリントを確認し内容を理解する(4時間)			
5	食事設計と健康(3)	料理様式と食事構成			テキスト関連部分と配布プリントを確認し内容を理解する(4時間)			
6	おいしさと健康(1)	おいしさを感じるからだの仕組みと健康への影響			テキスト関連部分と配布プリントを確認し内容を理解する(4時間)			
7	おいしさと健康(2)	おいしさに関与する要因とおいしさを構成している食べ物の成分			テキスト関連部分と配布プリントを確認し内容を理解する(4時間)			
8	おいしさと健康(3)	おいしさの評価方法、食品の嗜好機能と健康			テキスト関連部分と配布プリントを確認し内容を理解する(4時間)			
9	調味と味覚	調味操作の基本、味の相互作用			テキスト関連部分と配布プリントを確認し内容を理解する(4時間)			
10	調理操作(1)	非加熱調理操作			テキスト関連部分と配布プリントを確認し内容を理解する(4時間)			

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
11	調理操作 (2)	加熱調理操作	テキスト関連部分と配布プリントを確認し内容を理解する (4 時間)
12	食品の調理特性と健康 (1)	炭水化物を多く含む食品の調理特性	テキスト関連部分と配布プリントを確認し内容を理解する (4 時間)
13	食品の調理特性と健康 (2)	たんぱく質を多く含む食品の調理特性①	テキスト関連部分と配布プリントを確認し内容を理解する (4 時間)
14	食品の調理特性と健康 (3)	たんぱく質を多く含む食品の調理特性②	テキスト関連部分と配布プリントを確認し内容を理解する (4 時間)
15	食品の調理特性と健康 (4)	ビタミン・ミネラルを多く含む食品の調理特性	テキスト関連部分と配布プリントを確認し内容を理解する (4 時間)

授業科目	調理学実習Ⅰ Cookery Science PracticumⅠ				担当教員	坂本 恵		
対象学科・年次・学期	栄養学科・1年次・前期				選択・必修	必修		
授業形態	実習				単位数	1単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
	○	○	○	◎			○	○
授業目的	調理学で学んだ理論を基礎として、食事計画から提供までの過程を体系的に学修する。調理操作における食品の化学的変化や調理技術について実習を通して修得するとともに、おいしい食事とはどのような食事なのか、またどのように提供する事が重要なのか等について考え、実践する能力や技術を身につける。さらに管理栄養士として現場において食事を提供するための留意点や安全な食事提供におけるリスク管理について、実習を通して修得する。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 食材に適した取り扱い方や調理操作ができる。 2. 調理技術を習得し日常生活で実践できる。 3. 調理機器を適切に使用することができる。 4. 衛生や安全管理を理解し、調理することができる。 							
関連科目	同時期に開講されている調理学と関連している。							
テキスト	<ol style="list-style-type: none"> 1. 松崎政三他 「調理の基礎とサイエンス」(学際企画) 2. 「調理のためのベーシックデータ第6版」(女子栄養大学出版部) 3. 八訂 食品成分表 2023 (女子栄養大学出版部) ※その他プリント配布							
参考書	大越ひろ・高橋智子編著「四訂 健康・調理の科学」(建帛社)							
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点					
	試験		実習内容に関する提出物 (50%)、小テスト (30%)、その他 (20%) の結果を総合的に評価する その他：授業時の取組み姿勢					
	レポート							
	小テスト	30						
	提出物	50						
その他	20							
履修上の留意事項	<ol style="list-style-type: none"> 1. 提出物は提出期限を守ること。 2. 実習中不明な点は必ず質問すること。 3. 食材入取等の事情により授業内容を入れ替えることがあります。 							
課題に対するフィードバックの方法	提出物にはコメントを付して返却する。							
実務経験を活かした教育内容								
回数 (担当)	学習の主題	授業内容					事前・事後学習	
1	ガイダンス	調理学実習Ⅰの目的と授業のすすめ方					事前にシラバスを読み、授業の目的、到達目標を把握しておく。	
2	調理の基本	調理に応じた野菜の切り方、包丁の安全な扱い方、食品の目安量と重量、計量方法					テキストの該当箇所を予習しておく。配布プリントを復習し提出物を作成する。	
3	日本料理 (1)	日本料理の特徴 米の調理 (炊飯)、だしの取り方、塩分濃度の測定					配布プリントを読んでおく。実習内容に関する提出物を作成する。	
4	日本料理 (2)	バランス (主食・主菜・副菜) を考えた献立実習					配布プリントを読んでおく。実習内容に関する提出物を作成する。	
5	日本料理 (3)	肉の調理、汁物調理					配布プリントを読んでおく。実習内容に関する提出物を作成する。	
6	日本料理 (4)	魚の調理、野菜の調理					配布プリントを読んでおく。実習内容に関する提出物を作成する。	
7	日本料理 (5)	魚の調理、揚げ物調理、吸油量					配布プリントを読んでおく。実習内容に関する提出物を作成する。	
8	日本料理 (6)	麺の調理、卵の調理					配布プリントを読んでおく。実習内容に関する提出物を作成する。	

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
9	日本料理 (7)	乾物を使用した調理	配布プリントを読んでおく。実習内容に関する提出物を作成する。
10	西洋料理 (1)	挽き肉調理、ゼラチンの調理	配布プリントを読んでおく。実習内容に関する提出物を作成する。
11	西洋料理 (2)	米の調理 (ピラフ)、野菜の調理	配布プリントを読んでおく。実習内容に関する提出物を作成する。
12	加工食品	加工食品を使用した調理	配布プリントを読んでおく。実習内容に関する提出物を作成する。
13	中国料理 (1)	鶏ガラスープ (湯) の取り方、肉の調理	配布プリントを読んでおく。実習内容に関する提出物を作成する。
14	中国料理 (2)	肉の調理、小麦粉の調理	配布プリントを読んでおく。実習内容に関する提出物を作成する。
15	まとめ	調理学実習Ⅰのまとめ	前回まで配布したプリントを復習する。

授業科目	調理学実習 II Cookery Science Practicum II		担当教員	坂本 恵				
対象学科・年次・学期	栄養学科・1年次・後期		選択・必修	必修				
授業形態	実習		単位数	1単位				
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
	○	○	○	◎			○	○
授業目的	調理学、調理学実習Ⅰで学修した調理理論、調理技術、安全な食事の提供などの基礎的知識に基づいて、より高度な調理技術や技能を修得し、特別な日に提供される食事などへ発展させる。具体的には季節の食材を選定した旬の料理や行事食、あるいは北海道における郷土食を取り入れた献立の調理、安全でおいしい食事の提供技能や技術を修得する。							
到達目標	1. 調理操作や盛り付けを効率よく展開することができる。 2. 食物の栄養特性や嗜好性をふまえた調理操作を理解し実践できる。 3. 食文化や食習慣に配慮した食事を提供できる力を身につけている。 4. 衛生や安全管理を理解し、食品を調理し、食事を提供することができる。							
関連科目	前期に開講された調理学、調理学実習Ⅰと関連している。							
テキスト	1. 松崎政三他「調理の基礎とサイエンス」(学際企画) 2. 「調理のためのベーシックデータ第6版」(女子栄養大学出版社) 3. 八訂 食品成分表 2023 (女子栄養大学出版社) その他プリント配布							
参考書	1. 大越ひろ・高橋智子編著 「四訂 健康・調理の科学」(建帛社)							
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点					
	試験		実習内容に関する提出物 (60%)、小テスト (30%)、その他 (10%) の結果を総合的に評価する その他：授業時の取組み姿勢					
	レポート							
	小テスト	30%						
	提出物	60%						
その他	10%							
履修上の留意事項	1. 提出物は提出期限を守ること。 2. 実習中不明な点は必ず質問すること。 3. 食材入取等の事情により授業内容を入れ替えることがあります。							
課題に対するフィードバックの方法	提出物にはコメントを付して返却する。							
実務経験を活かした教育内容								
回数 (担当)	学習の主題	授業内容				事前・事後学習		
1	ガイダンス	調理学実習 II の目的と授業のすすめ方				事前にシラバスを読み、授業の目的・到達目標を把握しておくこと。		
2	日本料理 (1)	旬の食材を使用した調理 ①				配布プリントを読んでおく。実習内容に関する提出物を作成する。		
3	日本料理 (2)	旬の食材を使用した調理 ②				配布プリントを読んでおく。実習内容に関する提出物を作成する。		
4	日本料理 (3)	北海道の郷土料理				配布プリントを読んでおく。実習内容に関する提出物を作成する。		
5	日本料理 (4)	北海道の食材を使用した調理				配布プリントを読んでおく。実習内容に関する提出物を作成する。		
6	西洋料理 (1)	世界の料理 ①				配布プリントを読んでおく。実習内容に関する提出物を作成する。		
7	西洋料理 (2)	世界の料理 ②				配布プリントを読んでおく。実習内容に関する提出物を作成する。		
8	西洋料理 (3)	世界の料理 ③				配布プリントを読んでおく。実習内容に関する提出物を作成する。		
9	中国料理 (1)	溜菜と蒸菜の調理				配布プリントを読んでおく。実習内容に関する提出物を作成する。		

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
10	中国料理 (2)	特殊材料と調味料を使用した調理	配布プリントを読んでおく。実習内容に関する提出物を作成する。
11	行事食 (1)	行事食 クリスマス料理	配布プリントを読んでおく。実習内容に関する提出物を作成する。
12	行事食 (2)	行事食 正月料理	配布プリントを読んでおく。実習内容に関する提出物を作成する。
13	行事食 (3)	行事食 ひな祭りの料理	配布プリントを読んでおく。実習内容に関する提出物を作成する。
14	献立評価	作成献立による各班での調理実習と評価	配布プリントを読んでおく。実習内容に関する提出物を作成する。
15	まとめ	調理学実習IIのまとめ	前回まで配布したプリントを復習する。

授業科目	管理栄養士論 Introduction to Registered Dietetics			担当教員	山部 秀子、岩部 万衣子、槌本 浩司、氏家志乃、渡辺 いつみ			
対象学科・年次・学期	栄養学科・1年次・前期			選択・必修	必修			
授業形態	講義			単位数	1単位			
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
	◎		◎	○				
授業目的	管理栄養士に必要な能力を養成する学修体系の理解と学修目標を明確にし、社会的・職業自立に関する導入科目である。管理栄養士の使命や役割、さらに専門職として不可欠な職業意識、倫理観について学修する。また、管理栄養士として栄養管理を実践していくために、自らの食生活を題材として、分析を行う。これらの授業から理想とする管理栄養士像を明確にする。							
到達目標	1. 管理栄養士の社会的使命や役割について理解している。 2. 管理栄養士の仕事、職業意識、倫理観について理解している。 3. 自分の食生活の内容について理解している。 4. 自分の目標とする管理栄養士について説明することができる。							
関連科目	学びの理解							
テキスト	資料を配布する							
参考書	授業内で説明する							
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点					
	試験		目標の到達状況を下記の点から評価、60点以上を合格とする。					
	レポート	60	① 課題レポート(60点) ・自らの食生活について正しく理解できていること ・管理栄養士の職務や役割を理解できていること					
	小テスト		②その他(40点) ・課題の考察をおこなうなど積極的な成果を評価する					
	提出物 その他	40	・授業中の積極的な態度、取り組み姿勢を評価する					
履修上の留意事項	管理栄養士の職域は広いので、現場で働く先生の講義は貴重である。積極的に授業に参加して理解を深め、授業を聴く態度は本学学生としての資質が試される場でもあることを自覚して臨む。 特別講師の先生については授業の順序が入れ替わることがある。 事前事後学習については、それぞれ1時間程度とする。							
課題に対するフィードバックの方法	課題の解説を次の授業で実施する							
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から管理栄養士のあり方について理解できる授業を行います。							
回数(担当)	学習の主題		授業内容			事前・事後学習		
1 (山部・岩部)	ガイダンス		授業への取組 管理栄養士の社会的役割 ポートフォリオについて			将来、管理栄養士としてどうなりたいか、考えておく		
2 (山部・岩部)	自己の食生活分析①		自分は何をどれだけ食べているのか考え、食事記録をしてみよう			普段の食生活について考えてみる		
3 (山部・岩部)	自己の食生活分析②		その食事記録を栄養計算してみよう			普段の食生活について考えてみる		
4 (山部・岩部)	自己の食生活分析③		食事記録を分析して評価してみよう			普段の食生活について考えてみる		
5 (槌本・渡辺・氏家)	管理栄養士とは		専門職者として働くということ			インターネットなどで、管理栄養士がどこで働いているか調べてみる		
6 (山部・岩部)	現場における管理栄養士の実態		社会で活躍する管理栄養士の仕事内容について ※特別講師(2名)			インターネットなどで、菅絵里栄養士の業務について調べてみる		

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
7 (山部・ 岩部)	栄養教育の実践	先輩から食事記録をもとに模擬栄養教育を受けて正しい食事摂取を学ぼう	資料を基に、正しい食事とは何か考える
8 (山部・ 岩部)	まとめ	なりたい管理栄養士とは	自分の未来について考えてみる

授業科目	基礎栄養学 Basic Nutrition		担当教員	松川 典子				
対象学科・年次・学期	栄養学科・1年次・後期		選択・必修	必修				
授業形態	講義		単位数	2単位				
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
				◎				
授業目的	栄養とは何か、栄養の概念、栄養学の歴史について学修する。また、食物の摂取に関連する摂食調節、消化・吸収について理解する。栄養素の体内動態や消化吸収、生物学的利用、たんぱく質、糖質、脂質の栄養や体内代謝、ビタミン、ミネラルの栄養学的機能について理解する。さらに、水・電解質の栄養的意義について理解する。							
到達目標	1. 栄養、栄養素の概念と意義を説明できる。 2. 摂食行動とその調節の仕組みについて説明できる。 3. 各栄養素の消化吸収及び代謝のメカニズム、他の栄養素との関係を説明できる。							
関連科目	基礎栄養学実験、生化学Ⅰ・Ⅱ、形態機能学Ⅰ・Ⅱ、病態診療学Ⅰ・Ⅱ							
テキスト	川端輝江著「基礎栄養学 栄養素のはたらきを理解するために」(アイ・ケイコーポレーション)							
参考書	奥恒之、柴田克己編「基礎栄養学」(南江堂)							
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点					
	試験	70	課題(学習シート)の提出状況(10%)、授業内で前回の内容に関する小テストの実施(20%)、全体の授業内容に関する定期試験(70%)の実施によって学習到達度を評価する。					
	レポート							
	小テスト	20						
	提出物	10						
その他								
履修上の留意事項	各回の授業内容を参照し、予習してから授業に臨むこと。							
課題に対するフィードバックの方法	小テストは、終了後に解答・解説する。課題は、添削し返却する。							
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、栄養学の基礎知識に新しい知見も加えながら栄養素の機能や体内動態について理解しやすいよう講義を行います。							
回数(担当)	学習の主題	授業内容			事前・事後学習			
1	栄養学の概念	栄養の定義、栄養と病気、栄養素の種類と働き			事前：シラバスの確認と教科書の該当部分を予習する。(1時間) 事後：教科書、配布資料、学習シートを用い復習する。(1時間)			
2	摂食行動	空腹感と食欲、栄養感覚、食事のリズムとタイミング			事前：教科書の該当部分を予習する。(1時間) 事後：教科書、配布資料、学習シートを用い復習する。(1時間)			
3	消化・吸収(1)	消化器系の構造と機能、消化吸収の基本概念			事前：教科書の該当部分を予習する。(1時間) 事後：教科書、配布資料、学習シートを用い復習する。(1時間)			
4	消化・吸収(2)	消化調節、膜消化・吸収			事前：教科書の該当部分を予習する。(1時間) 事後：教科書、配布資料、学習シートを用い復習する。(1時間)			
5	たんぱく質の栄養(1)	たんぱく質・アミノ酸の体内代謝			事前：教科書の該当部分を予習する。(1時間) 事後：教科書、配布資料、学習シートを用い復習する。(1時間)			
6	たんぱく質の栄養(2)	たんぱく質と他の栄養素との関係			事前：教科書の該当部分を予習する。(1時間) 事後：教科書、配布資料、学習シートを用い復習する。(1時間)			

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
7	糖質の栄養 (1)	糖質の体内代謝、血糖値とその調節	事前：教科書の該当部分を予習する。(1時間) 事後：教科書、配布資料、学習シートを用い復習する。(1時間)
8	糖質の栄養 (2)	糖質のエネルギー源としての作用、他の栄養素との関係	事前：教科書の該当部分を予習する。(1時間) 事後：教科書、配布資料、学習シートを用い復習する。(1時間)
9	脂質の栄養 (1)	脂質の体内代謝、貯蔵エネルギーとしての作用	事前：教科書の該当部分を予習する。(1時間) 事後：教科書、配布資料、学習シートを用い復習する。(1時間)
10	脂質の栄養 (2)	コレステロール代謝の調節、摂取する脂質の量と質の評価、他の栄養素との関係	事前：教科書の該当部分を予習する。(1時間) 事後：教科書、配布資料、学習シートを用い復習する。(1時間)
11	ビタミンの栄養 (1)	ビタミンの構造と機能、代謝と栄養学的機能、脂溶性ビタミン	事前：教科書の該当部分を予習する。(1時間) 事後：教科書、配布資料、学習シートを用い復習する。(1時間)
12	ビタミンの栄養 (2)	水溶性ビタミン、ビタミンの相対生体利用率、他の栄養素との関係	事前：教科書の該当部分を予習する。(1時間) 事後：教科書、配布資料、学習シートを用い復習する。(1時間)
13	ミネラルの栄養	ミネラルの分類と機能、他の栄養素との関係	事前：教科書の該当部分を予習する。(1時間) 事後：教科書、配布資料、学習シートを用い復習する。(1時間)
14	水・電解質の栄養	水の出納・体内調節、電解質の代謝	事前：教科書の該当部分を予習する。(1時間) 事後：教科書、配布資料、学習シートを用い復習する。(1時間)
15	エネルギー代謝	エネルギー代謝の概念、エネルギー消費量およびその測定法	事前：教科書の該当部分を予習する。(1時間) 事後：教科書、配布資料、学習シートを用い復習する。(1時間)

授業科目	食育農場演習 Seminar in Food Education and Farming		担当教員	百々瀬 いづみ				
対象学科・年次・学期	栄養学科・1年次・通年		選択・必修	選択				
授業形態	演習		単位数	1単位				
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
	○		○	◎				
授業目的	札幌伝統野菜並びに北海道を代表とする作物の栽培・収穫・加工・販売の一連の流れを経験し、伝統野菜の地域にまつわる背景や、作物の栄養学的特徴、加工特性といった食育へ展開する上で必要となる基本的な知識・技術を修得する。また、栽培に係る農作業の大変さを体験することで食物を大切にすることを育む。							
到達目標	1. 札幌伝統野菜や北海道を代表とする作物の歴史的背景について説明できる。 2. 収穫した作物の特徴を活かしたレシピの考案が出来る。 3. 収穫した作物の品種の特徴や食品成分上における特徴について説明できる。 4. 上記1～3について適切な媒体を作成し食育へ展開する技能を身につける。							
関連科目	同時期に実施している食品科学Ⅰや調理学の知識と関連する。							
テキスト	なし ※適宜プリントを配布する。							
参考書	必要に応じて、授業内で紹介する。							
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点					
	試験		目標の到達状況を提出物・授業態度により総合的に評価する。 ・提出物 (50%)：レシピ・生育記録 ・授業態度 (50%)：演習内活動への取り組みの姿勢					
	レポート							
	小テスト							
	提出物	50						
その他	50							
履修上の留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・農作業にあたっては各自汚れても良い服装、靴（長靴推奨）を準備すること。 ・基本的な農作業に関しては担当教員より指導するが、作物の日常管理（除草や水やり等）は各自で行う。 ・天候や生育状況により、授業内容が前後もしくは変更となる場合がある。 ・履修人数によっては、グループ分けをして活動を行う場合がある。 							
課題に対するフィードバックの方法	提出物に関しては、授業の中でコメントや解説、改善指導等を行う。							
実務経験を活かした教育内容	地域で食育、栄養教育を行ってきた実務経験を活かして、農作物の栽培・収穫・加工・販売の一連の流れを体験できるようサポートしていきます。							
回数 (担当)	学習の主題	授業内容					事前・事後学習	
1	ガイダンス	農作業にあたっての栽培基礎解説、栽培作物の品種的特徴、栽培スケジュール、収穫物の活用に関する説明を行う。					復習として配布プリントを熟読しておくこと(1時間)	
2	栽培準備	農作業に使用する器具の使用方法や注意点に関して説明を行う。栽培予定地の土壌を採取し、pHの測定を行い、石灰の散布量を算出する。また、栽培面積を元に必要肥料量を算出する。					復習として配布プリントを熟読しておくこと(1時間)	
3・4	栽培開始 収穫物の特徴を活かした レシピの立案	畝立てやマルチングを行い、播種または定植作業を行う。また、収穫物の特徴を活かしたレシピの作成を行う。					復習として配布プリントを熟読しておくこと(1時間)	
5	田植え	田植え作業を行い、主要穀物の1つである「米」の生産過程について理解を深める。尚、水田へは大学バスを利用する。					復習として配布プリントを熟読しておくこと(1時間)	
6～8	栽培管理・収穫物を使用した加工品の試作・媒体作成	栽培する農作物の特性に従って管理（間引き、追肥等）を行う。また、収穫物の特徴を活かしたレシピを元に試作を行い、販売にあたって必要な媒体の作成等を行う。					復習として配布プリントを熟読しておくこと(各1時間)	
9	収穫①	収穫適期を迎えた作物の収穫、選別、保存する上で必要な下処理を行う。収穫作業後、残渣をきれいに取り除き、堆肥場への移動を行う。					復習として配布プリントを熟読しておくこと(1時間)	
10	稲刈り	稲刈り作業を行い、主要穀物の1つである「米」の生産過程について理解を深める。尚、水田へは大学バスを利用する。					復習として配布プリントを熟読しておくこと(1時間)	

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
11	収穫②	収穫適期を迎えた作物の収穫、選別、保存する上で必要な下処理を行う。収穫作業後、残渣をきれいに取り除き、堆肥場への移動を行う。	復習として配布プリントを熟読しておくこと(1時間)
12~14	収穫物の特徴を活かしたレシピの調理・販売	収穫物の特徴を活かしたレシピの作成し、レシピを元に調理し、調理加工品の販売を行う。	復習として配布プリントを熟読しておくこと(各1時間)
15	まとめ・振り返り	食育農場演習全体のまとめと、各自の実践状況の振り返りや学んだ内容の確認を行う。	復習として配布プリントを熟読しておくこと(1時間)

授業科目	地域連携ケア論Ⅰ Theory of Community-based CareⅠ				担当教員	槌本 浩司、澤田 優美、氏家 志乃、小川 克子			
対象学科・年次・学期	看護学科/栄養学科・1年次・後期				選択・必修	必修			
授業形態	講義				単位数	1単位			
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6	
	○	○	○			○	○		
授業目的	「地域連携ケア論Ⅰ～Ⅳ」では、1～4年次を通じて、地域の生活と健康との関連、地域の健康課題と社会資源、保健医療福祉チームに係る他職種の理解と連携方法、事例からの学びを通して管理栄養士の専門性や役割理解を深めることを目的とする。そのうち、1年次の本科目では、地域で生活するさまざまな健康レベル、発達段階にある人々に話を聞く、または関わることから、地域で生活する人々が持つ個性や多様性を理解する。同時に、その人々の生活にどのようなことが影響を及ぼしているかを社会的要因も含めて考える。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 生活や地域の捉え方を学び、地域で生活する人々の個性や多様性を理解する。 地域で生活する人々の健康や生活には、地域の自然環境や文化・社会的な要素が影響していることを理解する。 地域で生活する人々が抱える生活や健康上の課題を地域の特性と関連づけて理解できる。 								
関連科目	これまで既習の全ての教科目と関連する。								
テキスト	なし								
参考書	開講時に提示する。								
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点						
	試験		各回、授業内容に応じた提出物（40％）を予定しています。また、目標の達成状況をレポート（60％）に記載しましょう。詳細は授業の中でも説明します。						
	レポート	60							
	小テスト								
	提出物	40							
その他									
履修上の留意事項	自分の生活と結びつけながら理解すること。								
課題に対するフィードバックの方法	各講義での提出物については次の講義内で全体にフィードバックを行う。また、最終レポートに関しては、フィードバック内容を記載し返却する。								
実務経験を活かした教育内容	地域で実務経験のある教員が、経験を基に分かりやすく講義の展開を行う。								
回数 (担当)	学習の主題	授業内容						事前・事後学習	
1 (槌本)	授業ガイダンス	授業ガイダンス。グループワークの進め方「生活」とは						授業前にシラバスを読む(1時間)。授業後には、配付資料を確認し、内容を復習する(2時間)。	
2 (槌本)	生活者とはⅠ	生活を構造的に考えてみよう(自分を知る、家族を知る)						授業前に前回の学習内容を復習する(1時間)。授業後には、内容を復習する(2時間)。	
3 (小川)	生活者とはⅡ	生活成立要件と健康について考えよう						授業前に前回の学習内容を復習する(1時間)。授業後には、内容を復習する(2時間)。	
4 (氏家)	地域で暮らす生活者らの講話Ⅰ	「町内で暮らす生活とは」(ゲストスピーカー モエレ町内会 副会長)						授業前に前回の学習内容を復習する(1時間)。授業後には、内容を復習する(2時間)。	
5 (氏家)	地域で暮らす生活者らの講話Ⅱ	「丘珠まちづくりセンターの役割と地域で暮らす人の生活」(ゲストスピーカー 丘珠まちづくりセンター 所長)						授業前に前回の学習内容を復習する(1時間)。授業後には、内容を復習する(2時間)。	
6 (澤田)	健康な生活に影響を及ぼす社会的要因とはⅠ	地域で暮らし続けるために必要な要件について気づきの共有(その1)						授業前に前回の学習内容を復習する(1時間)。授業後には、内容を復習する(2時間)。	

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
7 (小川)	健康な生活に影響を及ぼす社会的要因とは II	地域で暮らし続けるために必要な要件について気づきの共有 (その2)	授業前に前回の学習内容を復習する (1時間)。授業後には、内容を復習する (2時間)。
8 (澤田)	健康な生活に影響を及ぼす社会的要因とは III	地域で暮らし続けるために必要な要件について気づきの共有 (その3)	授業前に前回の学習内容を復習する (1時間)。授業後には、内容を復習する (2時間)。